

# 中袋遺跡

## 発掘調査報告書

2002

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

なか ぶくろ

# 中 袋 遺 跡

## 発掘調査報告書

平成14年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

## 序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、中袋遺跡の調査結果をまとめたものです。

中袋遺跡は、天童市の南部の高齢地区にあります。立谷川扇状地の扇端部にあたるこの地は、水量も豊富で、水田の広がる農業地帯です。

この度、日本道路公団の東北中央自動車道相馬～尾花沢線の建設工事にともない、高速道路予定地にかかる中袋遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、平安時代の掘立柱建物跡4棟、大型の土器捨場溝跡などの集落跡を示す遺構が見つかっています。遺跡からは石帶・風字硯・耳皿などの特殊な性格を持つ遺物も出土しています。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成14年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
理事長 木 村 宰

## 例　　言

1 本書は、日本道路公団東北中央自動車道相馬～尾花沢線にかかる「中袋遺跡」の発掘調査報告書である。

2 調査は日本道路公団の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

3 調査要項は下記のとおりである。

遺　跡　名 中袋遺跡 遺跡番号 平成2年度登録

所　在　地 山形県天童市大字高齋字中袋

調　査　主　体 財団法人山形県埋蔵文化財センター

受　託　期　間 平成9年9月1日～平成14年3月31日

現　地　調　査 (第1次調査) 平成9年9月29日～10月29日(3日間)

(第2次調査) 平成10年8月17日～平成10年11月13日(54日間)

調査担当者 (第1次調査) 調査第一課長 佐藤庄一(平成9年度)

主任調査研究員 佐藤正俊(現調査第三課長)

調査研究員 鈴木良仁

調　査　員 長瀬えみ子

調　査　員 須賀井明子

調　査　員 斎藤健洋

(第2次調査) 調査第一課長 佐藤庄一(平成10年度)

主任調査研究員 佐藤正俊(現調査第三課長)

調査研究員 森谷昌央(調査主任)

調　査　員 稲村圭一

整　理　期　間 平成9年11月1日～平成14年3月31日

整理担当者 調査第三課長 佐藤正俊

調査研究員 森谷昌央

4 発掘調査および本書を作成するあたり、日本道路公団東北支社山形工事事務所、山形県教育庁社会教育課文化財保護室、天童市教育委員会、東南村山教育事務所等関係機関に協力をいただいた。

5 本書の作成・執筆は、森谷昌央、黒坂広美が担当した。編集は須賀井新人・松田道雄が担当し、全体については、佐藤正俊が監修した。

6 委託業務は下記のとおりである。

遺構写真実測 アジア航測株式会社

理化学資料分析 株式会社古環境研究所

7 出土遺物、調査記録類等は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

## 凡　例

1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は次のとおりである。

S T…堅穴住居跡	S K…土坑	S X…性格不明遺構
E P…遺構内ピット	E K…遺構内土坑	E L…遺構内炉跡
R P…登録土器・土製品	R Q…登録石器・石製品	
P…土器	S…石・礫	

2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。中には整理作業中に改めて番号を付した遺構もあるが、その番号は現地調査時の最終遺構番号より後になるように付している。

3 報告書執筆基準は下記のとおりである。

- (1) 遺構概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。
- (2) グリッドの南北軸は、真北に対してN-18.5°-Eを測る。
- (3) 遺構実測図は1/40・1/80の縮尺で採録し、各々スケールを付した。なお、実測図中の●は遺物の出土地点を表す。遺構内の遺物出土状況については遺物の出土地点になるべく遺物実測図及び遺物番号をあわせて表記するようにした。ただし小破片や類例が既出で重要でないものについては遺物番号のみを、また出土位置が明確でないものでも重要と思われるものについては遺構内出土として記載している。なお遺構実測図に併記した遺物実測図のスケールは任意であるが、ほぼ1/5に近い縮尺で掲載してある。
- (4) 遺物実測図・拓影図は、原則的に1/3で採録し、各々スケールを付した。
- (5) 遺物実測図中で断面が黒ベタのものは須恵器、白ヌキのものは土師器を表している。
- (6) 遺物図版については1/3を原則としたが、一部任意の縮尺となっているものもある。
- (7) 本文中の遺物番号は、遺構平面図・遺物実測図・遺物観察表・遺物図版とも共通した番号を使用している。遺物番号は挿図毎に1から番号を付しており、挿図第○図の△番という意味で「○-△」と表記している。
- (8) 遺物観察表中の（ ）内の数値は、図上復元による推計値または残存値を示している。また表中の遺物の分類・底径指數・器高指數・外傾度については須恵器坏・高台付坏、土師器坏・高台付坏・皿などの全形の分かるもの若しくは推計できるもののみ表記している。
- (9) 遺構覆土の色調については、1987年度農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に掲った。

# 目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経緯	1
2 調査の経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	3
III 遺跡の概要	
1 遺跡の層序	6
2 遺構・遺物の分布	6
IV 検出された遺構	9
V 出土した遺物	
1 奈良・平安時代の須恵器坏・土師器坏	28
2 奈良・平安時代のその他の遺物	35
3 その他の時代の遺物	37
VI まとめ	81
報告書抄録	82

## 表

第1表 遺物分類表	第7表 遺物観察表3
第2表 中袋遺跡	第8表 遺物観察表4
須恵器坏・土師器坏指數グラフ	第9表 遺物観察表5
第3表 中袋遺跡及び他遺跡の 器種別指數グラフ	第10表 遺物観察表6
第4表 須恵器坏・土師器坏の時期対応表	第11表 遺物観察表7
第5表 遺物観察表1	第12表 遺物観察表8
第6表 遺物観察表2	第13表 遺物観察表9

## 挿 図

第1図 遺跡概要図	2	第27図 土器実測図(8)	
第2図 遺跡位置図	4	S K 2出土土器2	46
第3図 遺構配置図	7	第28図 土器実測図(9)	
第4図 S B581掘立柱建物跡	10	S D 5出土土器1	47
第5図 S B582・S B600掘立柱建物跡	11	第29図 土器実測図(10)	
第6図 S B583掘立柱建物跡	12	S D 5出土土器2	48
第7図 S K 1土坑跡	14	第30図 土器実測図(11)	
第8図 S K 1土坑遺物出土状況	15	S X 12出土土器1	49
第9図 S K 2及び遺物出土状況	16	第31図 土器実測図(12)	
第10図 S K 3・S K68土坑跡	17	S X 12出土土器2	50
第11図 S K14及び遺物出土況	19	第32図 土器実測図(13)	
第12図 土坑・柱穴遺構図	20	S X 12出土土器3	51
第13図 S D 5・6溝跡遺構図	22	第33図 土器実測図(14)	
第14図 S X 4遺構図	23	S K 14出土土器1	52
第15図 S X 12及び遺物出土況	25	第34図 土器実測図(15)	
第16図 S X 102他遺構図	26	S K 14出土土器2	53
第17図 S X 遺構図	27	第35図 土器実測図(16)	
第18図 遺物分類図	31	S X 102出土土器	54
第19図 遺物計測値模式図	48	第36図 土器実測図(17)	
第20図 土器実測図(1)		遺構出土土器1	55
S K 1出土土器1	39	第37図 土器実測図(18)	
第21図 土器実測図(2)		遺構出土土器2	56
S K 1出土土器2	40	第38図 土器実測図(19)	
第22図 土器実測図(3)		遺構出土土器3	57
S K 1出土土器3	41	第39図 土器実測図(20)	
第23図 土器実測図(4)		遺構出土土器4	58
S K 1出土土器4	42	第40図 土器実測図(21)	
第24図 土器実測図(5)		遺構出土土器5	59
S K 1出土土器5	43	第41図 土器実測図(22)	
第25図 土器実測図(6)		遺構出土土器6	60
S K 1出土土器6	44	第42図 土器実測図(23)	
第26図 土器実測図(7)		遺構出土土器7	61
S K 2出土土器1	45	第43図 土器実測図(24)	
		遺構出土土器8	62

第44図	土器実測図(25) 遺構出土土器9	63
第45図	土器実測図(26) 遺構出土土器10	64
第46図	土器実測図(27) 遺構出土土器11	65
第47図	土器実測図(28) グリッド出土土器1	66
第48図	土器実測図(29) グリッド出土土器2	67
第49図	土器実測図(30) グリッド出土土器3	68
第50図	土器実測図(31) グリッド出土土器4	69
第51図	土器実測図(32) グリッド出土土器5	70
第52図	土器実測図(33) 陶磁器・土製品・石製品	71

## 図 版

図版1	遺跡全景(1)
図版2	遺跡全景(2)
図版3	遺構(1)
図版4	遺構(2)
図版5	遺構(3)
図版6	遺構(4)
図版7	遺構(5)
図版8	遺構(6)
図版9	遺構(7)
図版10	遺物(1) S K 1 出土遺物1
図版11	遺物(2) S K 1 出土遺物2
図版12	遺物(3) S K 1 出土遺物3
図版13	遺物(4) S K 1 出土遺物4
図版14	遺物(5) S K 1 出土遺物 · S K 2 出土遺物1
図版15	遺物(6) S K 2 出土遺物2 · S D 5 出土遺物1

図版16	遺物(7) S D 5 出土遺物2
図版17	遺物(8) S X12 出土遺物1
図版18	遺物(9) S X12 出土遺物2
図版19	遺物(10) S X14 出土遺物1
図版20	遺物(11) S X14 出土遺物2 · S X102他出土遺物
図版21	遺物(12) 遺構出土遺物1
図版22	遺物(13) 遺構出土遺物2
図版23	遺物(14) 遺構出土遺物3
図版24	遺物(15) 遺構出土遺物4
図版25	遺物(16) 遺構出土遺物5
図版26	遺物(17) 遺構出土遺物6 · 包含層出土遺物1
図版27	遺物(18) 包含層出土遺物2
図版28	遺物(19) 包含層出土遺物3 陶磁器・灰釉陶器・石製品他

## I 調査の経緯

### 1 調査に至る経緯

この度の中袋遺跡の発掘は、日本道路公団による東北中央自動車道相馬～尾花沢線（上山～東根間）の建設工事に伴うものである。

山形県教育委員会は、この事業に伴って平成2年度から計画路線周辺の遺跡の分布調査を行ってきた。その調査結果に基づいて埋蔵文化財の取り扱いについて日本道路公団と協議を行い、財団法人山形県埋蔵文化財センターが日本道路公団の委託を受けて、平成9年度に予備調査（第1次調査）を実施した。これにより当該地区が平安時代の聚落跡であることが確認された。平成10年度は遺跡範囲のうち8,100m<sup>2</sup>調査し、記録保存を行った。

発掘調査に至るまでの協議などは以下の通りである。

- ◆日本道路公団東北支社管理課長より山形県埋蔵文化財センター調査第一課長あてに「平成10年度埋蔵文化財発掘調査に係る費用積算調書の作成」の依頼（H10/1/19）
- ◆山形県埋蔵文化財センター理事長より日本道路公団東北支社長あてに、発掘調査を実施すること及び経費見積もりの回答（H10/2/10）
- ◆日本道路公団東北支社長より山形県埋蔵文化財センター理事長あてに、「東北中央自動車道相馬・尾花沢線（上山～東根間）建設に伴う平成10年度の埋蔵文化財発掘調査の依頼（H10/4/1）
- ◆日本道路公団東北支社と山形県埋蔵文化財センターが、「埋蔵物発掘調査業務の委託契約」を締結（H10/4/1）

### 2 調査の経過

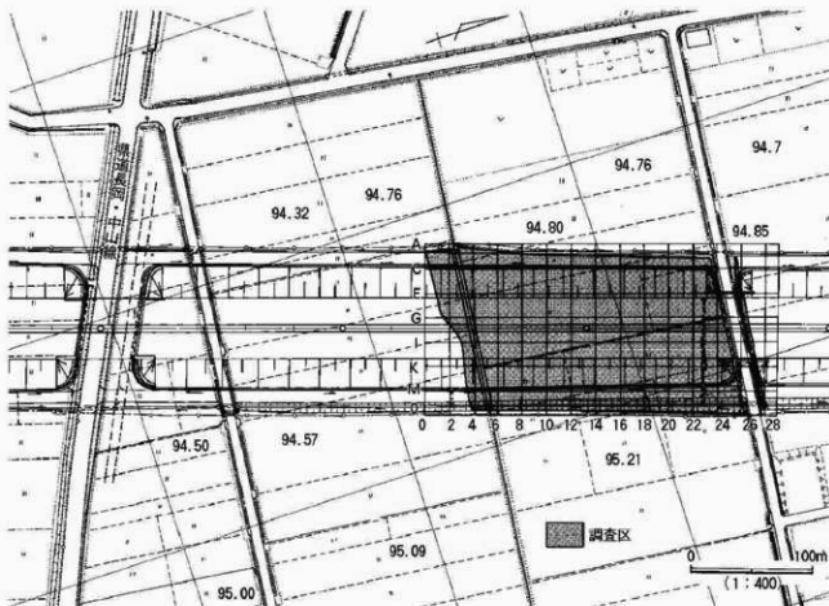
発掘調査は、平成10年8月17日から11月13日まで実働日数54日間で行い、調査面積は8,100m<sup>2</sup>である。

発掘調査は当初中袋遺跡より約200m南に位置する砂子田遺跡の調査終了後の10月から行う予定であった。砂子田遺跡の発掘調査が7月から約1ヶ月の予定で行われたが、その遺構検出の結果、予定されていたよりも遺物数も面積も大きく拡大することが明らかになった。これにより中袋遺跡の調査時期及び体制も変更せざるを得ない状況となり、中袋遺跡の表土除去と遺構検出を10月調査開始予定から8月中旬に繰り上げることとなった。まず中袋遺跡と砂子田遺跡の今後の発掘調査の工程を再検討するために遺構検出を行い、正確な遺構数及び分掛りを出すことになった。また中袋遺跡の担当班が砂子田遺跡の担当班と同一であったため、調査を同時並行するにあたり、調査員・作業員を増員した。

先ず、8月19日に重機を導入して、中袋遺跡の表土除去を行った。その後8月25日から遺構検出面の面整理を行い、遺構の検出に努めた。遺跡の南半は泥炭質で、表土除去の段階から水が湧き、遺構検出の際にも遺構・遺物検出は皆無に近かった。このため遺跡南半は遺跡の範囲から除外し、最低限必要な調査を行うに止めた。

その後検出された遺構のマーキング・遺構配置図の作成・遺構番号の登録を行い、遺構の分布状況を確認した。その結果、遺跡の主体部は調査区（高速道路予定地）より西側に存し、調査区は遺跡の主体から大きく外れていることが判明した。この結果により中袋遺跡と砂子田遺跡を同時並行する目処が立ち、中袋遺跡についてはそのまま本調査に移行することとなった。その後グリッドを設定し、検出した遺構の精査を行い、土の堆積状況・土器の分布状況を記録した後、遺構を完掘した。こうして遺跡の発掘調査は11月13日で終了した。発掘調査終了後の11月17日には遺構の写真実測用の空中撮影を行い、同時に遺跡の全形写真を撮影した。11月25日には砂子田遺跡と同時に現地説明会を行い、遺跡の概要について関係公所並びに一般の方々に公開を行った。

なお、中袋遺跡のグリッドの設定については、日本道路公団が高速道路予定地内に設置したセンター杭を基準として10m四方に区画した。グリッド番号は東西方向に西からA～Oの大文字のアルファベットを、南北方向は南から1～29の数字を使用した。グリッドの表記は検出地点・出土地点の北西角を取って「A-1」などと表記している。グリッドの南北軸は、真北に対してN-18.5°-Eを測る。



第1図 遺跡概要図

## II 遺跡の立地と環境

### 1 地理的環境

中袋遺跡は、天童市街から南西約4kmの天童市高擣に位置し、標高は94~95mを測る。ほぼ天童市の南端に位置し、山形市との境界に位置する。天童市と山形市の間には、出羽山脈の面白山に源を発して西流する立谷川が存し、中袋遺跡はこの立谷川の扇状地の扇端部に立地している。周辺では高擣の集落の西に自然堤防が見て取れ、ほ場整備の行われる前の昭和25年の空中写真には南北、或いは東西に走る黒い帯状の筋が何本も確認できる。このことから高擣の周辺には最上川及び暴れ川である立谷川が何度も流路を変えながら南北東西に流れていたことがわかる。また立谷川がしばしば氾濫を繰り返していたのは近世の古文書にも見え、洪水の記録が何回か現れる。中袋遺跡の調査区南半には広大な泥炭層が広がり、断面図から見ても旧河川の可能性が疑われる。立谷川の本流若しくは支流の可能性が考えられる。立谷川は豊富な水量を周辺の地域にもたらしており、立谷川扇状地の扇端部に位置する高擣の周辺は水田地帯が広がっている。昔から水田には適した地帯だったと考えられる。中袋遺跡の主体部は地山が安定した褐色を呈しており、周囲の泥炭層と比較すると、微高地であったことは明らかである。

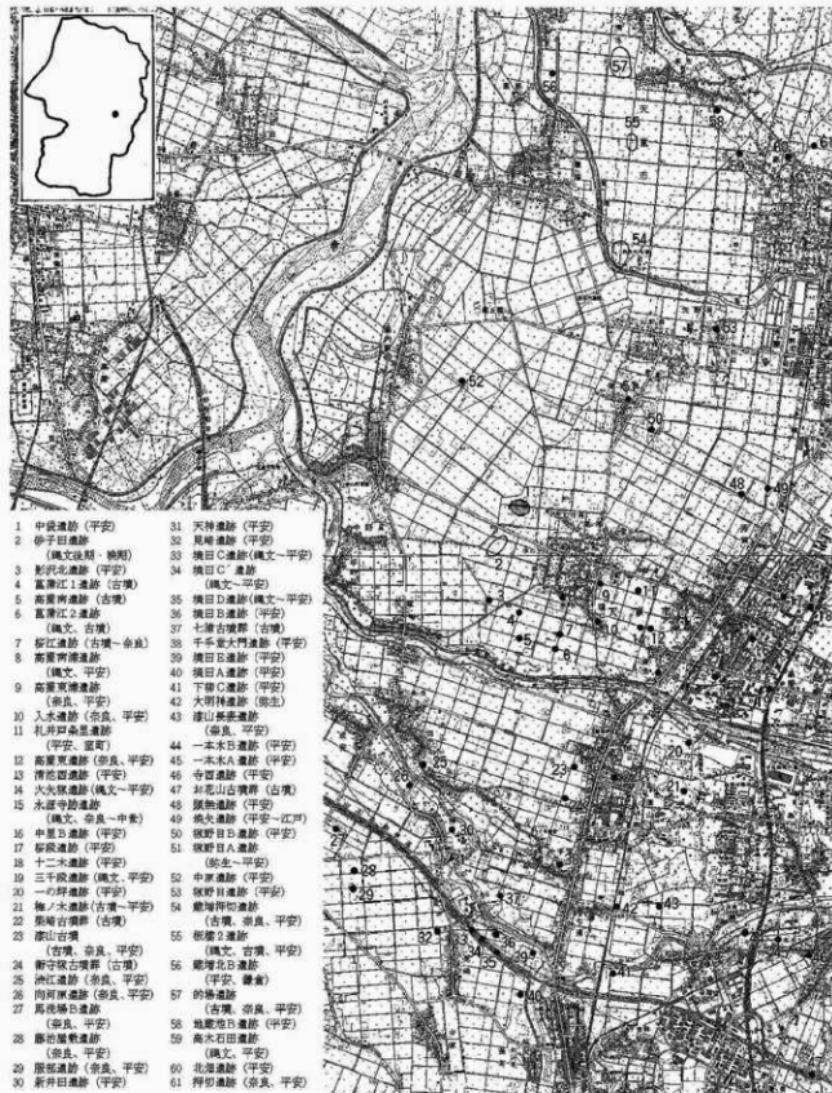
### 2 歴史的環境

本遺跡は立谷川の北岸に位置しているが、立谷川の扇状地やその南を流れる村山高瀬川の扇状地は自然湧水の豊富な扇端部付近に遺跡が集中して分布する。以下それぞれの時代について立谷川以北の天童市側の遺跡と、立谷川以南、村山高瀬川周辺の遺跡について概観する。

縄文時代から弥生時代では縄文時代後期から晩期の遺跡が多い。立谷川北岸の天童市側では縄文時代後期の遺跡として石田遺跡・白山堂遺跡・宮田遺跡・渡戸遺跡・高擣南浦遺跡・砂子田遺跡が知られる。多くは河川沿いの低湿地に集落が営まれているが、傾向としては山際に多い。中袋遺跡から約200m程南に位置する砂子田遺跡は現在最も低地に立地する遺跡である。縄文時代晩期では、矢口遺跡・沼田遺跡・宮田遺跡が知られる。

弥生時代の遺跡としては、天童市北部の成生地区に位置し、山形県内の磨消縄文を伴う土器の基準資料となっている地蔵池遺跡が有名である。位置的には中袋遺跡から北に7kmほど離れている。他に塚野目A遺跡が知られる。こうした天童市側の遺跡分布に対して、立谷川の南から村山高瀬川にかけての地域には弥生時代の遺跡が多い。磨消縄文主体の土器が出土し中期帆形圓式併行として「漆山式」が提唱されている漆山遺跡。桜井式併行の土器が多数出土して「七浦式」が提唱される七浦遺跡。粗糲圧痕をもつ土器と石包丁が出土した江俣遺跡。縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての土器変遷の窺える良好な一括資料が出土した北柳1遺跡。北柳1遺跡では縄文時代最終末期の竪穴住居跡が多数検出されている。

弥生時代中期以降になると本格的な水耕農業が行われるようになり、伏流水に富む立谷川・村山高瀬川の扇状地に位置するこの地域には大規模な集落が営まれるようになった。特に古墳時代の遺跡は数多い。天童市側では、木製品が大量に出土し國の指定史跡となった古墳時代中



第2図 遺跡位置図(国土地理院発行 2万5千分の1地形図「山形北部」「寒河江」を1/2縮尺して使用)

期後半の西沼田遺跡をはじめ、古墳時代前期の集落跡と中期の河川跡から多量の土器と木製品が出土した板橋2遺跡、古墳時代中期の集落跡から搬入品の古式須恵器が多数出土し県内最古のカマド跡が検出された的場遺跡がある。他に高備南遺跡・桜江遺跡・菖蒲江遺跡などが知られ、古墳としては中袋遺跡の西約2kmに位置する火矢塚古墳群がある。

立谷川以南の山形市側では数基の古墳が検出された梅ノ木遺跡、古墳時代中期の堅穴住居が多数検出された村山高瀬川南岸の下柳A遺跡がある。更に村山高瀬川・須川の扇端部では、内口花文鏡の日本最北端の出土例となった馬洗場B遺跡がある。ここからは古墳時代前期前葉の古手の古式土師器が堅穴住居や旧河川跡から出土するとともに、木製品も多数出土している。同じく馬洗場B遺跡と接する服部遺跡からも同時期と見られる木製品が多数出土している。この地域は集落跡が多数存在すると同時に古墳群が集中していることでも知られる。また古墳としては昭和57~58年に山形県教育委員会によって調査され、木棺・石棺・箱式石棺等を埋葬施設とする24基の古墳が検出されたお花山古墳群が有名である。時期的には5世紀末から7世紀前半に位置付けられる。他に古墳時代後期を中心とする七浦古墳群・衛守塚古墳群・柴崎古墳群などの平地に作られた古墳が、旧羽州街道沿いに点在している。これらの古墳時代の集落跡・古墳は、最上川に注ぐ立谷川・馬見ヶ崎川及び馬見ヶ崎川に合流する村山高瀬川による複合扇状地の扇端部の後背湿地沿いに集中しており、古墳時代の集落の占地について興味深い情報を提供している。

奈良・平安時代になると遺跡数は飛躍的に増加する。中袋遺跡に近接する影沢北遺跡などで発掘調査が行われているが、未調査の遺跡が大部分である。その中にあって、現在奥羽山脈と最上川との間で最も西側、つまり最上川寄りに位置するのが中袋遺跡である。奈良・平安時代の集落跡の分布を見ると、最も多いのが旧国道13号線（元の羽州街道）沿いである。湧水地帯がこの地点にあたるためと考えられるが、この地点は中袋遺跡より2km程東に位置する。これらのことを考え合わせると、中袋遺跡は奈良・平安時代の集落跡としてはかなり低地に立地していることが理解される。

中袋遺跡から西に2km程の位置に最上川が流れている。ここからほど近い場所に月山から東流する寒河江川と最上川の合流地点がある。この寒河江川を2km程上ったところに古代の須恵器の登り窯が多数存在する平野山に行き着く。また中袋遺跡の4kmほど北東の位置には同じく須恵器の登り窯が検出された二子沢窯跡が存在する。共に中袋遺跡から同じような距離にあり、中袋遺跡の土器がどこで生産されていたのか興味深い問題もある。

中世以降では、本遺跡の東側に位置する高備の村落が南北朝時代から江戸時代にかけての高備城跡になっており、周辺にはその名残を表す「桶の内」・「西桶」・「堀端」等の小字名が今も残っている。

このように、当地域は縄文時代から近世にかけて多くの集落跡が営まれた。これは立谷川・村山高瀬川など奥羽山脈から流れる豊富な水量によってもたらされたものである。特に水耕農業が発達した弥生時代中期以降は、稲作の生産地帯として積極的に開拓が行われてきたことが推測される。

### III 遺跡の概要

#### 1 遺跡の層序

中袋遺跡は、立谷川扇状地の扇端部に立地し、遺跡の主体部は微高地、その他は泥炭の湿地となっている。このように、中袋遺跡の層序は、地点によって大きく異なる。そのため第3図中の基本層では安定した微高地の基本層序を図示した。泥炭層は、旧河川と思われ、一部深掘りをして土層を確認したが、河川の埋没を示す自然堆積のみのため説明は割愛する。

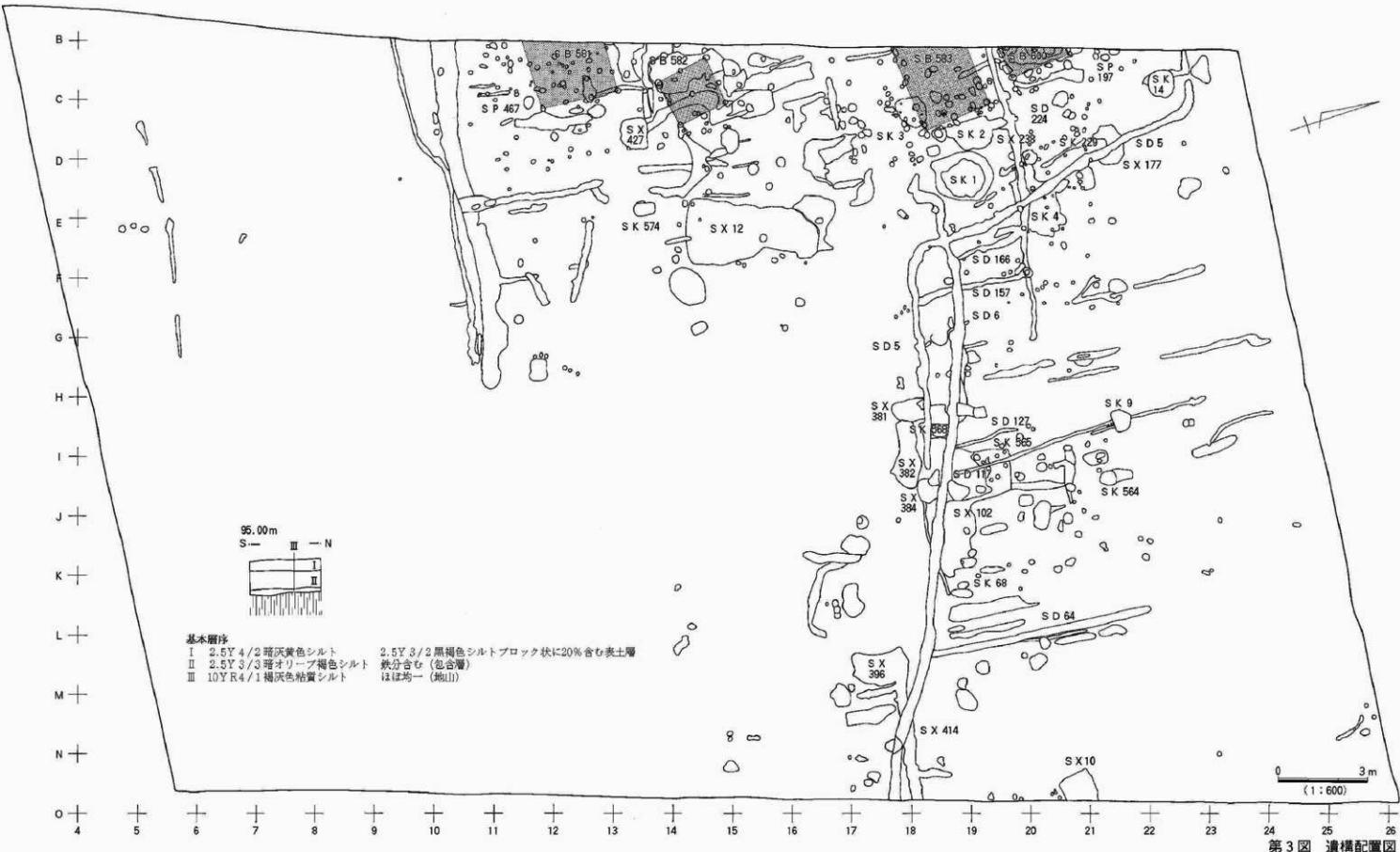
中袋遺跡の基本層序は3層からなり、上のⅠ・Ⅱ層が堆積土であり、最下層（Ⅲ層）が地山である。全層ともややグライ化しており、全体に青黒く変色している。第Ⅰ層は表土である。第Ⅱ層は黒味がかった褐色で、水田耕作によるものか酸化第2鉄を多く含む。この層は遺物包含層で、恐らく平安時代の生活面であろう。遺構はこの層から掘り込まれているが、遺構検出のため、表土除去ではこの下のⅢ層まで重機で掘り下げている。第Ⅲ層は地山で、最も安定した層である。褐灰色を呈する。第Ⅲ層の下にも層があるが、遺構も遺物も検出されなかった。泥炭層と同じような層序を呈していることから、更に古い時代の旧河川の可能性も考えられる。

#### 2 遺構・遺物の分布

遺構は、平安時代初期の掘立柱建物跡4棟、大型の土坑4基、その他の土坑5基、墓壙1基、性格不明遺構7基、溝跡6条などである。出土遺物は、土器を中心として整理箱で45箱である。平安時代初期の土師器・須恵器を中心として、陶磁器・灰釉陶器・耳皿・風字硯・石帯なども出土している。

遺構は遺構配置図に示した通り、調査区西側に大きく偏っている。調査区8,100m<sup>2</sup>のうち北西角1/4以外には、ほとんど見るべき遺構は存在しない。また、北西角1/4についても遺跡の主体とは言い難く、確認された掘立柱建物跡4棟は全て調査区の西端に懸かるのみで、建物の全体が検出されたものは1棟もない。遺跡の主体を大きくはずしているのは明らかで、遺跡の主体は高速道路予定地の西側に位置すると考えられる。また、今回の調査では大型の土坑や性格不明遺構から多量の土器が出土しており、土器捨て場若くは生活ででた有機物も含めた捨て場と考えている。また、やや離れた調査区北東部からは合せ口壺棺も出土している。こうした土器捨て場や墓壙が平安時代に集落との辺に形成されたかは興味深い問題であるが、中袋遺跡の遺構の配置情况来看れば、遺跡の端につくられたと考えるのが自然である。遺跡の主体をはずしている証左と考えたい。

遺物の分布は、遺構の分布状況と同じ傾向を示している。つまり調査区の北西角1/4から出土した遺物が大部分で、それ以外の調査区からの出土は極めて少ない。特に南東部の泥炭層から出土した遺物は須恵器の坏1点ほどである。遺構の分布同様、遺物の分布状況からも遺跡の主体が調査区北西角より以西にあることを裏付けている。遺物は平安時代初期の10世紀初頭のものが主体である。中には奈良時代の須恵器や中世の陶磁器なども含まれるが客体的である。土器の多くが、土坑などから出土している。土器捨て場として利用されていたのであろう。



第3図 遺構配置図

## IV 検出された遺構

遺構の選び出しの基準について予め簡略に記載しておく。掘立柱建物跡については全て、土坑や溝跡・性格不明遺構は遺物の出土状況が良好なもののみを記載している。こうした基準を満たした遺構は少なく、本報告に記載した遺構は僅か25である。遺構配置図には多数の遺構が記載されているが、泥炭層付近の遺構は平面形も不明瞭で、掘り込みも明らかでなく、遺物も少なかった。よって大部分の遺構は選び出しの基準を満たさず、遺構配置図上でのみの記載とした。

### S B581・S A584（第4図、図版3）

B-14区に位置する。南北軸は真北から東に5.5°傾く。平面形は、S B581が南北3間×東西2間以上（調査区外のため不明）の長方形を呈し、東側に庇がつく。西側にも庇がつく可能性はあるが不明である。S A584はS B581の東側4mの位置する南北4間の柱列である。南北軸はS B581と同じで、S B581に平行する。規模は、S B581が南北7.0mを測り、東西方向は調査区外のため不明である（残存値6.2m）。S A584は南北6.8mを測る。柱間の距離は、S B581が2.0m～2.2m、庇と母屋の間はやや狭く1.8mである。S A584は、1.6mを測る。柱穴は小さいもので直径28cm、大きいもので直径52cmを測るが、平均直径約40cmの円形を呈する。柱穴の深さは、検出面から28cmから40cmと浅い。S A584はやや小さく直径28cm～3.6cmの円形である。柱穴の深さは、検出面から18cmから20cmである。重複する遺構はない。柱穴から直接出土した遺物は皆無である。ただし、グリッド出土の遺物から9世紀後半から10世紀初頭の年代が与えられる。

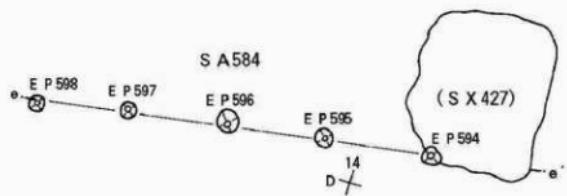
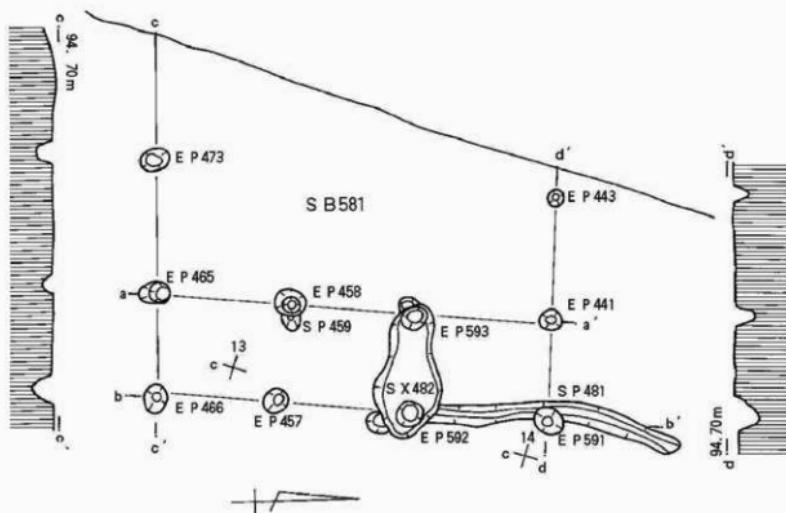
### S B582（第5図、図版3）

B-15区に位置する。南北軸は真北から西に8.5°傾く。平面形は南北2間×東西2間の柱の掘立柱建物跡である。南北5.4m、東西5.4mのほぼ正方形を呈する。柱穴間の距離は2.0mから2.3mを測る。柱穴は直径40cmから54cmの円形で、検出面からの深さはほとんどが28cm前後と浅い。柱穴の覆土には炭化物を含んでいる。他の遺構との重複関係はない。S B581と同様に柱穴からの出土遺物は皆無で時期決定は難しい。グリッド出土の遺物から9世紀後半から10世紀初頭の年代が与えられる。

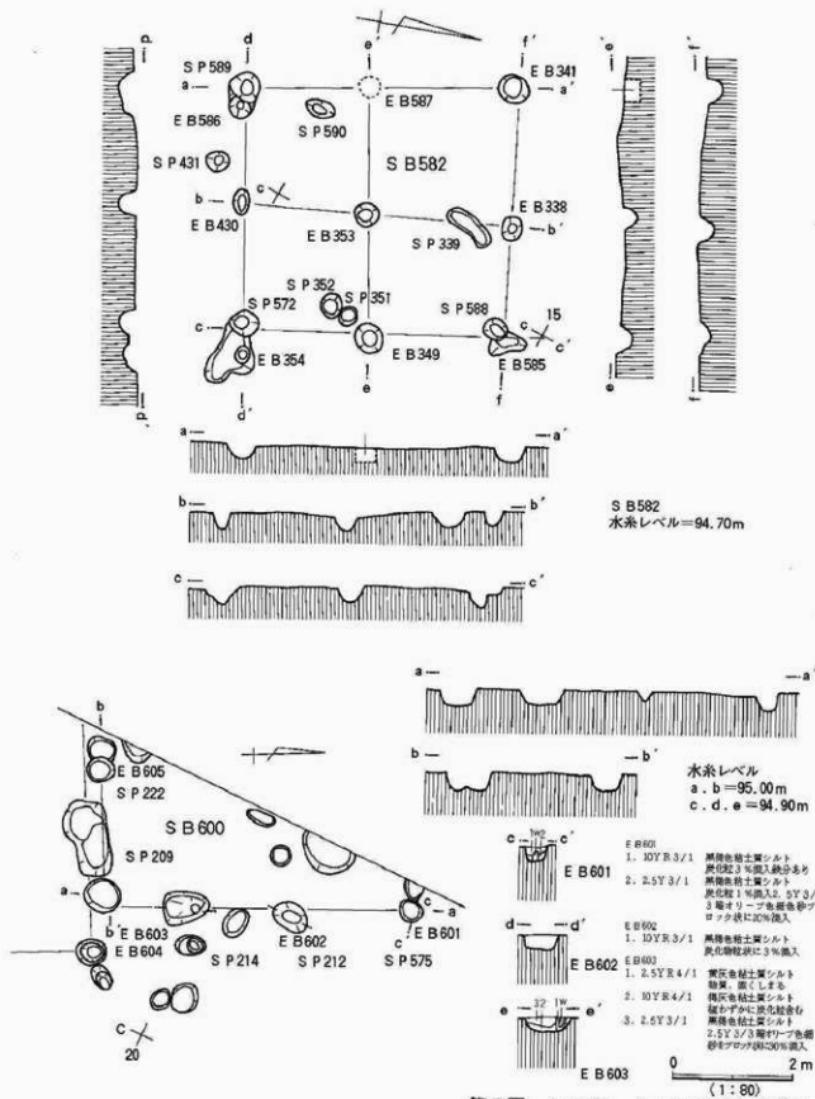
### S B583（第6図、図版3）

B-20区に位置する。南北軸は真北に対して西に7°傾く。平面形は南北3間、東西2間以上（調査区外に広がるため不明）と東側に庇がつく。西側は調査区外のため庇がつくかは不明である。南北8.8m、東西は調査区外に広がるため不明（残存値5.2m）。柱穴間の距離は2.2mから3.0mで、庇との距離はやや狭く1.8mから2.0mを測る。柱穴は直径44cmから80cmまでばらつくが、平均直径約60cmを測る。検出面からの深さは40cmから60cmを測り比較的深い。またE B243は柱根が残っていた。遺構の重複については、各柱穴に隣接してもう一つの柱穴が存在しており、建て替えの結果と判断した。出土遺物は皆無で時期決定は難しい。グリッド出土の遺物から9世紀後半から10世紀初頭と判断した。

検出された遺構

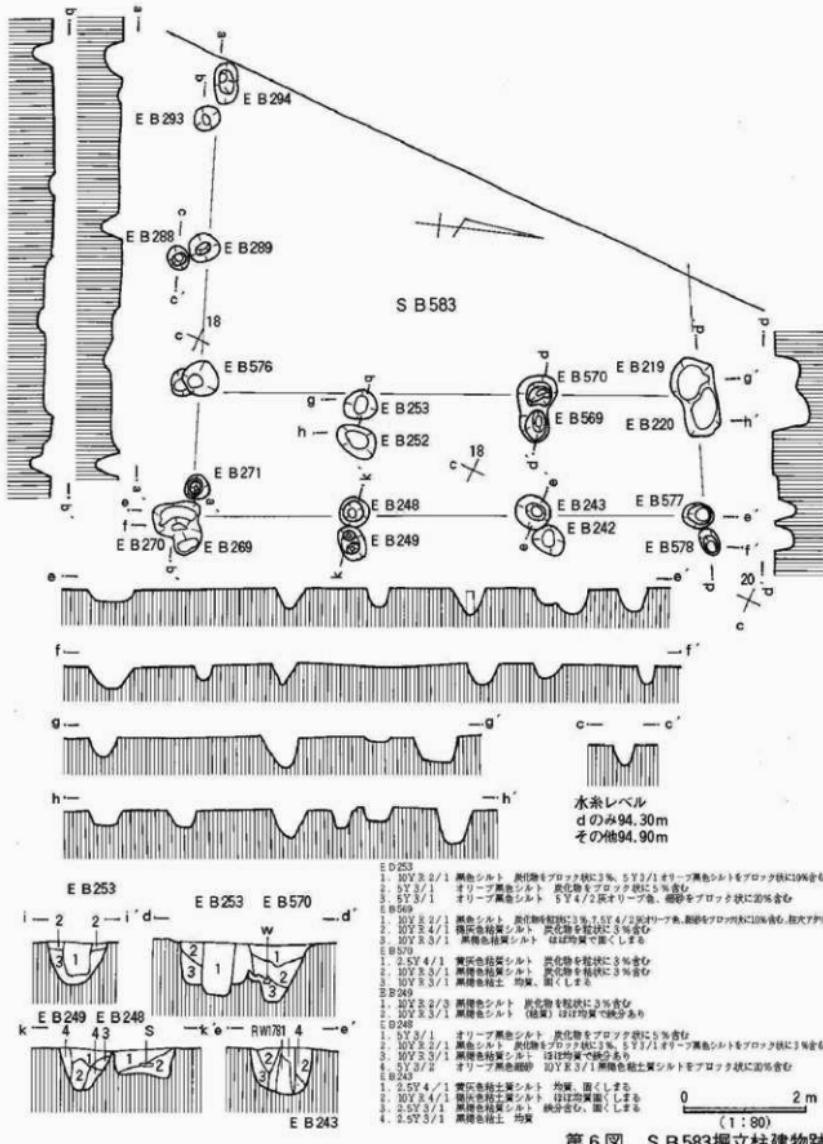


第4図 S B581掘立柱建物跡



第5図 SB 582、SB 600掘立柱建物跡

検出された遺構



**S B 600（第5図）**

B-21区に位置する。南北軸は真北に対して5°西に傾く。平面形は南北3間、東西2間以上（調査区外のため不明）。南北5.7m、東西は調査区外のため不明。柱穴間の距離は1.4m～2.0mまで幅があり、一定ではない。あるいは柱穴の組み合わせが間違っている可能性もある。柱穴の検出面からの深さは22cm～30cmである。E B 601・603は柱根が残っている。遺構はS B 583に隣接しており、その距離はほとんど重複しているといってよい。ただし柱穴の切りあい関係がないため、新旧関係ははっきりしない。またS D 5がS B 583およびS B 600の周りを巡っており、あるいは供伴する建物とも考えられよう。出土遺物は皆無で時期決定は難しい。S B 583と同時期の9世紀後半から10世紀初頭と判断しておく。

**S K 1（第7・8図、図版4）**

D-19区に位置する。平面形は、南北5m、東西4.1mの不整円形を呈する。検出面からの深さは最も深い場所で36cmを測るが、大部分は26cm前後で、底面はほぼ平坦である。立ち上がりは緩やかで、浅い擂鉢状を呈する。覆土全体に黒褐色を呈し炭化物を含む。遺物を多量に含み、報告書への掲載遺物は110点を数える。出土遺物の内訳は土師器100（壺63・高台付壺29・壙3・壺3・高台付皿1・壺1）、須恵器10（壺5・壺2・高台付壺1・蓋1・壺1）である。出土層位はほぼ第5層からの出土で一括性は高いものと考えている。須恵器の割合も約10%と低い。凡そ10世紀初頭の年代が与えられる。なお出土遺物からするとS K 1は土器捨て場と考えられる。覆土中に炭化物がかなり含まれることを考えれば、生活からでた有機質の廃棄物をも捨てていた可能性も高い。S K 1はゴミ捨て場と考えたい。

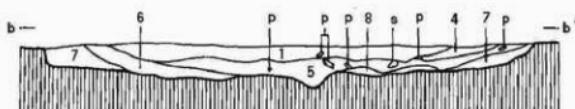
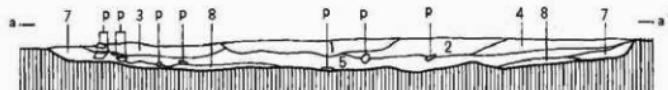
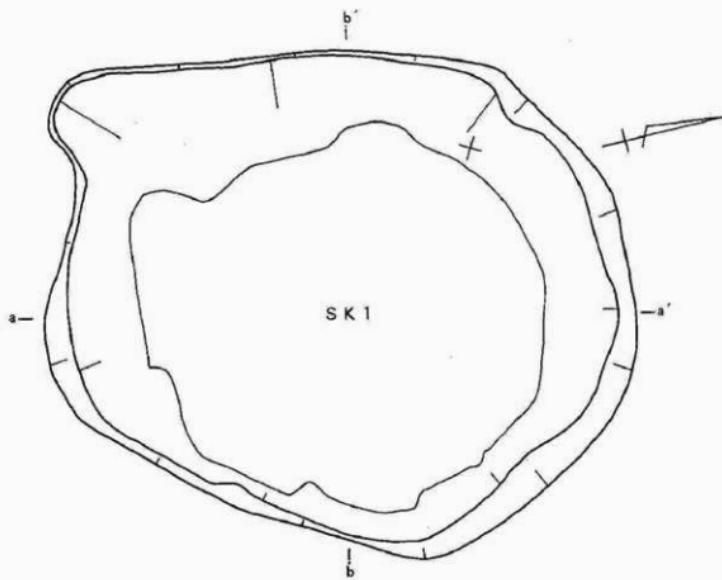
**S K 2（第9図、図版4）**

C-19区に位置する。平面形は南北3.2m、東西2.6mの小判型に近い不整形をなす。検出面からの深さは約22cmで、底面はほぼ平坦である。立ち上がりは緩やかである。覆土は全体に炭化物を含む黒褐色を呈する。他の遺構との重複関係では、S K 2はS X 238を切っている。出土遺物は比較的多く、本報告では33個体の実測図を掲載している。出土遺物の内訳は、33点中土師器が25点（高台付壺12・壺8・壺3・壺1・壙1）、須恵器8点（壺5・壺2・高台付壺1）である。土器の特徴はほぼS K 1出土土器と同じである。時期もほぼ同じと考える。なおS K 1と同様の理由からS K 2はゴミ捨て場（土器捨て場を兼ねる）と考えている。

**S K 3（第10図、図版4）**

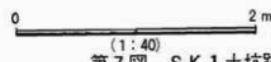
C-18区に位置する。平面形は南北2.2m、東西2.5mの不整円形を呈する。検出面からの深さは約14cmで、底面はほぼ平坦である。立ち上がりは緩やかである。覆土は他の土坑の黒褐色堆積土と異なり灰色を呈す。発掘調査の過程で覆土第2層にテフラと思われる粘土層が層状に堆積しており分析を行った。結果は十和田a火山灰（A D 915）や約1・3万年～1・4万年前の浅間板鼻黄色輕石あるいは浅間草津黄色輕石に由来する可能性のある火山ガラスが検出されたにとどまり、それとても同定の精度は低いとされた。他の遺構との重複関係は、S B 583に切られている。S K 3からは須恵器の壺が2点（うち1点は墨書き土器）と、土師器の壺が1点出土している。時期は9世紀後半としておく。

検出された通構

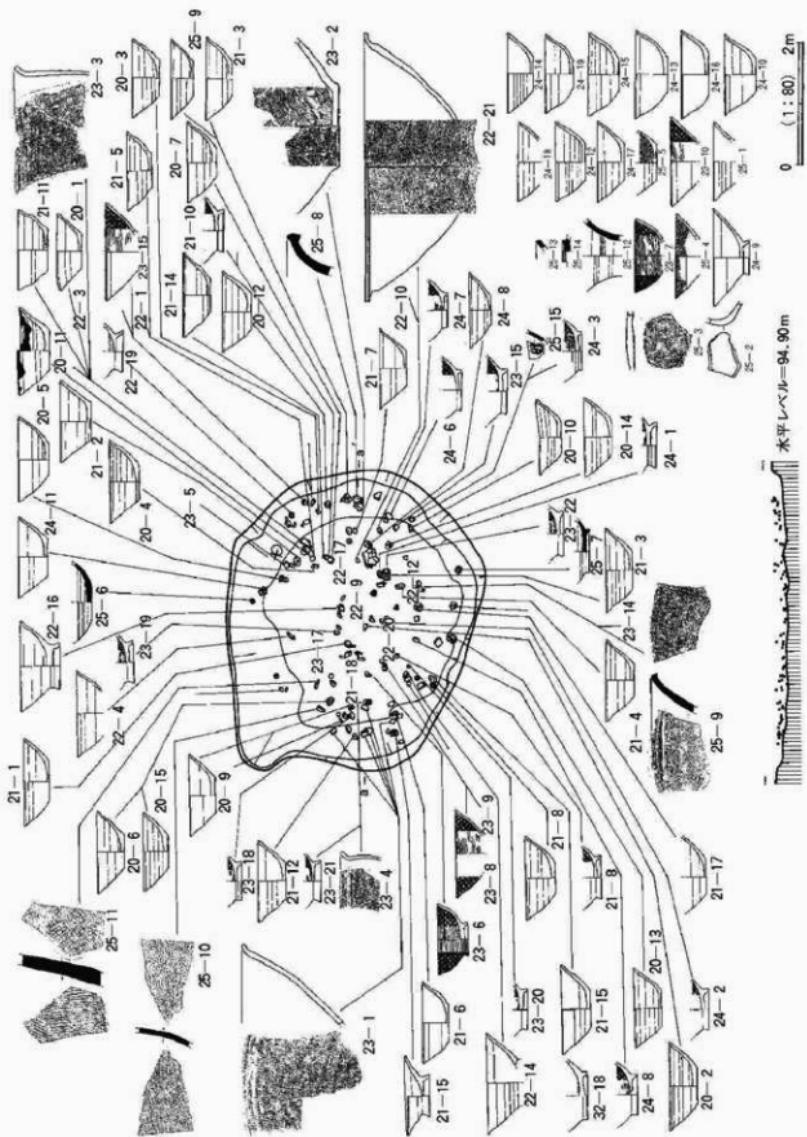


- SK 1  
 1. 30Y E 2/2 黒褐色砂土質シルト  
 2. 30Y E 2/3 黑褐色シルト  
 3. 30Y E 2/2 黑褐色シルト  
 4. 2.5Y E 2/1 黑色シルト  
 5. 30Y E 2/2 黑褐色シルト  
 6. 30Y E 3/1 黑褐色砂質シルト  
 7. 30Y E 4/4 黑褐色シルト  
 8. 3T E 4/4 オリーブ黒褐色質シルト  
 黄化粒 3% 含む、黑色鉱物  
 黄化粒 5% 10Y E 3/4 黑褐色シルト 5% 颗粒状に含む  
 黄化粒 5% 10Y E 4/6 黑褐色質シルト ブロック状に含む  
 劣質  
 黄化粒 3% 領小塊を夾み含む遺物を多量に含む  
 黄化粒 3% 7.5Y E 1/1 黑褐色砂質シルト ブロック状に含む  
 黑褐色シルト 20% ブロック状に含む 3.5V 5/1 黄化粒シルトが 10% 帯状に含む  
 黑褐色シルト 20% ブロック状に含む 黄化粒 3/2 含む

水系レベル=94.90m

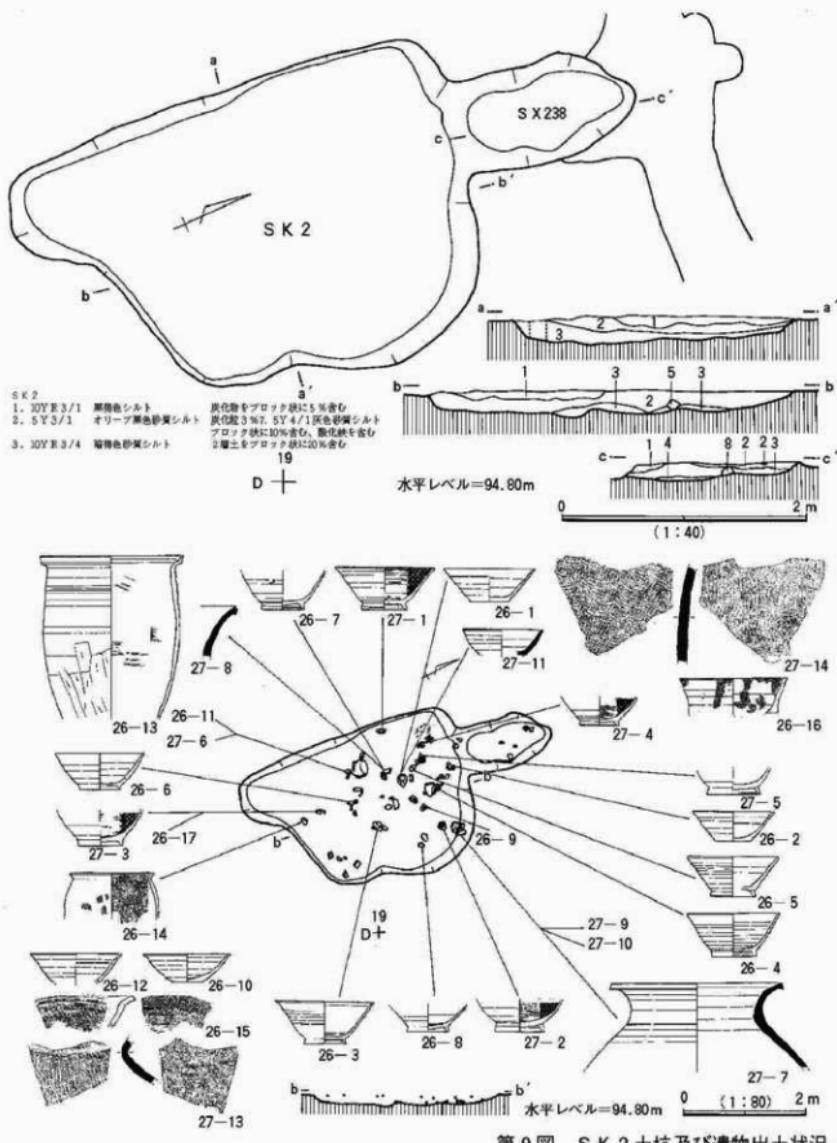


第7図 SK 1 土坑跡

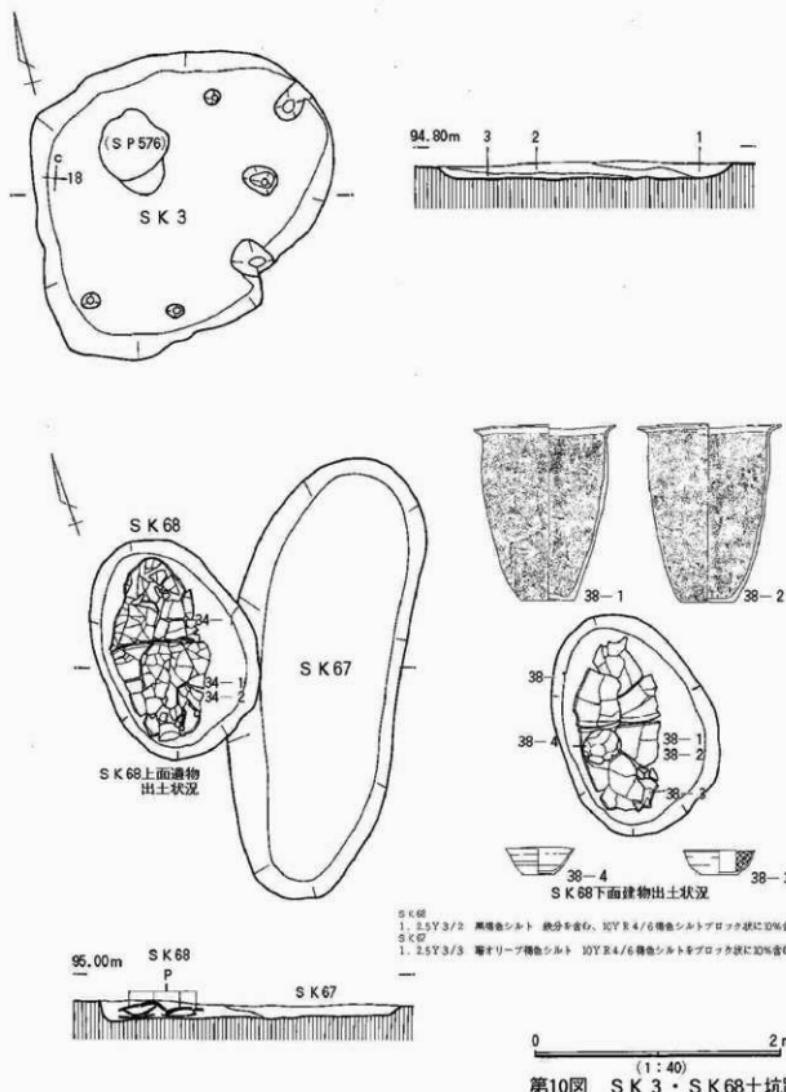


第8図 SK 1 土坑遺物出土状況

検出された遺構



第9図 SK 2 土坑及び遺物出土状況



第10図 SK 3・SK 68土坑跡

S K 14 (第11図、図版4・5)

B-23区に位置する。平面形は南北2.1m、東西2.3mの不整円形を呈する。検出面からの深さは20cmで、底面は平坦である。立ち上がりは西側で急に立ち上がるが、東側は緩やかである。覆土は全体に褐灰色と明るく、炭化物を多量に含んでいる。重複関係は、S D 5と連絡すると思われる溝を切っている (S K 14が新しい)。出土遺物で報告書に掲載したものが39個体ある。内訳は土師器33点 (壺22・高台付壺5・甕5・壺1)、須恵器6点 (壺6) である。

S K 68 (第10図、図版5)

K-19区に位置する。平面形は南北1.8m、東西1.3mの梢円形を呈する。検出面からの深さは16cmと浅い。底面はほぼ平坦である。立ち上がりは急である。東側を後世の歟跡 S K 67に切られる。合せ口壺棺が出土しており墓壙と推測される。リン・カルシウム分析の結果、地山に比べて土坑内の覆土はリン酸の含有量が高かった。墓壙であることを補強する資料である。出土遺物の合せ口壺棺を構成するのは2点の土師器壺で、実測図 (第34図) でわかるようにほぼ同じ器形、容量を持つ。また両者とも底部に木葉痕を持ち、ほぼ同じように製作されている。更に供伴遺物として、合せ口壺棺の内部から出土した土師器の両黒壺と壺棺の下から出土した土師器壺がある。時期は9世紀後半から10世紀初頭を想定している。なお、S K 68は調査区の東端に近いところで検出されており、遺跡の主体部からは約25m程離れた場所にある。墓域にしては他に墓壙が見つかっていないため別の意味があるように思われるが、資料不足のため不明である。

S K 9 (第12図)

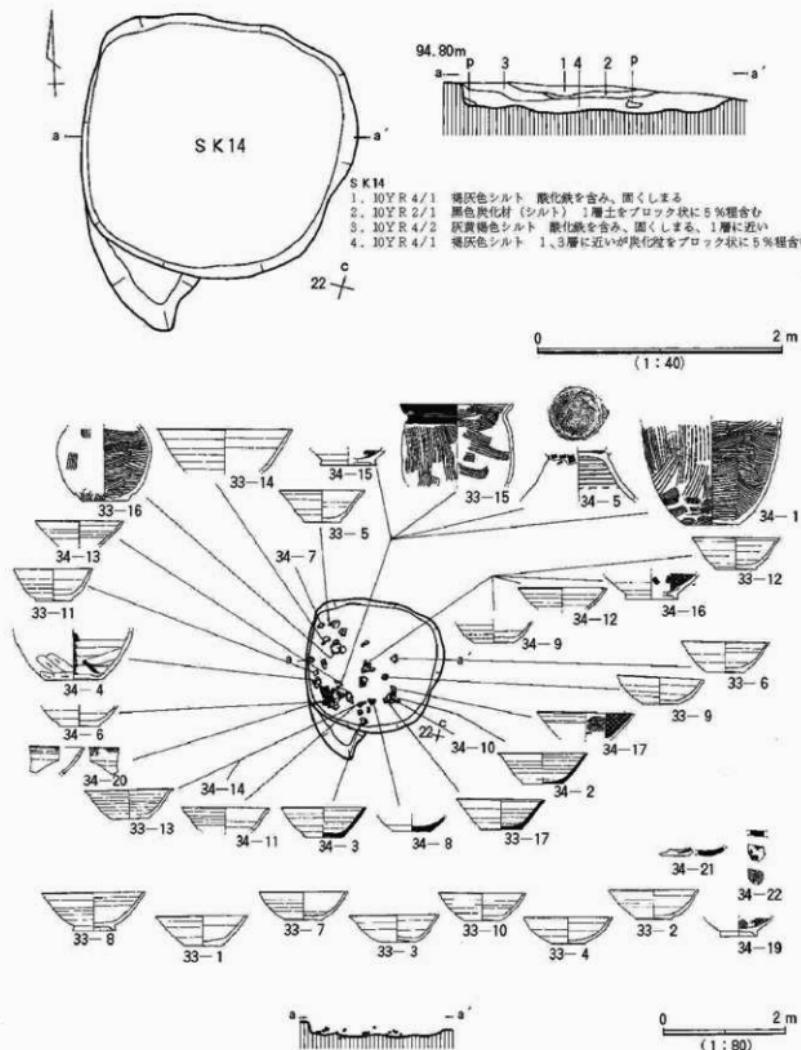
H-22区に位置する。平面形は直径約1.7mの不整円形を呈する。検出面からの深さは14cmと浅く、底面は平坦である。立ち上がりは緩やかである。S K 9からは土師器の壺と高台付壺が1点づつ出土している。破片資料のため時期決定は難しいが、9世紀後半から10世紀初頭と推測される。

S K 229 (第12図、図版5)

D-20区に位置する。平面形は直径約1.3mの不整円形を呈する。検出面からの深さは18cmである。立ち上がりはやや急である。土層の堆積は自然堆積で、覆土は炭化物を含む黒褐色土である。S K 229の中には柱穴跡のような痕跡があり、そこから土師器の両黒の耳皿が出土している。他にS K 229からは中世の青白磁の小壺蓋が出土しており、流れ込みとも考えられる。出土時の記録の不備で詳しい出土状況が不明であるが、あるいはS K 229自体は中世の所産で、平安時代の柱穴跡を切っている可能性も考えられる。両論を併記しておく。時期は青白磁の時期を探れば中世、土師器の耳皿の時期を取りれば10世紀前後と推量される。なお青白磁の小壺の蓋は完形品で、山形県内で同形の完形品としては初である。

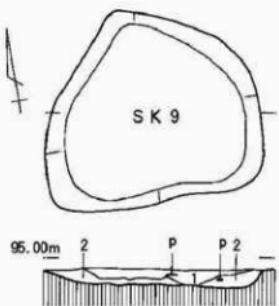
S K 564 (第12図)

I-22区に位置する。平面形は直径約1.2mのほぼ円形を呈する。検出面からの深さは約10cm。立ち上がりは緩やかである。土層の堆積は自然堆積で、覆土には炭化物の塊が多量に含まれている。土師器の壺3点、高台付壺2点が出土。9世紀第4四半期から10世紀初頭に比定。

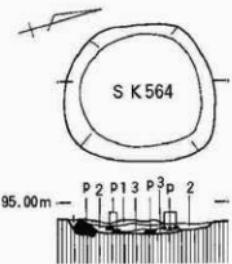


第11図 SK 14土坑及び遺物出土状況

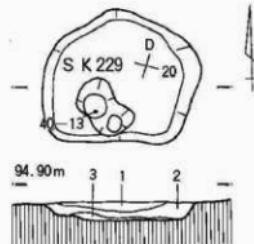
検出された遺構



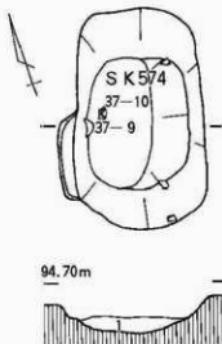
SK 9  
1. 10YR 2/2 黒褐色シルト 売化物をブロック状に30%、10YR 2/1 黒色シルトを  
帶状に10%含む  
2. 10YR 4/1 深灰色シルト 売化物をブロック状に5%含むしまなし



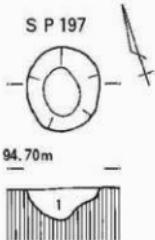
SK 564  
1. 10YR 3/2 黑褐色シルト 売化物を含む  
2. 10YR 2/1 黑色シルト 売化物を多量に含み、黒褐色土をブロック状に含む  
3. 10YR 4/1 深灰色シルト 均質しまなし



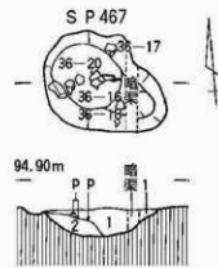
SK 229  
1. 10YR 2/3 黑褐色シルト 売化物を含む  
2. 10YR 3/1 黑褐色シルト 売化物をブロック状に含み灰化物を含む  
3. 5Y 3/1 オリーブ黒色シルト 深オーフ色粘土をブロック状に含む



SK 574  
1. 10YR 4/1 深灰色シルト 売化物が5%程度じる



SP 197  
1. 5Y 3/1 オリーブ黒色粗算シルト 売化物をブロック状に5%、10YR 3/4 墓褐色シルト  
ブロック状に10%含む



SP 467  
1. 10YR 3/2 黑褐色シルト 売化物をブロック状に30%含む  
2. 10YR 2/3 黑褐色シルト 売化物をブロック状に30%、10YR 4/1 深灰色シルトを  
ブロック状に10%含む

0 2 m  
(1 : 40)  
第12図 土坑・柱穴遺構図

**S K 574 (第12図、図版6)**

D-14区に位置する。南北1.8m、東西1mの長方形を呈する。検出面からの深さ30cmである。立ち上がりは急である。覆土には炭化物を僅かに含む。遺物は土師器の壺・高台付壺、須恵器の壺が出土しているが僅かである。9世紀後半に比定。

**S P 197 (第12図)**

B-22区に位置する。平面形は直径約70cmの円形を呈する。検出面からの深さは26cmである。立ち上がりは柱穴とすれば緩やかである。遺物は土師器壺3点で、うち1点は墨書の痕跡があるが文字は不明である。9世紀後半の所産と考えられる。

**S P 467 (第12図)**

B-12区とC-12区にまたがっている。平面形は直径約80cmの不整円形を呈する。東側を現代の暗渠跡に切られる。検出面からの深さは24cmで浅い。覆土には炭化材を多量に含む。内黒の土師器壺1点と、土師器壺の破片4点が出土している。9世紀第4四半期から10世紀初頭としておく。

**S D 5 (第13図、図版6)**

調査区の北西角のB-23区からE-19区まで調査区を斜めに南下し、その後I-19区まで東西に走る。検出面からの深さは約30cmである。S D 6との重複関係は不明だが、S D 224を切っている。S D 5の南北軸は、ほぼS B 583とその北側に位置するS B 600の南北軸と同じで、それら二つの掘立柱建物跡を囲んでいるように見える。あるいはS B 583に付属する区画溝の可能性もある。仮に区画溝とすれば、S B 583付近のS K 1・2なども、併に区画されていたと考えるのが自然であり、当時の住居の配置を考える上でも面白い資料といえる。出土遺物で報告書に掲載したものが32点で、土師器28点(壺15・高台付壺6・内黒の段皿1・壺3・壺2・鉢1)、須恵器4点(壺2・壺1・壺1)である。須恵器が少なく、器形の特徴から9世紀第4四半期から10世紀初頭と考えたい。

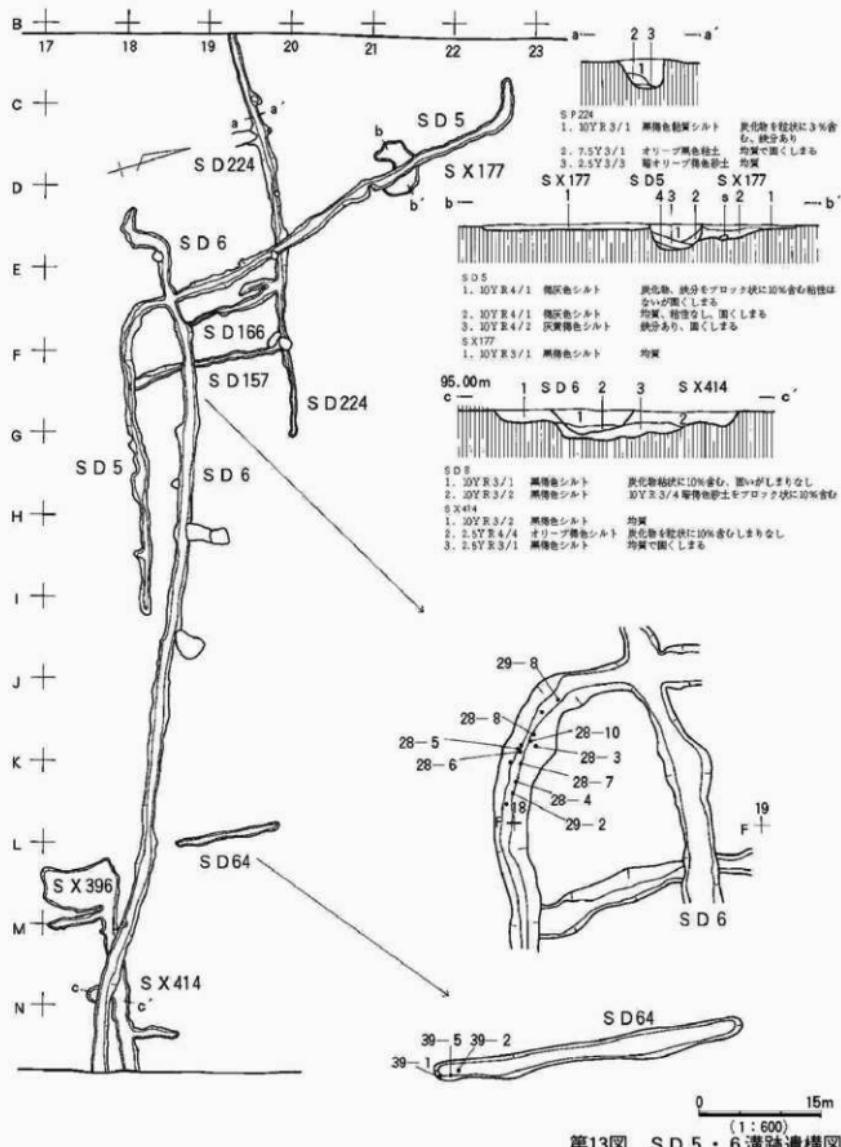
**S D 6 (第13図、図版6)**

D-19区からN-18区まで、調査区を東西に横切る。検出面からの深さは約20cm前後と浅い。S D 5との重複関係は不明だが、S D 157を切っている。出土遺物は掲載したもので須恵器壺、土師器壺および両黒の壺が出土している。やや底径が大きく、須恵器が比較的多く見られるところから、9世紀第3四半期から第4四半期を中心とした年代が考えられる。

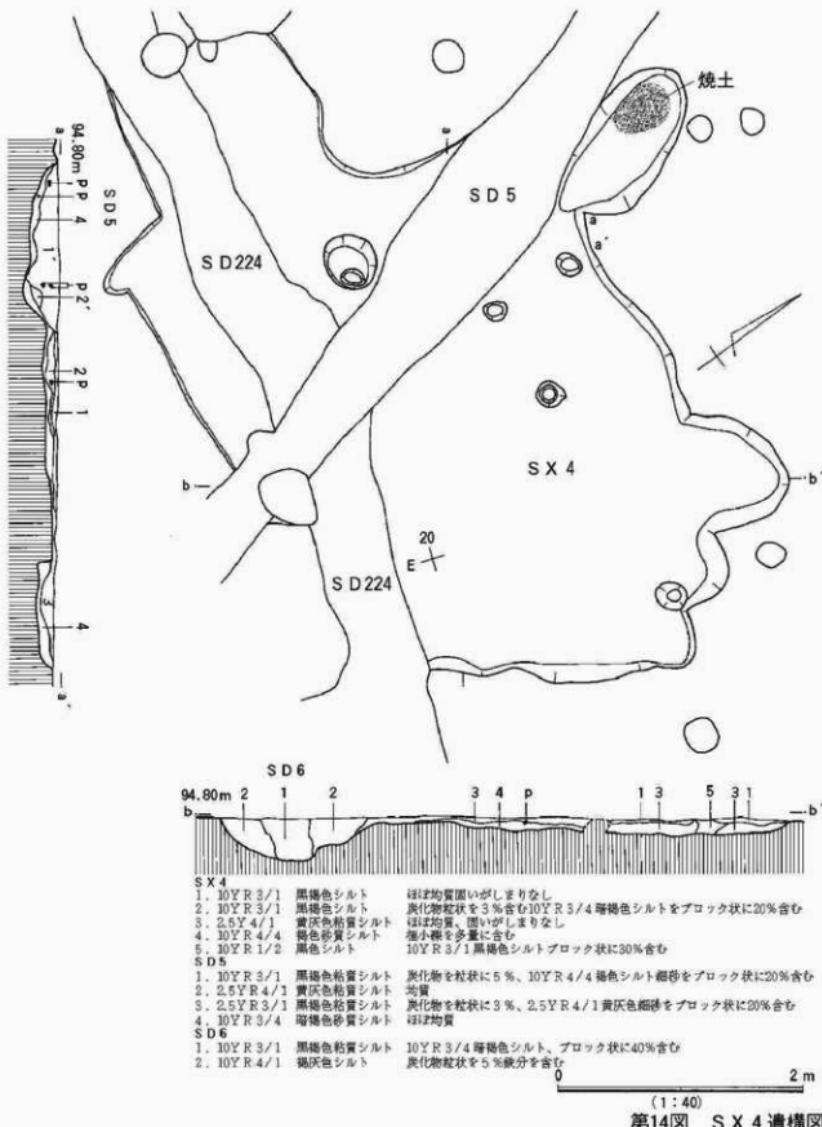
**S X 4 (第14図、図版9)**

D-21区に位置する。当初竪穴住居跡を想定して調査を行ったが、プランも不明瞭で柱穴もなかったため、性格不明遺構とした。平面形は南北約3.5m、東西約5.5mの長方形に見えるが、各辺でプランは乱れ、平面形は明確ではない。検出面からの深さは深いところで約10cmだが、大部分は掘り込みが少なく判然としない。或いは竪穴住居跡の覆土が飛ばされ、堀方だけが残ったものとも考えたが結論には至らなかった。なお、北側には浅い掘り込みがあり焼土が見つかっている。重複関係はS D 5・S D 224に切られている。良好な遺物は出土していない。S D 5に切られることから9世紀第4四半期よりは古いと思われる。

検出された遺構



第13図 SD 5・6溝跡遺構図



S X12 (第15図)

D-17区に位置する。平面形は南北約11.2m、東西約3.6~5.6mの不整長方形を呈するが、覆土と地山の区別がつきにくく、プランも明瞭でないかったことを付記しておく。検出面からの深さが約12cmと極めて浅い。覆土は全体に炭化物を多量に含んでいた。また覆土第3層とした層からは灰色細砂の混入が見られ、火山灰の可能性を疑い分析を行った。その結果微量の火山灰（十和田a火山灰ほか3種類）が検出されたものの、微量のため同定精度は高くないとの結論を得た。出土遺物は報告書に掲載したもので51点である。内訳は須恵器38点（壺29・高台付壺1・蓋3・壺3・壺2）、土師器13点（壺5・壺1・壺1・壺6）である。特記すべき点は、須恵器の比率の高さと墨書き土器の多さである。12点の墨書き土器が出土し、全て須恵器であった（壺11・高台付壺1）。またSK1やSK2に見られた土師器の圧倒的優勢に対して、SX12の須恵器の優勢は明らかに違和感がある。また須恵器は底径が大きく器高が低いものが多い。なお、器種として蓋が出土しているのはこの遺構だけである。須恵器の優位と器形からは9世紀第3四半期後半から第4四半期を考えている。最後に遺構の性格であるが、墨書き土器の多さを鑑みれば、何らかの祭祀的な意味合いを持つものと考える。

S X10 (第17図、図版3)

N-21区に位置する。当初竪穴住居を想定していたが、柱穴やカマド跡が見つかることから、性格不明の遺構とした。平面形は南北2.6m、東西3.0m以上の東西に長い長方形を呈する。東側は調査区外のため不明である。検出面からの深さは16cm~20cmで、立ち上がりは急である。出土遺物は須恵器壺1点で、底径が大きく器高が低い。9世紀第2四半期に比定した。

S X102 (第16図)

J-19区に位置する。平面形は南北4.2m、東西6mの東西に長い不整長方形を呈するが、プランは不明瞭である。検出面からの深さは約20cmで、立ち上がりは緩やかである。出土遺物は須恵器9点（壺2・壺2・壺5）、土師器1（両黒の壺）である。ほとんどが破片である。出土した須恵器は底径が大きく器高が低い。9世紀第2四半期前後に比定した。

S X357 (第17図、図版9)

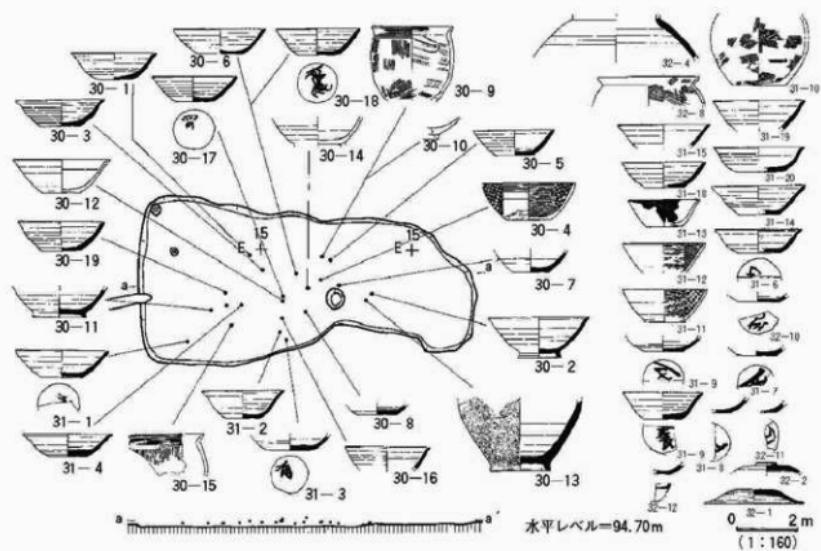
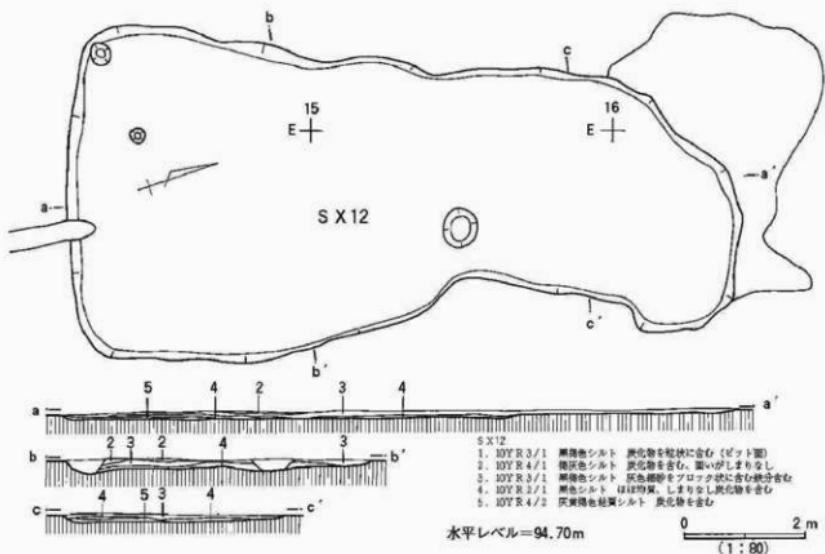
C-15区に位置する。平面形は南北1.5m、東西2.16mの東西に長い梢円形を呈する。検出面からの深さは18cmで、立ち上がりは緩やかである。出土した遺物は、土師器の高台付壺、内黒土師器の高台付壺、土師器壺、土師器壺、須恵器の壺である。土師器壺1点に墨書きが施される。時期は9世紀第4四半期か。

S X427 (第17図、図版9)

C-14区に位置する。平面形は南北2.1m、東西2.8mの東西に長い不整長方形を呈する。検出面からの深さは約30cmで、ほぼ平坦である。壁の立ち上がりは急である。出土遺物は須恵器の壺・壺と土師器の壺・壺が1点づつ出土している。時期は9世紀第4四半期前後か。

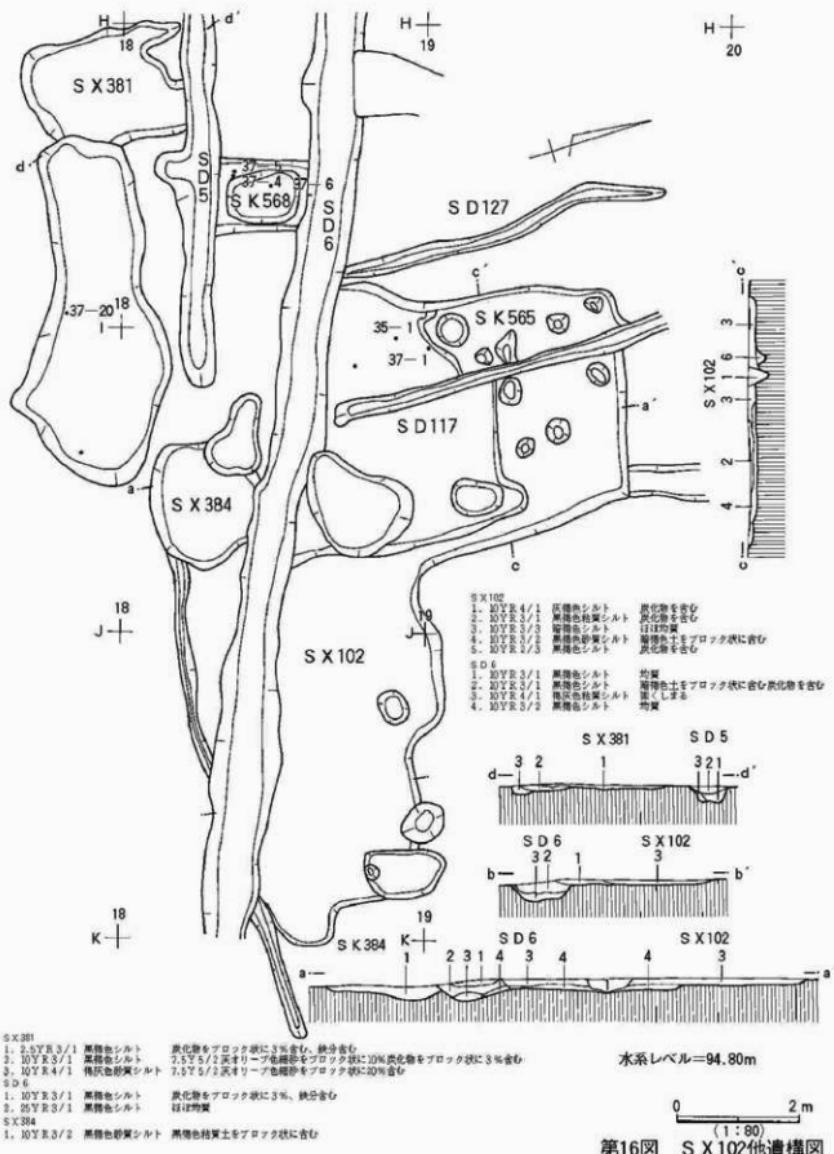
M-20 (第17図、図版9)

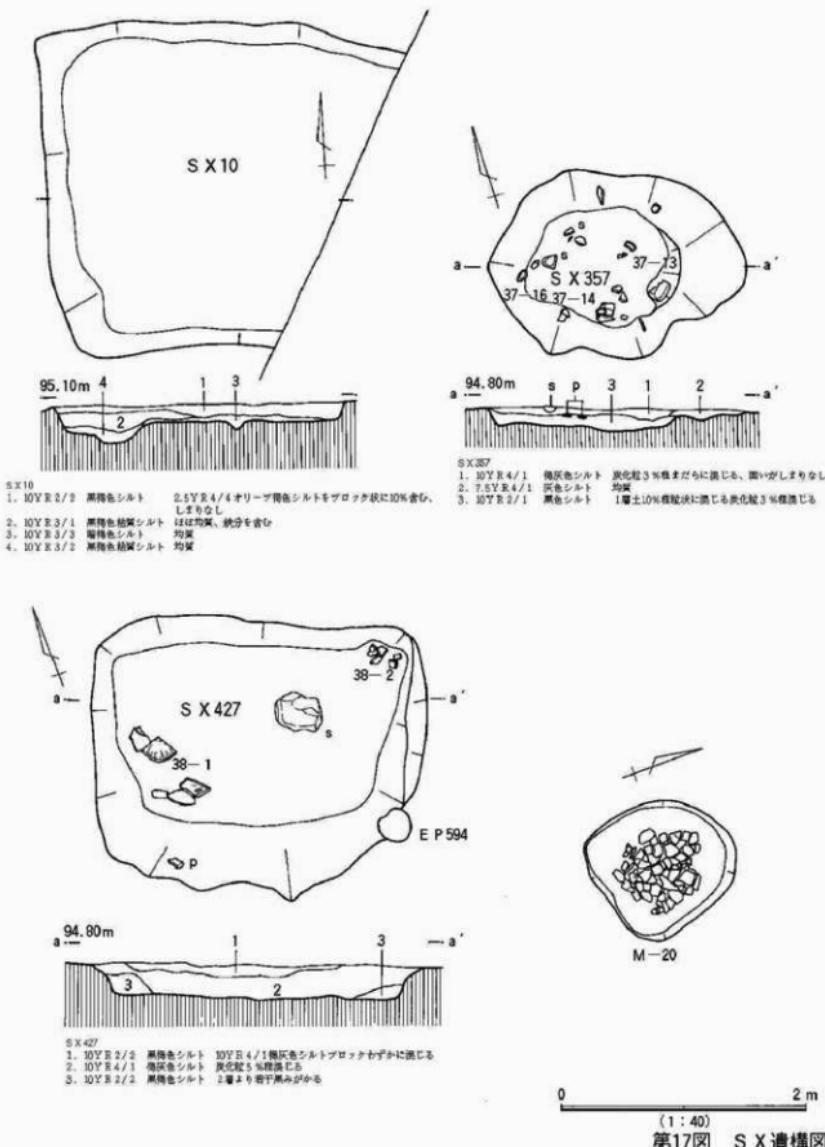
遺構ではないが落ち込み状の部分に土師器の壺がまとまって出土しており、接合してほぼ完形に近くなっていたので、地点名のみ挙げておく。



第15図 S X 12及び遺物出土状況

検出された遺構





## V 出土した遺物

本遺跡から出土した遺物は、包含層・遺構内出土をあわせて整理用のコンテナ45箱分である。時期的には平安時代の9世紀第3四半期若しくは第4四半期から10世紀初頭を主体とする。土器の種別では土師器が主体を占め、須恵器は1割前後でほとんどが破片である。他に土製品・石製品がある。奈良・平安時代以外では中世に属する遺物もごく僅かだが存在する。先ず奈良・平安時代の土器の年代を坏を中心に検討する。その後遺構の共伴土器から時期毎の土器の組成を検討する。なお、遺物について述べる前に、遺物の選択基準と用語の定義に触れておく。

遺物の選択基準：遺構の性格を明らかにするように、なるべく小さな遺物も実測している。特に数量的に少なかった須恵器などは、掲載した遺物より小さいな物はどれも器種が特定できないような小破片である。

遺物の計測値：表や本文中に示した遺物の計測値の中で、( ) で示した数値は残存値若しくは推計値である。残存値と推計値の違いは特別に明記はしていない。

統計に使用した資料数：法量計算を行う上で使用した資料は、口径・底径・器高が実測できるもの若しくは推計できるものに限った。3点の計測値のうち1点でも不明のものは統計資料から除外している。

口径・底径・器高・外傾度：第19図（p48）に模式図を示した。底径・器高は高台の付くものについては台部の底径と、台部を入れた器高を計測値としている。外傾度は土器の主軸に対する体部の角度を表す。よって外傾度が小さいほど垂直に近く、大きいほど外に開く器形となる。なお、ここでいう外傾度は単純に口端と底部端を結んだものであり、体部の膨らみなどの要素は一切捨象している。他の報告書や論文では体部の膨らみを外傾度に反映させているものもあるが、本報告書ではその定義を探っていないことを予めお断りしておく。また高台付坏の外傾度は、高台部を含めず坏部で計測している（第19図参照）。

底径指数：「底径 ÷ 口径 × 100」で求められる数値。これは口径に対する底径の割合を示しており、口径を100とした場合の%を示す。

器高指数：「器高 ÷ 口径 × 100」で求められる数値。これは口径に対する器高の割合を示しており、口径を100とした場合の%を示す。

指數グラフ：X軸に底径指数を、Y軸に器高指数を取ったグラフ。口径を100とした場合の底径と器高の割合を示したグラフ。本書で掲載したグラフは全て指數グラフである。

以上のように用語を使用している。

### 1 奈良・平安時代の須恵器坏・土師器坏

最初に土器の分類とその方法を、次に他遺跡との法量の比較により分類毎の時期決定を、最後に遺構の時期と土器の共伴関係を検討する。

土器の分類方法：土器分類は第1表（p30）土器分類表と、第18図土器分類図（p31）を参考されたい。基本的に分類の方法は器形で単純に分類している。法量による分類を行ったのが、

須恵器坏・高台坏・土師器坏・高台坏・黒色土器坏・高台坏である。これらは完形品が多く資料数が多いため可能であった。この時期の土器は時間の推移による器形変化に乏しく、器形の微妙な変化を捉えるには法量による分類が有効であると考えたためである。

法量による分類の方法は、先ず①資料の抽出を行った。次に②底径指数・器高指数を求め、指數グラフを作成した。③指數グラフ上のドット集中域を検討し仮の分類を行った。しかし法量のみではドットの集中域を他の集中域から分離することが難しいため外傾度の要素を取り入れた。集中域がうまく分離できるような外傾度を求め、これを基準として更に分類を行った。④最後に同一分類内で器形毎に分類した。よって分類基準の優先順位は、1 法量（底径指数・器高指数）、2 外傾度、3 器形となる。

**他遺跡との法量比較：**他遺跡の土器の法量を検討することにより、本遺跡の時期を決定する。比較資料は山形盆地の①寒河江市の平野山古窯群第14地点1号窯跡、②同古窯群第14地点2号窯跡、③同古窯群第12地点S Q33窯跡及び灰原H出土土器（報告書でいう「C群土器」）、④同古窯群第12地点S G31捨場出土土器（報告書でいう「D群土器」）、⑤山形市馬上台遺跡SK1・2・4・5土坑出土土器である。

それぞれの時期を報告書などで比定すると、①は9世紀第2四半期、②は①と近いがやや新しいものもあるため9世紀第2四半期（新）、③は報告書では9世紀第2四半期としているが、平成10年度の城柵官衙遺跡発表会資料では9世紀第3四半期に比定されている。④は報告書では9世紀第4四半期とされている。⑤は報告書では10世紀初頭とされるが、土師器の小型坏の出土しないSK4と出土するSK1・2・5の間に時期差が想定される。

#### <須恵器坏A>

**A 1 類：**法量的にも器形的にも異質であり検討から除外する。時期的には8世紀中頃を想定しているが、ここでは根拠を含めて触れない。

**A 2 類：**法量的には③に近い。しかしA 2 類は底部回転範切りであり、③は報告書によれば全て回転糸切りであり回転範切りは組成しない。近い時期の資料として①・②と比較するとやや外れるが、変異の中には入ってくる。また①・②には底部回転範切りも若干ながら存在するらしい。よって①・②の時期である9世紀第2四半期（古）に比定する。但し回転範切りであることを考慮すると9世紀第1四半期までさかのぼる可能性も考えられる。

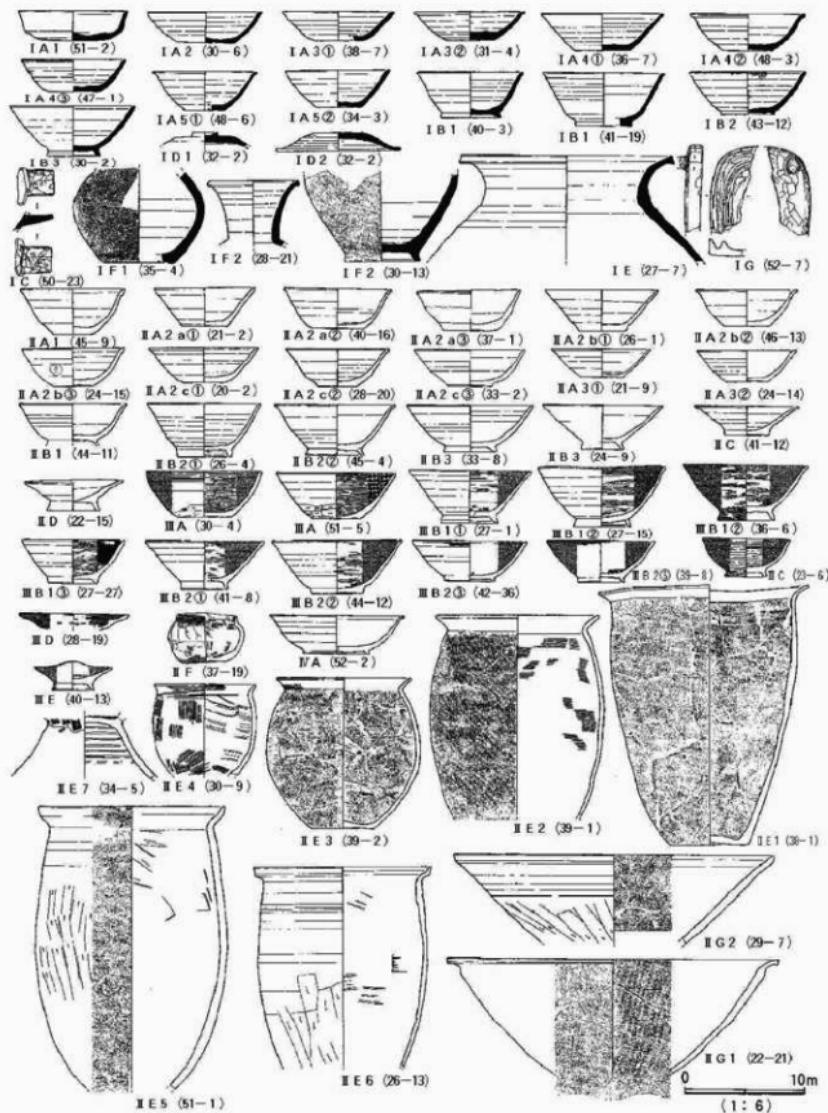
**A 3 類：**法量的には③に近い。③よりもやや古い①・②はA 3 類よりも底径が大きく器高が低く時期差が想定される。③とA 2 類を比較すると器高はほぼ同じだが、③の方が底径に幅がある。③の時期に含まれると考える。③の時期を取り9世紀第2四半期（新）若しくは9世紀第3四半期とするが、どちらかといえば9世紀第3四半期と考えたい。

**A 4 類：**底径は③と同じだが器高が指數の単位で5ほど大きい。須恵器の器高が漸次大きくなることを考えれば③よりも新しい。④の法量は底径が40前後で、器高が30~35に収まり、A 4 類とは底径・器高共にほぼ同じである。④とほぼ同じ時期が想定されるがA 4 類の器高の分布が低いことからやや早い時期とも考えられる。③と④の間の時期と考え9世紀第3四半期（新）若しくは9世紀第4四半期（古）に比定する。

## 出土した遺物

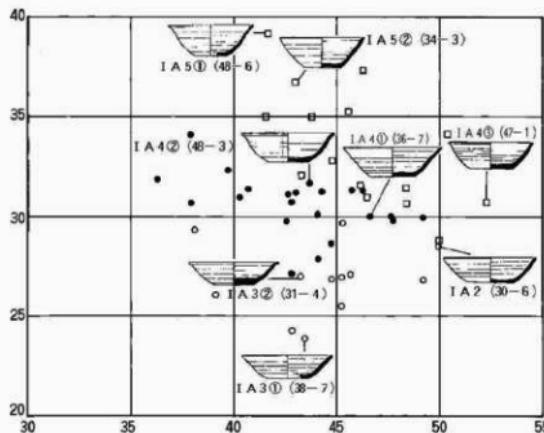
第1表 土器分類表

種別	器種	分類	クロコ	波佐指紋	番寄指紋	外模度	器 形	外表面質	内面質	底部形態	切端し	
A 無 台 环	1	使用	71	27	—	—	底部からの立ち上がりが直に近い。唇部。	圓ケズリ	ロクロ	平底	圓軸尖切	
	2	使用	50	29	45	口径に比して底径・唇高共に小さい。体部が内輪気味に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	3①	使用	38~42	24~27	45幅	口徑に比して底径・唇高共に小さい。体部が直線的に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	3②	使用	40~50	30~35	40~50	口徑に比して底径・唇高共に大きい。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	4①	使用	—	—	—	やや器高が高い。体部が直線的に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	4②	使用	—	—	—	やや器高が高い。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	5①	使用	—	—	—	やや器高が高い。体部が内輪気味に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	5②	使用	40~50	35~40	38~43	底径が小さく、唇部が直い。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	6	未使用	45幅	45~50	35未満	底径・唇高共に大きく、外模度が小さい。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	高台	圓軸尖切		
B 有 台 环	1	使用	45~50	40~45	35~40	底径がやや大きい。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	高台	圓軸尖切		
	2	使用	40~45	35~40	40以上	底径がやや大きい。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	高台	圓軸尖切		
	3	使用	40前後	40前後	40以上	口徑に対する底径の小ささが大きく開く。体部は内輪気味に立ち上がる。	ロクロ	ロクロ	高台	圓軸尖切		
C 瓦耳坏	1	使用	—	—	—	耳部の痕跡資料のみ。	ロクロ	ロクロ	—	—		
	D	1	使用	—	—	器高が低く、平坦な天井部を持ち、口縁部が内輪に屈曲する。	ロクロ	ロクロ	—	—		
	2	使用	—	—	—	器高が低く、平らな天井部を持ち、縫合を持たない。口縁部で外反する。	ロクロ	ロクロ	—	—		
E 變 身	1	使用	—	—	—	中唇の變。丸みを持った胸部の中央に最大径。口縁部で外反する。	ロクロ	ロクロ	—	—		
	F	1	使用	—	—	無台の變。底部中位に最大径。短縫合か?	ロクロ	ロクロ	平底	—		
	2	使用	—	—	—	有台の變。長縫合か?	ロクロ	ロクロ	台坏	圓軸尖切花紋		
G 鏡	1	使用	—	—	—	鏡字調。鏡片資料。	ロクロ	ケズリ	脚付	—		
	2	使用	—	—	—	—	—	—	—	—		
	3	使用	—	—	—	—	—	—	—	—		
H 土 坏	1	使用	40~48	40幅	31~36	底径・器高共に大きい。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	2 a①	使用	—	—	—	やや器高が高い。体部が直線的に立ち上るもの。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	2 a②	使用	45~50	34~50	34~37	やや器高が高い。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	2 a③	使用	—	—	—	やや器高が高い。体部が内輪気味に立ち上るもの。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	2 b①	使用	37~42	33~38	37~41	2 a に比し底径・唇高共に小さい。体部が直線的に立ち上るもの。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	2 b②	使用	—	—	—	2 a に比し、底径・唇高共に大きい。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	2 b③	使用	35~45	30~35	41~46	2 a に比し、底径・唇高共に小さい。体部が内輪気味に立ち上るもの。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	2 c①	使用	—	—	—	更に前後・唇高が小さい。体部が直線的に立ち上るもの。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	2 c②	使用	—	—	—	更に前後・唇高が小さい。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	2 c③	使用	—	—	—	更に前後・唇高が小さい。体部が内輪気味に立ち上るもの。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
I 土 坏	3①	使用	35~45	25~30	46~50	小形の环。器高が小さく、強・外径。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	3②	使用	—	—	—	小形の环。器高が小さく、強・外径。体部が内輪気味に立ち上るもの。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
	3③	使用	—	—	—	小形の环。器高が小さく、強・外径。体部が内輪気味に立ち上るもの。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切		
J 土 坏	1	使用	50前後	52~56	39	底径が大きく、唇高の低いもの。体部が内輪・口縁部でやや外反する。	ロクロ	ロクロ	高台	圓軸尖切		
	2 ①	使用	45~50	40~45	33~40	底径がやや小さく、唇高の高いもの。体部が直線的に開く。	ロクロ	ロクロ	高台	圓軸尖切		
	2 ②	使用	—	—	—	底径がやや小さく、唇高の高いもの。体部が内輪・口縁部で外反。	ロクロ	ロクロ	高台	圓軸尖切 + 雜花紋 ナシタク		
K 土 坏	3	使用	35~40	35~40	43~48	底径が微細に小さく、唇高が半程度のもの。体部が直線的に開く(?)の内輪気味に開く(?)ものがある。	ロクロ	ロクロ	高台	圓軸尖切		
	C III	使用	42前後	28~23	50~56	中唇の台形の底部から。体部が直線的に外に大きく開くもの。	ロクロ	ロクロ	—	圓軸尖切		
	D 無台付环	使用	54	32	56	环部の唇部が極めて小さく、直線的に外に開く。	ロクロ	ロクロ	—	圓軸尖切		
L 土 坏	1	不使用	—	—	—	大型の馬蹄形。腹部中位に最大径。口縁部で屈曲し強く外反する。	ハケメ	ハケメ	平底	—		
	2	不使用	—	—	—	大型の馬蹄形。腹部中位に最大径。口縁部で屈曲し強く外反する。	ハケメ	ハケメ	—	—		
	3	不使用	—	—	—	中唇の馬蹄形。腹部中位に最大径。口縁部で屈曲し強く外反する。	ハケメ	ハケメ	平底	ケズリ?		
	4	不使用	—	—	—	小形の変。腹部中位に最大径を持つ。口縁部で屈曲し強く外反する。	ハケメ	ハケメ	—	—		
	5	使用	—	—	—	大型の馬蹄形(?)。腹部中位に最大径を持つ。口縁部で屈曲し強く外反する。	ハケメ	ハケメ	平底	—		
	6	使用	—	—	—	大型の馬蹄形(?)。腹部中位に最大径を持つ。口縁部で屈曲し強く外反する。	ケズリ	ハケメ	—	—		
	7	使用	—	—	—	有台のものと一致した。	ハケメ	ハケメ	高台	—		
M 土 坏	F 番	不使用	—	—	—	小形の変。けば抜け資料のみ。	ハケメ	ハケメ	—	—		
	G 1	使用	—	—	—	体部が内輪気味に立ち上がり、口縁部で外反するもの。	ハケメ	ハケメ	—	—		
G 2	使用	—	—	—	体部が内輪気味に立ち上がり、口縁部が激烈に外反する。	ケズリ	ナデ	—	—			
N 土 坏 馬 足 馬 足 馬 足 馬 足 馬 足	A	無台环	使用	43~48	37~42	34~38	組みつけ唇部の直線的で外輪が小さい。体部が内輪気味に立ち上がり、口縁部が直線的に開く。	ロクロ	ロクロ	平底	圓軸尖切	
	1 ①	使用	45~50	40~45	35~36	底径・唇高共に大きいもの。底径は直線的に開く。	ロクロ	ロクロ	—	圓軸尖切		
	B 有台环	1 ②	使用	—	—	底径・唇高共に大きいもの。底径が内輪気味に開くもの。	ロクロ	ナデ	—	圓軸尖切		
	2 ①	使用	40~45	35~40	40幅	底径・唇高共に小さいもの。体部が内輪・口縁部で外反するもの。	ミキモ	ナデ	—	圓軸尖切		
	2 ②	使用	—	—	—	底径・唇高共に小さいもの。底径が内輪気味に開くもの。	ミキモ	ナデ	—	圓軸尖切		
	C 有台付环	使用	47	45	38	底径・唇高共に小さい。体部が内輪・豊脣しながら立ち上がる。	ナデ	ナデ	—	圓軸尖切		
	D 無台	使用	—	—	—	体部は豊脣ながら大きく開く。	ナデ	ナデ	—	圓軸尖切		
	E 有台	不使用	—	—	—	口縁部の両側に割り込んでいる。	ナデ	ナデ	—	ナデ		
	F 馬	使用	—	—	—	底径が低く、体部が内輪・豊脣しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	台付	—	—	—		
	G 長	使用	—	—	—	鏡片資料のみ。	—	—	—	—		

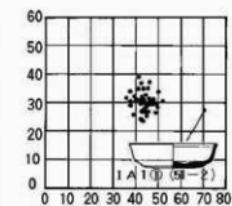


第18図 遺物分類図

出土した遺物

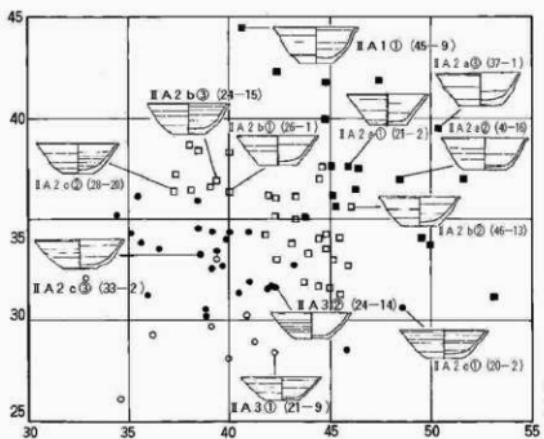


第2-2表 2-1表拡大図

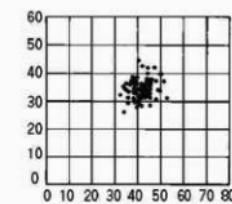


第2-1表 中袋遺跡「須恵器坏」指数グラフ

凡例  
 □……外傾度37° 未溝のもの  
 □……外傾度37° 以上41° 未溝のもの  
 ●……外傾度41° 以上のもの45° 未溝のもの  
 ○……外傾度45° 以上のもの



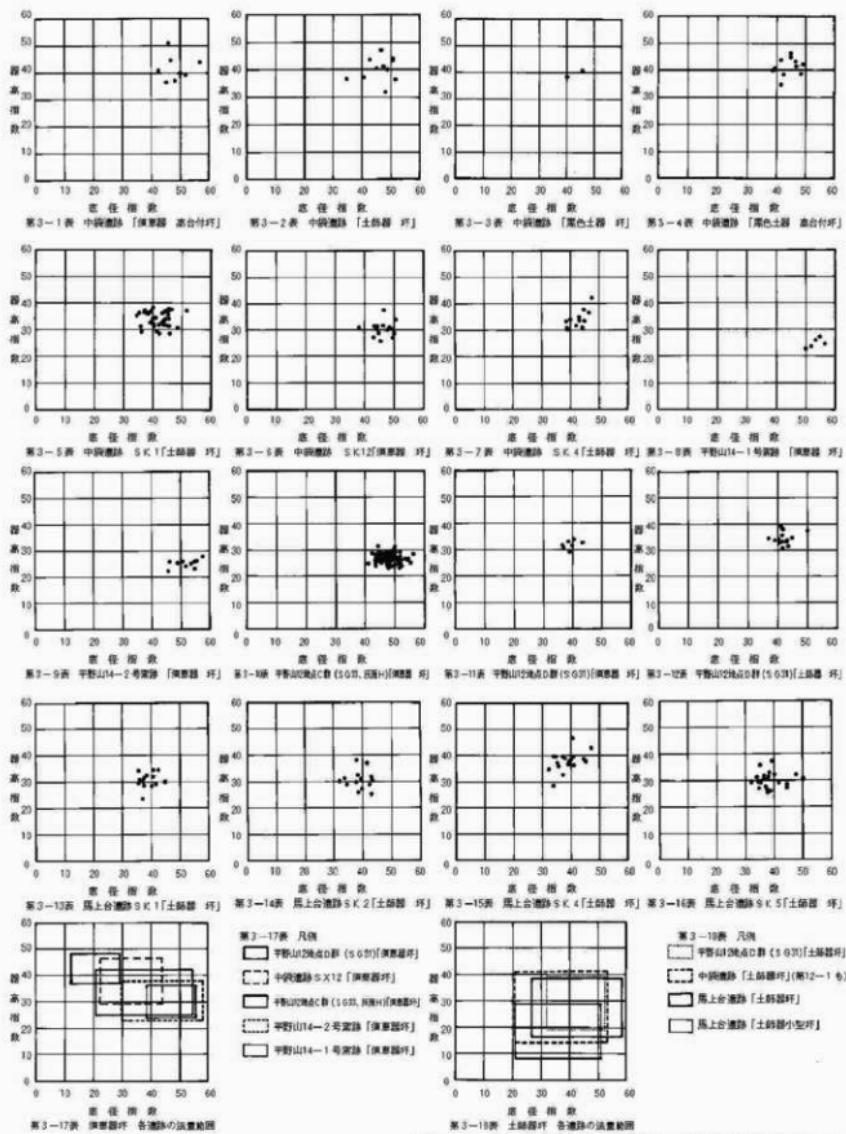
第2-4表 2-3表拡大図



第2-3表 中袋遺跡「土師器坏」指数グラフ

凡例  
 □……外傾度41° 未溝のもの  
 ●……外傾度41° 以上45° 未溝のもの  
 ○……外傾度45° 以上のもの

第2表 中袋遺跡 須恵器坏、土師器坏指数グラフ



第3表 中袋遺跡及び他遺跡の器種別指指数グラフ

A 5 類：底径が④よりもやや大きいが、器高は指数の単位で5ほど大きい。よって、A 5 類は④よりも新しいと判断した。④より新しいことから10世紀初頭も十分に考えられるが、須恵器坏が存在することを考えるとまだ9世紀代に入る可能性がある。よって9世紀最終末期から10世紀初頭としておく。

#### <土師器坏A>

A 1 類：底径・器高共に大きく古い要素を持っている。ただし山形盆地ではロクロ成形の土師器坏出現期にあたる9世紀第2四半期から第3四半期の資料が少なく厳密な意味では比較できなかった。④と比較するとA 1 が底径・器高共に大きく、④の時期よりは古く、9世紀第2四半期から第3四半期に比定される。

A 2 a 類：器高は④・⑤SK 4と同じだが、底径が指数の単位で5程大きい。ばらつきの範囲とすれば④・⑤SK 4と同じ時期、そうでなければやや古い様相を持つ。

A 2 b 類：④・⑤SK 4と同じ傾向を示す。よって④・⑤SK 4と同じ時期に比定される。

A 2 c 類：④・⑤SK 4よりも底径・器高共に低く、⑤SK 1・2・5に近い。

法量的には④及び⑤SK 4は同じ範囲にまとまるが、或いは9世紀第4四半期と10世紀初頭の土師器坏にはあまり大きな変化はないのかもしれない。ここでは9世紀第4四半期から10世紀初頭に比定しておく。但し土師器坏A 2 c 類はより新しい様相を示す。

A 3 : ⑥SK 1・2・5と同じく底径・器高共にやや小さい。⑤報告書でいう小型坏にあたる。底径・器高の縮小化が一層進行している。⑤SK 1・2・5の範囲に等しく、小型坏の出現期として10世紀第1四半期から第2四半期に比定される。

遺構毎の出土状況：遺構単位でどの分類の土器が共伴するのかをここでは検討する。検討の対象となる遺構は、ある程度の一括性が保証され、かつ出土土器点数が多いものとなる。この条件を満たす遺構はSK 1・2・14・68・SX12の僅か5基に過ぎない。全て土坑類である。

SK 1 : 須恵器は全て破片資料で、器種も壺・甕に偏る。須恵器の坏・高台付坏は1点づつで全形も不明である。須恵器の供膳形態が組成するのかも疑われる。土師器供膳形態は坏A 2・A 3 類の各細分の土器が出土している。他に土師器では高台付坏B 3 類(22-16、24-9)、高台付碗(23-6・7)、高台付皿(22-15)がある。黒色土器では坏ではなく、高台坏B 2 類(23-8・10)が共伴する。煮沸形態の土師器では壺E 6(23-3)、壺G 1(22-21)がある。土器の齊一性が強く、ほとんど時期幅を想定しない。10世紀初頭(第1四半期)としておく。

SK 2 : 須恵器は全て破片資料で数も少ない。壺・甕が主である。土師器の供膳形態では坏が少なく、高台付が多い。土師器は坏A 2 b 類(26-1・2)、A 3 類(26-10)、高台付坏B 2 類(26-3・4・5)が出土している。SK 1のような極端に底径・器高が小さく、大きく外に開く土師器高台付坏B 3 類は共伴しない。黒色土器坏ではなく高台付坏B 1 類(27-1・15)が共伴する。器形的にも土師器高台付坏に近い。煮沸形態では土師器壺E 5(26-13)・E 6(26-14)が出土している。SK 1とほぼ同じ時期と考えたいが、須恵器が組成することからやや古い。土師器坏A 3 類の時期を取れば10世紀初頭以降となるが、A 3 自体が少なく土師器高台付坏B 2 類に主体があり、大きく下ることはない。よって10世紀直後としておく。

**S K14**：須恵器壺はA 5類が3点出土している(33-17、34-2・3)。須恵器で器形の判別できるものが比較的多いものの基本的に少ない。土師器供膳形態では壺がA 1～A 2類まで満遍なく出土している。但しA 1類はやや異質である(33-11・13)。主体はA 2 b類(33-5・6)、A 2 c類(33-1・2・4・7・9・10・13)である。また土師器の小型壺であるA 3類が組成しない点は重要である。遺構の時期の下限が10世紀初頭より下らないことを意味する。土師器高台付壺はB 3類(33-8)が出土している。黒色土器は破片資料のみである。土師器の煮沸形態ではE 3(34-1)・E 4(33-15・16)・E 7(34-5)が出土している。全体に見て土師器壺A 1は特異だが、土師器壺の時期から凡そ9世紀第4四半期から10世紀初頭に比定される。但し数は少ないが須恵器が存在することから10世紀まで下らず9世紀末としておく。

**S K68**：合せ口壺棺が埋設された墓壙であるが、一括性があるためここで触れる。出土した土器は、壺棺の本体である壺2点と壺棺内部に内蔵されていた土師器1点、そして壺棺の下から出土した黒色土器1点である。壺は非クロコ調整の土師器で分類のE 1類である。土師器壺はA 1類が1点である(38-4)。黒色土器はA類である(38-3)。壺類の検討から9世紀第3四半期から第4四半期に比定される。黒色土器の壺があり高台付壺がないことや、須恵器のないことも重要だが、資料数が少ないとから、須恵器が全く組成しないとするには根拠に乏しい。よってここでは時期的には幅を持たせておく。

**S X12**：須恵器が主体をなし、須恵器壺A 3類(31-1・4・6)、A 4類(30-1・3・5・18、31-2・14・17・18)、A 5類(30-19・31-5)まで出土しているが、出土数からするとA 3類が主体を占める。他に須恵器高台付壺B 3類、蓋D 1・D 2類、壺E類、壺F 2類、土師器壺A 2 c類、壺E 4類が出土している。また底部切り離しが回転範切りによる須恵器壺A 2類(30-6)が出土している点も看過できない。須恵器壺からすると9世紀第2四半期から9世紀第4四半期まで時期幅がある。須恵器高台付壺B 4類も時期的には新しく、9世紀第4四半期に比定される。土師器壺は先の検討で9世紀第4四半期から10世紀初頭については法量的に大きな変化がつかめないことがわかっており、土師器壺A 2 c類が9世紀第4四半期に存在しても良い。また集落跡では登り窯などの生産遺跡と異なり単純な形での土器の一括性は期待できない。廃棄時期が一緒でも伝世などにより他時期の土器の共伴がありえるからである。よってS X12については廃棄時期を最も新しい土器群の時期を探り9世紀第4四半期とするが、9世紀第2四半期から9世紀第3四半期の資料も混在する可能性を否定できない。

## 2 奈良・平安時代のその他遺物

ここでは前項で触れなかった遺物の中で説明の必要なものについて述べる。

### 須恵器

<須恵器高台付壺B>須恵器の高台付壺は、法量による分類を行っているが資料数が少なく、他遺跡との法量の比較による時期の比定には至っていない。全体に10世紀まで下らない。

**B 1類**：3点のみである(40-8・41-19・44-8)。外傾度が小さく、壺身の深いもの。

本遺跡では古手に属する。

B 2 類：4点のみである（37-20・41-14・43-12・47-17）。器高がB 1 類よりも小さくなり、外傾度も大きくなる。やや新しい。

B 3 類：1点のみである（30-2）。底径が小さくなり、外傾度も極めて大きく、外に大きく開く。須恵器としては9世紀第4四半期まで下がる可能性がある。

<須恵器覗G>覗類は3点出土している（52-7・8・9）。全て風字硯である。52-7はS X375出土で、内外面ともに範ヶズリ調整される。底部には脚がつく。内面の陸部と海部の境界には仕切りがなされている。52-8はM-17区（旧河川跡）出土で、内外面共に範ヶズリ調整されるが、52-7のように仕切りはなく、陸部と海部の境界も判然としない。

#### 土師器

<土師器高台付坏B>土師器の高台付坏は法量で分類はしているが、資料数が少なく、他遺跡との法量比較は出来なかった。9世紀第2四半期以降と考えているが、資料が少ない。

B 1 類：2点のみである（44-11・46-18）。底径が大きく器高の小さいもの。古手に属する。

B 2 類：7点ある（22-16・26-3・4・5・6・37-14・45-4）。底径が小さく外傾度が大きい。SK 1・2からの出土より9世紀の最終末から10世紀初頭の時期が与えられる。

B 3 類：2点のみである（24-9・33-8）。口径は大きいが、底径・器高が共に小さく、外傾度が極めて大きい。SK 1・14からの出土を考慮するとB 2 類と大きな時間差はないようだが、器形的には大きく異なり、より新しい様相ととらえたい。

<土師器皿C>2点のみの出土である（41-5・12）。小形の土師器坏に似るが、より外傾度が大きい。底部は台付ではないがかなり厚めで、後世の柱状高台を思わせる。新しい様相か。

<土師器高台付皿>1点のみの出土である（22-15）。器形的には土師器皿Cに似る。但し底部に台がついている。SK 1からの出土で土師器皿同様に新しい様相ととらえたい。

#### 黒色土器

黒色土器は全般に数が少ない。坏と高台付坏に分けられ、坏は古手の土師器に似る。坏はSK 1・2・14等には組成しないため、10世紀前後には廃絶するのかもしれない。これに対して高台付坏は10世紀前後には黒色土器の主体となる。黒色土器の坏と高台付坏は時期・系統が異なり、その性格についても考慮する必要がある。黒色土器では他に灰釉陶器の模倣と疑われる段皿や耳皿も出土している。黒色土器高台付坏、特に内外面を丁寧なミガキ調整後に黒色処理する両黒の土器は、その制作技法が黒色土器の耳皿や段皿に共通しており、灰釉陶器や綠釉陶器の模倣とも考えられる。

<黒色土器坏A>2点のみの出土である（30-4・51-5）。破片資料では坏か台付か判断できないものもあったが、大部分が台付と判断した。ロクロ成形であるが、内面ミガキ調整後黒色処理される。30-4はSX12出土で、SX12の中でも古いものと考えられる。

#### <黒色土器高台付坏B>

B 1 類：7点出土している（27-1・15・31-11・36-6・37-27・39-7・41-20）。底径・器高共に大きいもの。外傾度が小さい。やや古い。体部の立上りが直線的なものと、内彎

気味に立上り口縁部で屈曲するもの、内縁気味に立上り口縁部に至るものに細分される。

B 2 類：6点出土している（23-8・10・39-8・41-8・42-16・44-12）。底径器高共にB 1 類より小さい。結果外傾度が大きく、外に大きく開く器形となっている。B 1 同様に器形により3分される。

＜黒色土器段皿D＞1点（28-19）がSD 5から出土している。口クロ成形で内外面ともミガキ調整後、黒色処理される。体部中位で段がつく。底部は欠損しているが恐らく高台がつく。

＜黒色土器耳皿＞1点（40-13）のみで、SK 229出土である。内外面共にミガキ調整後黒色処理される。

#### 灰釉陶器

＜灰釉陶器碗A＞灰釉陶器の碗は4点出土している（52-2・4・5・6）。全て破片資料であるが、52-2のみ全形が伺える。全体に厚手で、体部は内縁しながら立ち上がり口縁部で強く外反する。口縁端部は水平に近い。高台は低く僅かに外に開く角高台である。底部及び体部に回転窓割りが施される。内面は灰釉が施される。猿投K-14の2型式に比定。52-4はSX 427出土の口縁部破片である。内外面に灰釉が施される。口縁端部の外反が弱い。猿投K-90の2型式若しくは3型式に比定。52-5はH-3区出土の底部から体部中位の破片である。高台は長く三日月高台に近い。底部・体部下半に回転窓ケズリが施される。体部は直線的に開くようである。灰釉は内面底部の高台接地面には施されない。猿投K-90の2型式に比定。52-6はK-15区出土の体部破片である。体部外面に回転窓ケズリが施される。内面に灰釉が施される。体部が内縁気味に立ち上がることから、猿投K-14からK-90（古）に比定。

＜灰釉陶器長頸壺B＞1点のみ出土している（52-3）。体部若くは肩部の破片である。極めて小さく器形を窺うことは困難である。また時期も決定しがたい。猿投K-90頃としておく。

#### 石製品

石帯が1点出土している（52-10）。F-17区出土である。黒色粘板岩の丸軸で、表面及び側面は良く磨かれる。裏側の三方に二孔一対の潜り孔を空けてある。潜り孔は互いに斜めに穿孔されており、2孔の接点で貫通するように作り出されている。裏側の潜り孔周辺は3ヶ所とも破損しているが、補修のためにできたものではない。9世紀から10世紀のものであろう。山形県内での腰帶具は、8世紀代の金属製の鎧帶が置賜盆地から、9世紀から10世紀に比定される石帯は庄内の飽海地方から複数出土している（当センター『西谷地遺跡第3次発掘調査報告書』1996、P91参照）。しかし山形盆地からの出土は僅少で、これまで山辺町の達磨寺遺跡から石帯の巡方が1点出土したのみである。本遺跡からは石帯以外に風字硯・段皿・耳皿・灰釉陶器など特異な遺物が出土しており、遺跡の性格を考える上で興味ある遺物である。

### 3 他時期の遺物

奈良・平安時代以外の遺物について一括する。

＜青白磁小壺蓋＞1点出土している（52-1）。SK 229からの出土である。蓋の上部には蓮弁文が2段施される（上段6弁、下段16弁）。胎土は乳白色を呈し、釉は白みの強い青白色を

呈する。釉は上面にのみ施され、内面には施釉されない。上部の一部が欠損するものほぼ完形である。摘みは付かない。13世紀代のものであろう。発掘段階では完形品の県内初出になるが、近年の発掘では東根の小田島城跡でも出土している。破片では寒河江市の三条遺跡にも類例がある。

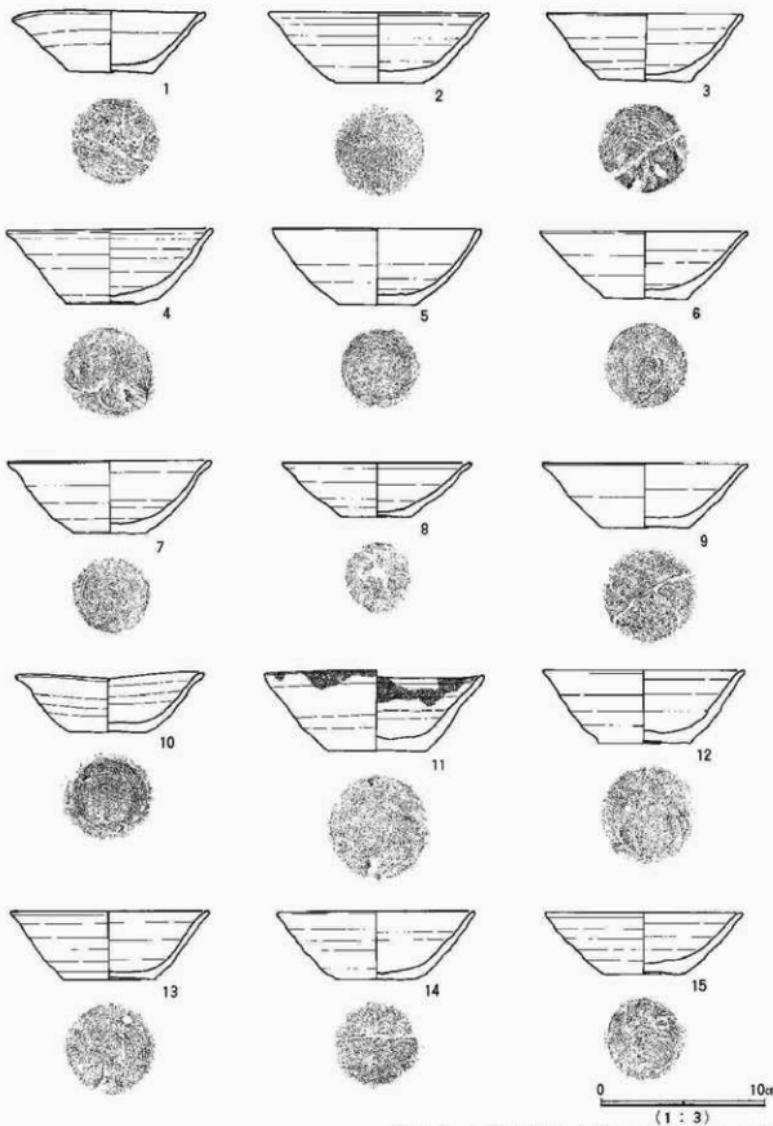
中世の遺物で特記すべきものはこの1点のみである。奈良・平安時代に最上川の後背湿地の僅かな微高地に遺跡があることから、中世でも同様の微高地を占地していてもおかしくない。遺跡の主体部には中世の遺構が存在する可能性もある。

#### 出典

- 1 平野山古窯群第14地点1号・2号窯跡の資料データは、寒河江市教育委員会『平野山窯跡第14地点発掘調査報告書』のデータを、「とことん須恵器を見る会」第9・10回資料で再計測・再実測したものを2次利用している。
- 2 平野山古窯群第12地点のC群土器・D群土器の資料データは、財団法人山形県埋蔵文化財センター『平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次調査発掘調査報告書』のデータを一部再処理して利用している。また、本報告書で使用した同遺跡のC群土器データはS Q33と灰原Hの双方を一つにまとめてグラフ化している。同遺跡の報告書では灰原Hの資料がS Q33と比べて法量的にばらつきがあるとされ別個にグラフ化されているが、筆者は大きな違いはないと判断したためである。なおデータは担当であった須賀井明子氏から提供していただいた。
- 3 馬上台遺跡の各土坑出土の土器については、山形市教育委員会『馬上台遺跡発掘調査報告書』の観察表から土師器坏を抽出し再処理したものを利用した。

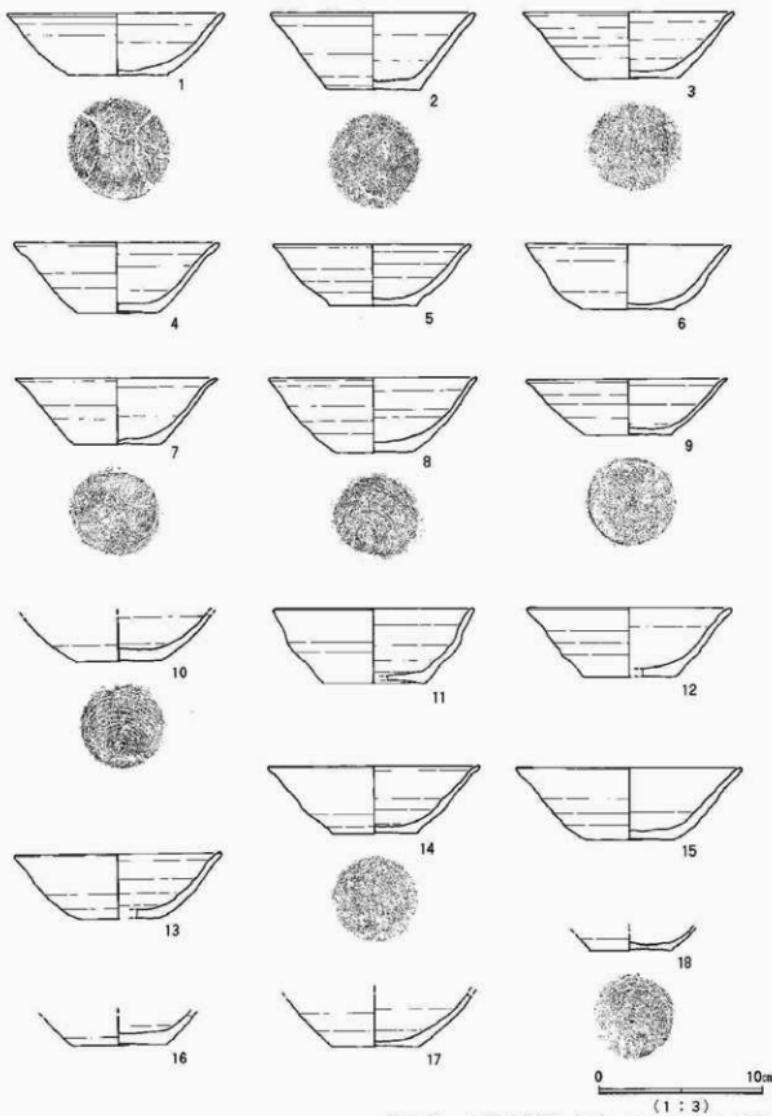
#### 参考文献

- 第25回古代城柵官衙遺跡検討会事務局編『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』1992  
とことん須恵器を見る会編『とことん須恵器を見る会第9・10回資料』2001  
山形市教育委員会『馬上台遺跡発掘調査報告書』1995  
寒河江市教育委員会『平野山窯跡第14地点発掘調査報告書』山形県寒河江市埋蔵文化財調査報告書第3集 1984  
山形県教育委員会『境田C・D遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第76集 1984  
山形県教育委員会『達磨寺遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第104集 1986  
(財) 山形県埋蔵文化財センター『富山2遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第41集 1998  
(財) 山形県埋蔵文化財センター『今塚遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第7集 1994  
(財) 山形県埋蔵文化財センター『平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次調査発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第52集 1998

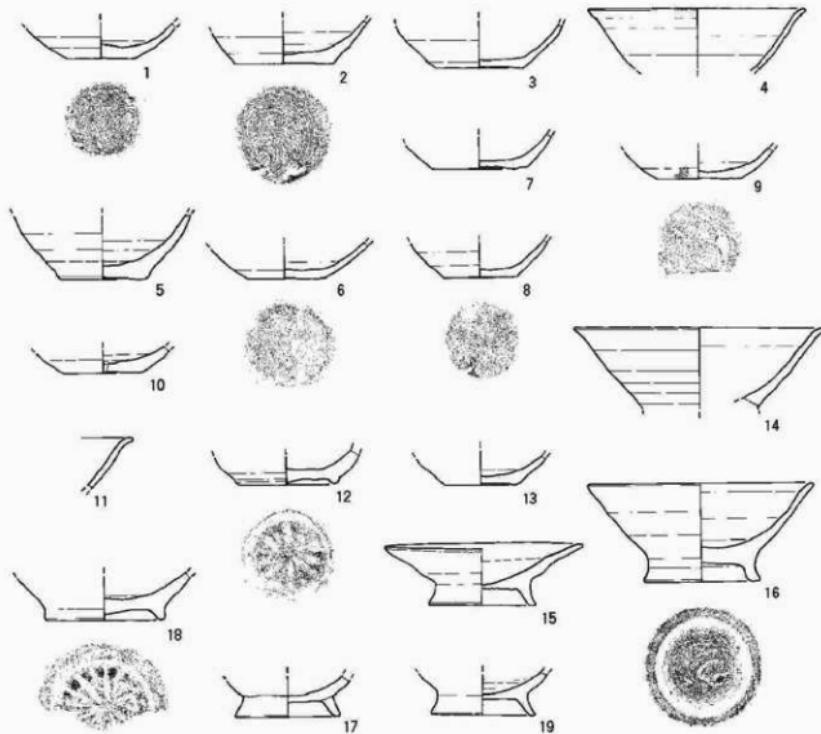


第20図 土器実測図 (1) SK 1 出土土器 1

出土した遺物

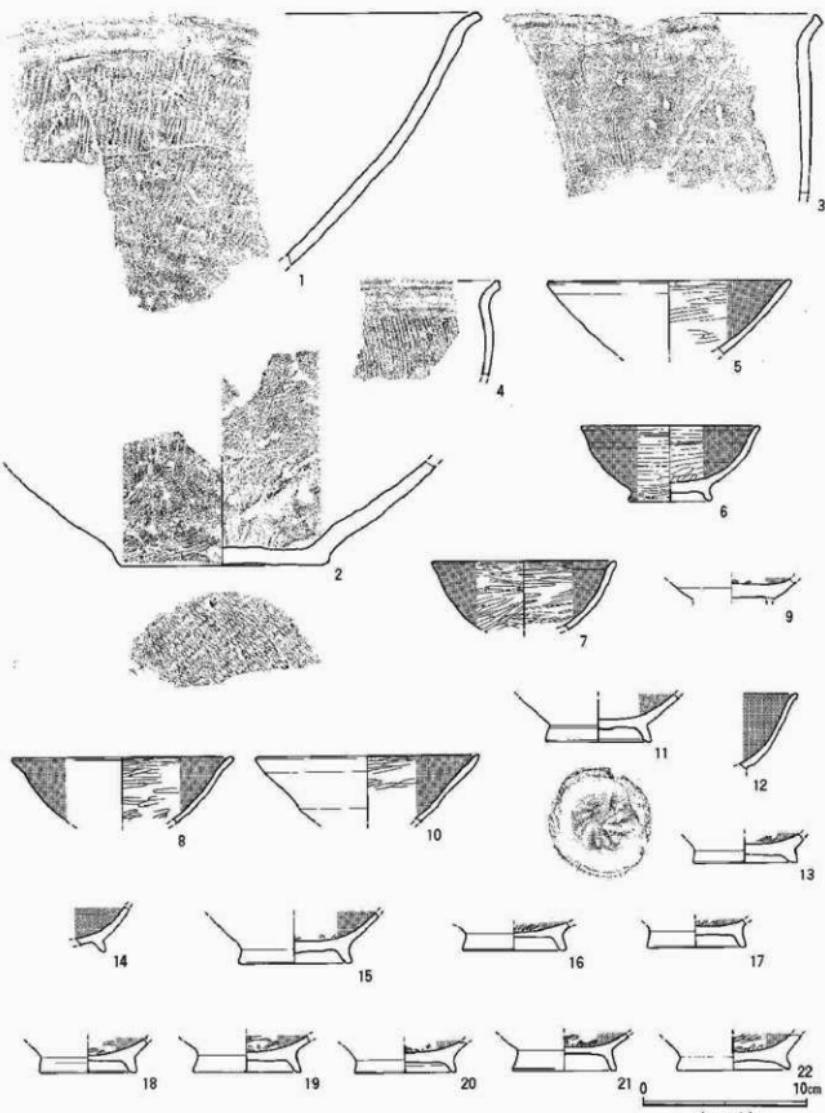


第21図 土器実測図(2) SK 1出土土器 2

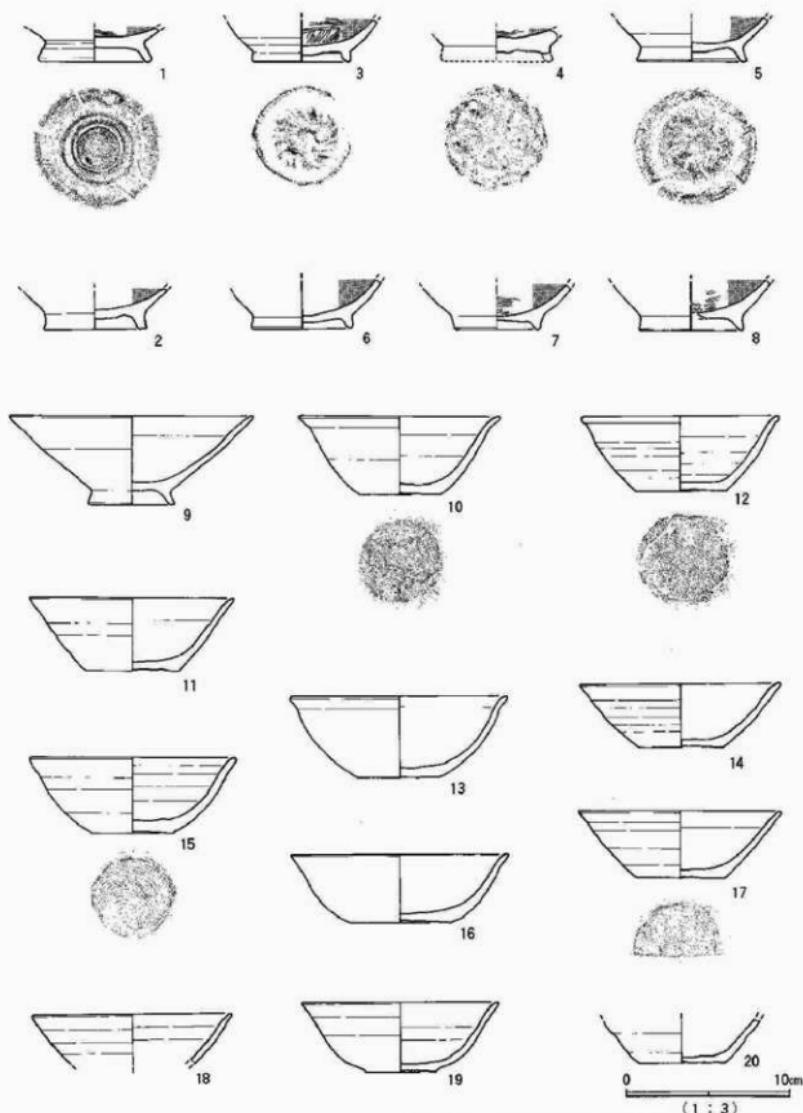


第22図 土器実測図（3）SK 1出土土器 3

出土した遺物

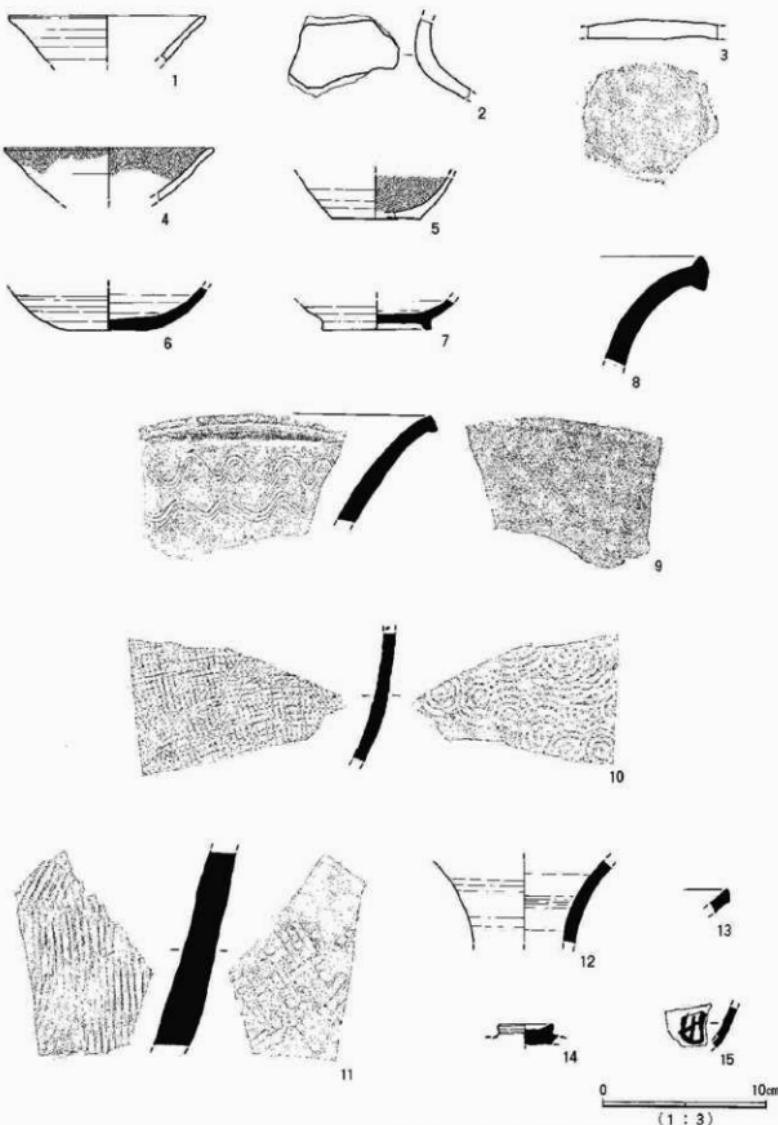


第23図 土器実測図 (4) SK 1 出土土器 4

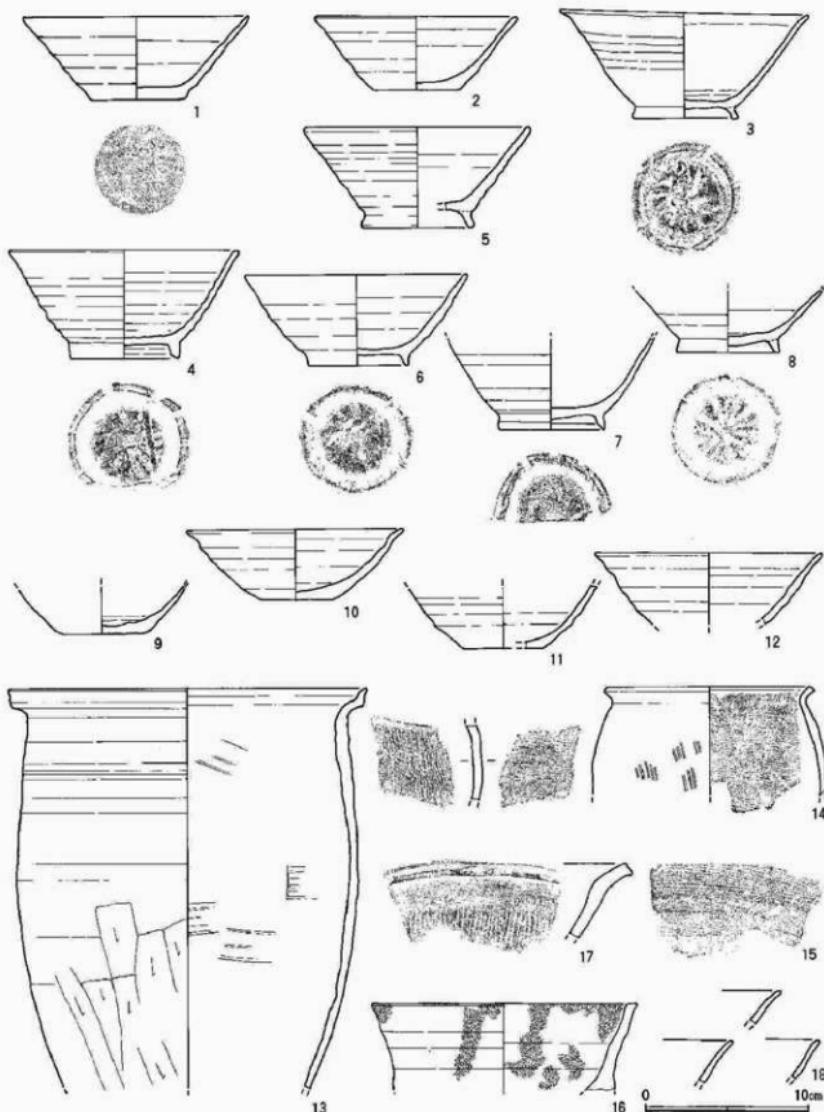


第24図 土器実測図(5) SK 1出土土器5

出土した遺物

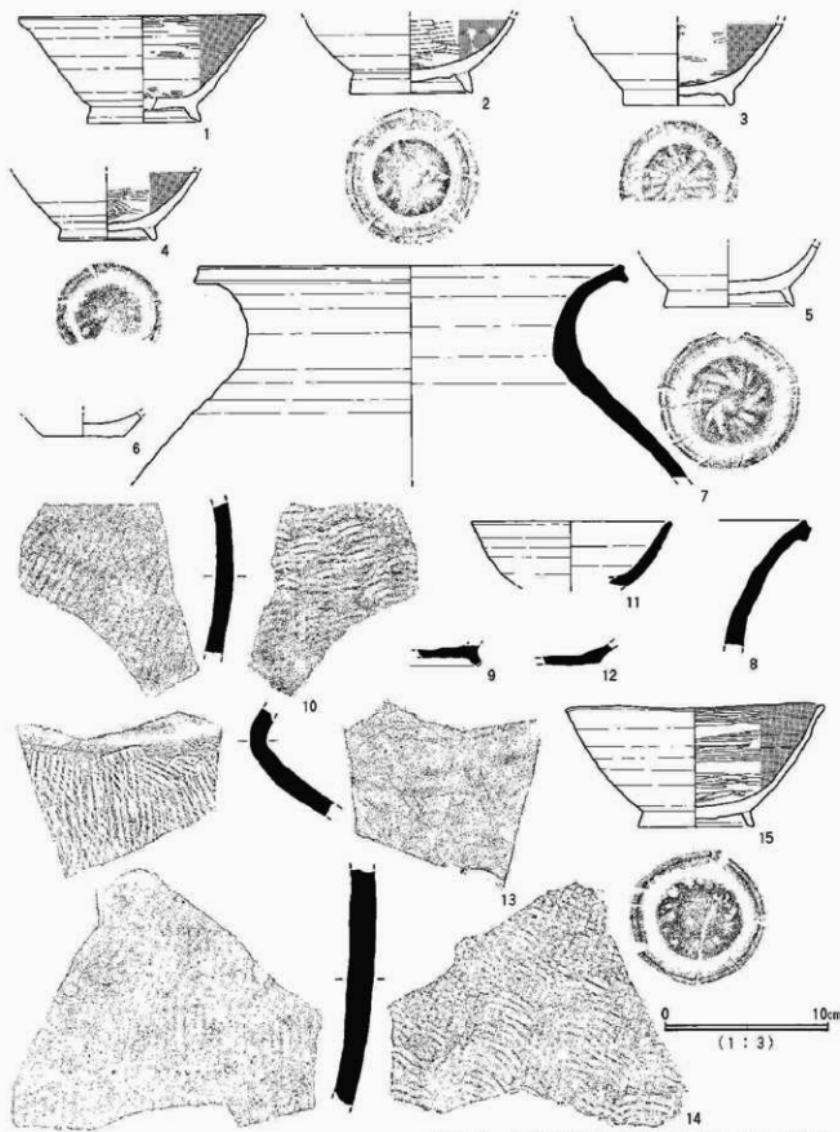


第25図 土器実測図（6）SK 1出土土器 6

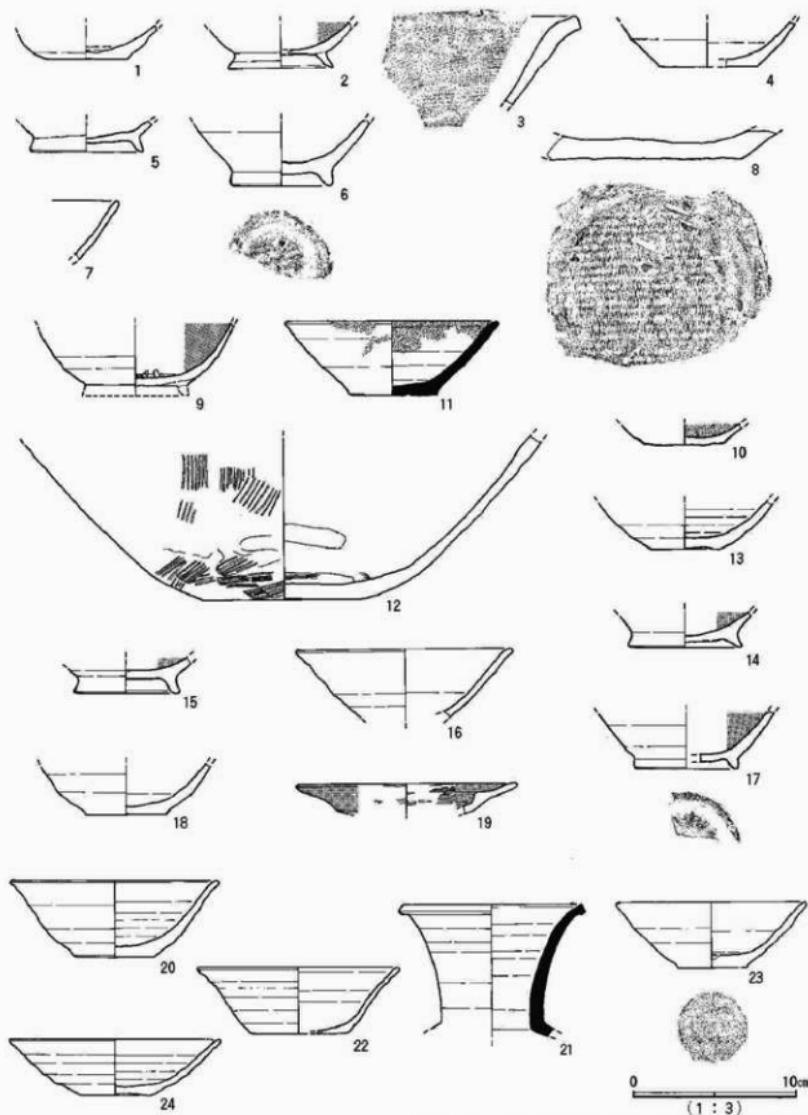


第26図 土器実測図(7) SK 2出土土器 1

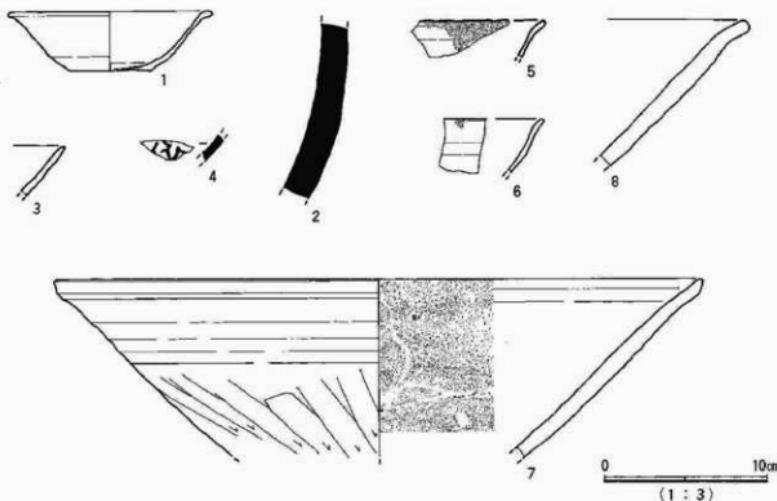
出土した遺物



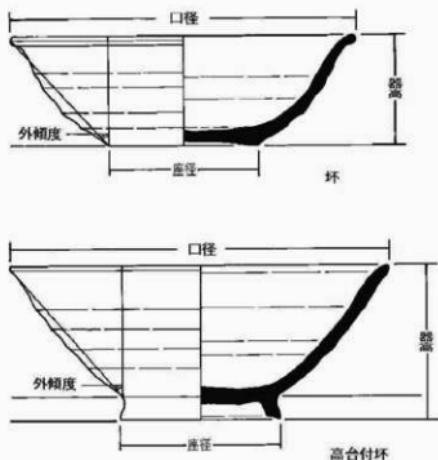
第27図 土器実測図 (8) SK 2 出土土器 2



第28図 土器実測図 (9) SD 5出土土器 1



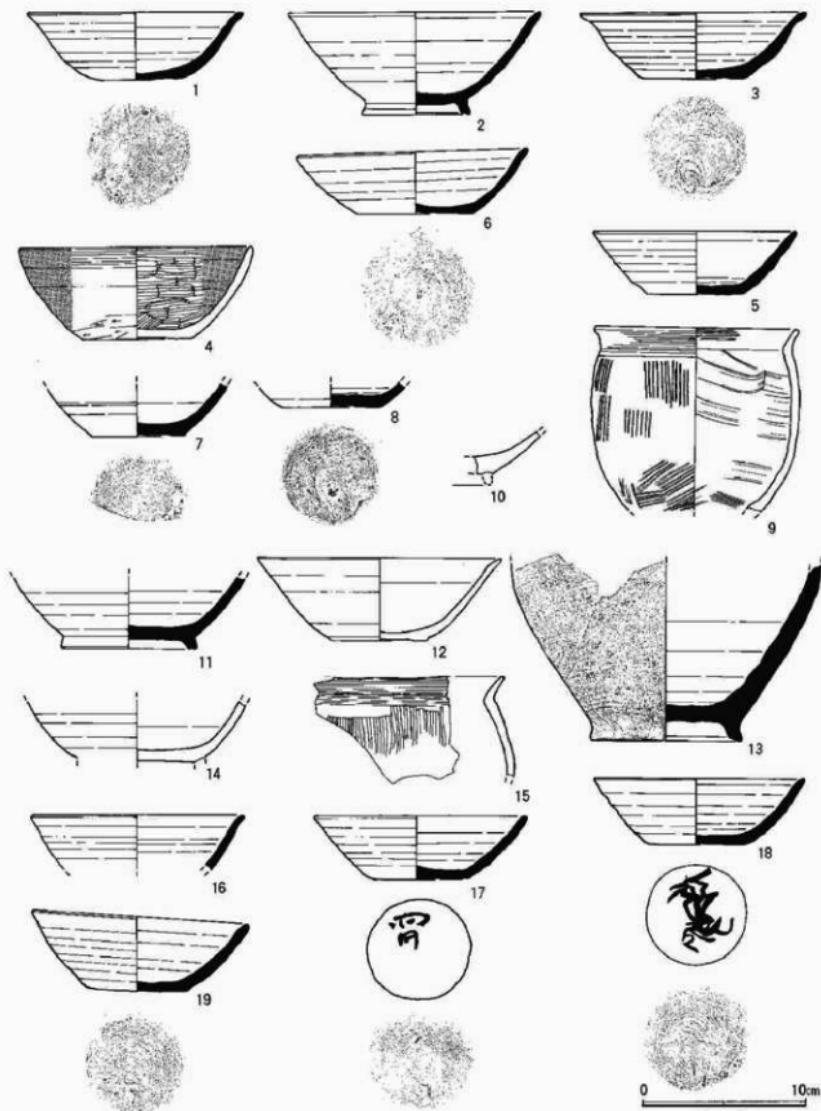
第29図 土器実測図 (10) S D 5 出土土器 2



凡 例

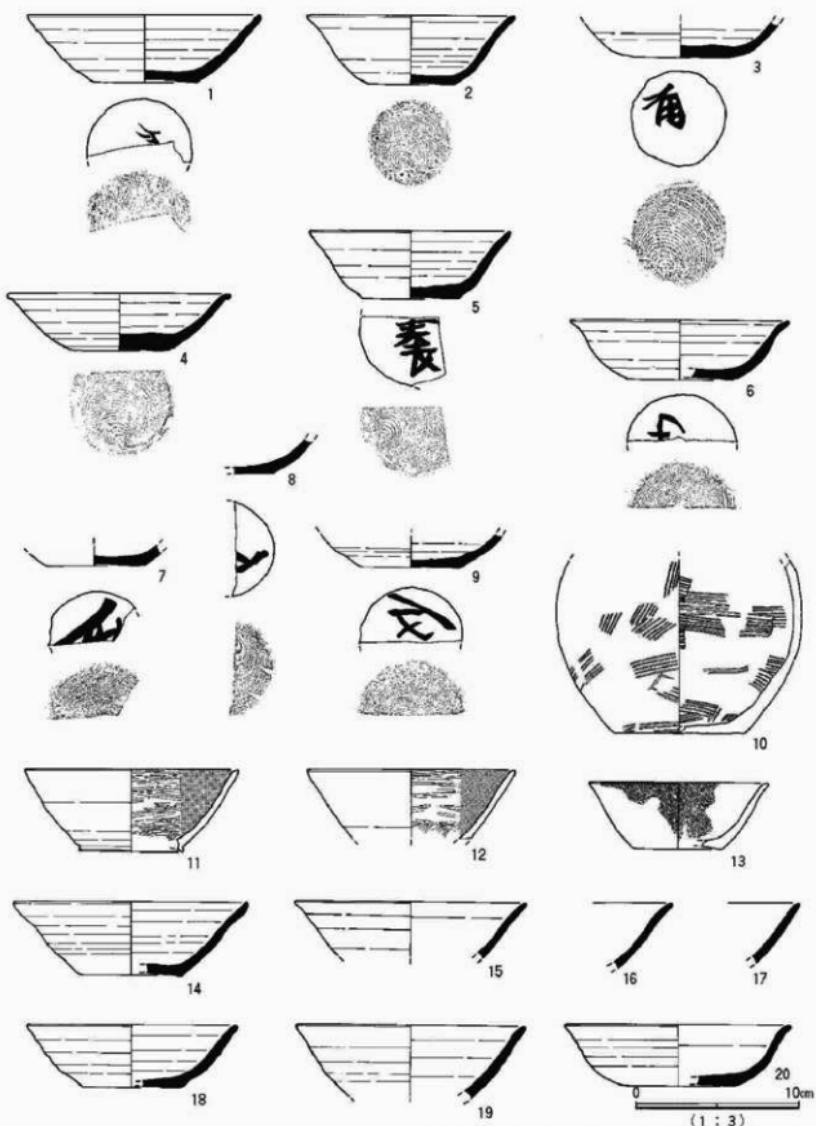
- ①「底径指数」 = 底径 ÷ 口径 × 100  
口径に対する底径の比率
  - ②「器高指数」 = 器高 ÷ 口径 × 100  
口径に対する器高の比率
  - ③「外傾度」  
体部の開きの大きさを示す。ここでは単純に口端（口径部の稜線）と底部端を結んだ線の開き具合を外傾度としている。  
よって体部の膨らみなどの要素は一切捨象している。
- なお、高台付環については環部の底部端を基点として計測している。

第19図 環類計測値模式図

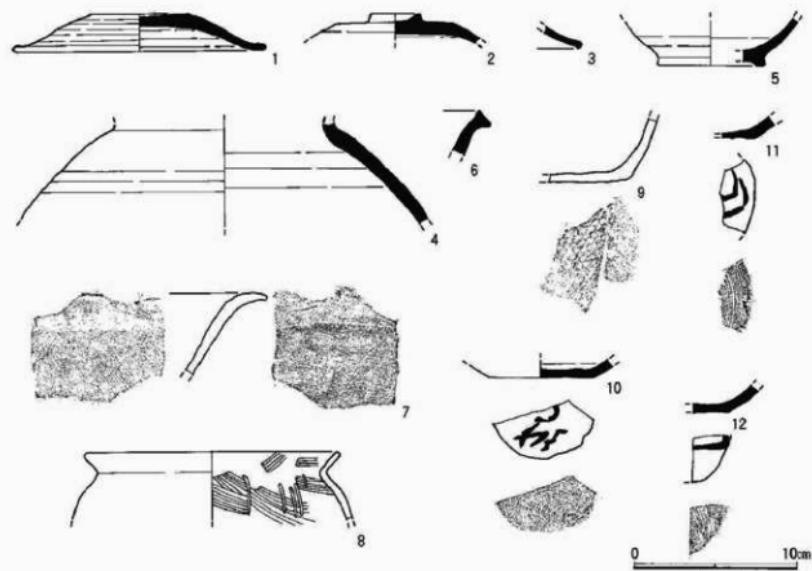


第30図 土器実測図 (11) S X12出土土器 1

出土した遺物



第31図 土器実測図 (12) S X 12出土土器 2

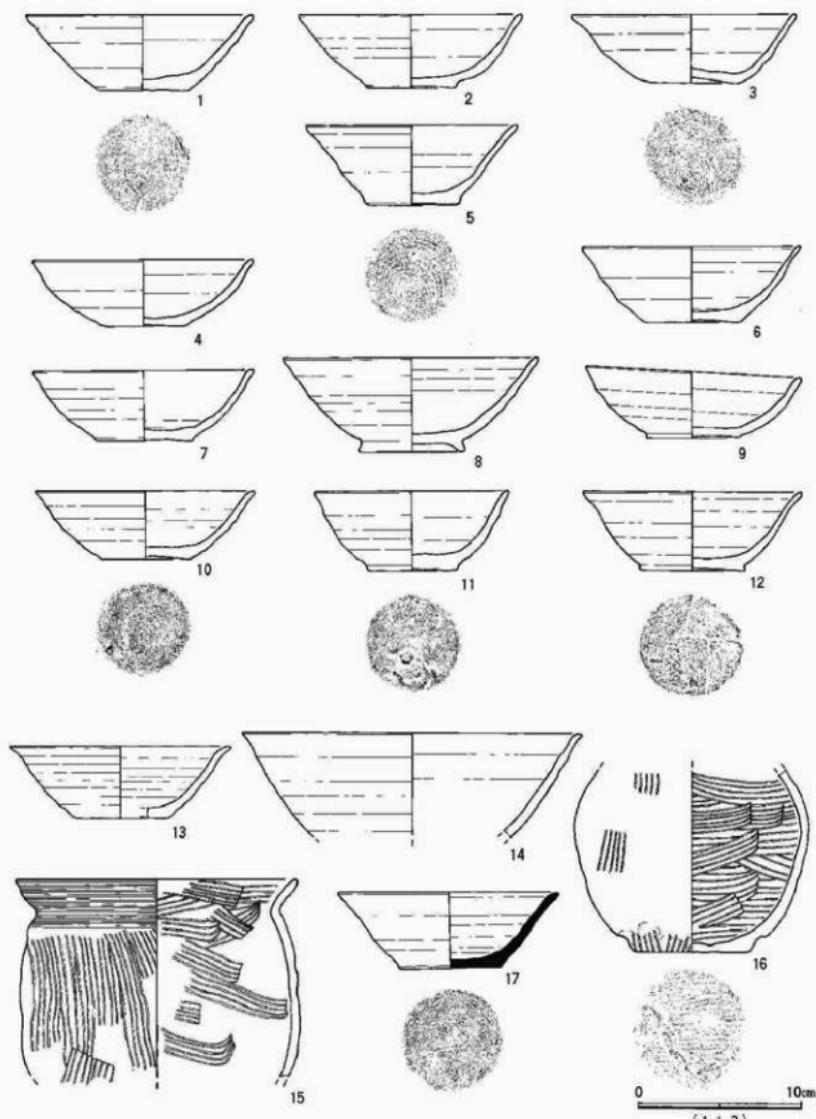


第32図 土器実測図(13) SX12出土土器3

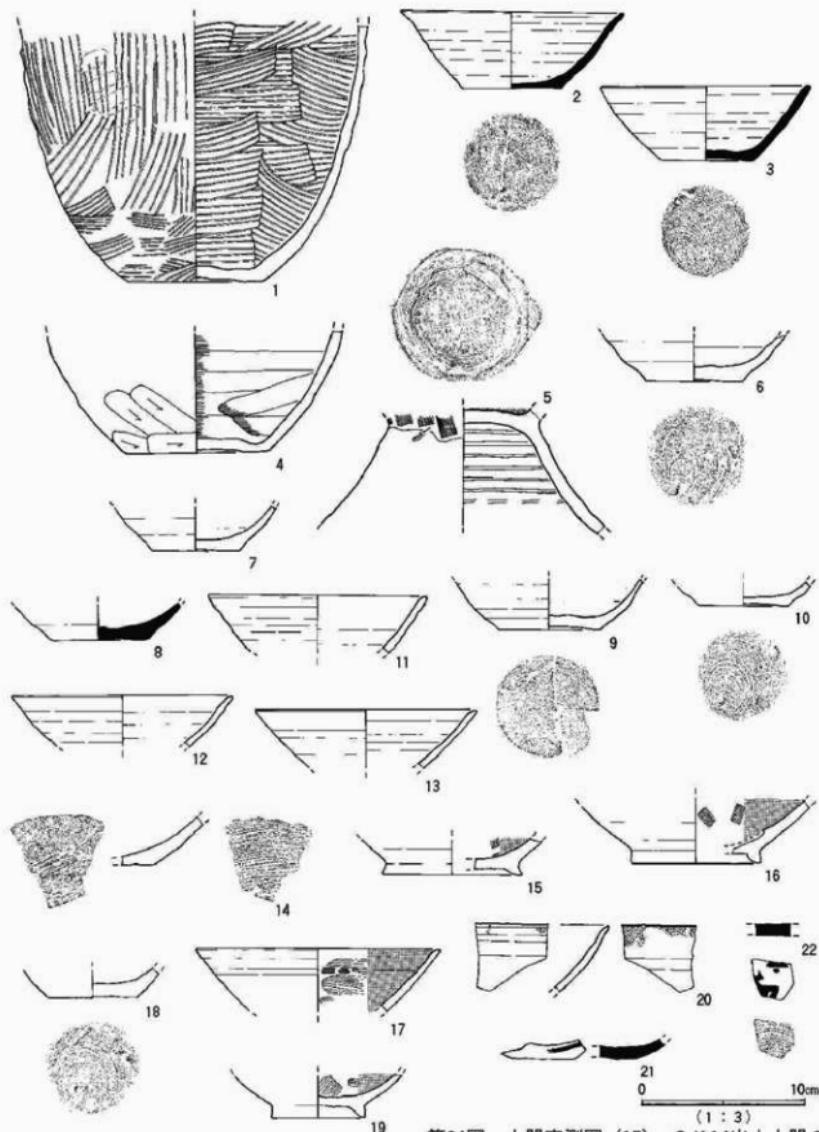
須坏	比較資料	時期	中袋遺跡	土坏	比較資料	時期	中袋遺跡
A 1	なし	8 c 中		A 1	④平野山12 S G31	9 c 第2～ 第3四半期	
A 2	①②平野山 14-1・2	9 c 第2四 半期	S X12	A 2	⑤馬上台 S K 4	9 c 第4～ 10c初	S K 1・2・ 14
A 3	③平野山12 S Q33	9 c 第3四 半期	S X12	A 3	⑤馬上台 S K 1・2・5	10c 第1～ 第2四半期	S K 1・2
A 4	③平野山12 S Q33	9 c 第3四 半期	S X12				
	④平野山12 S G31	9 c 第4四 半期	S X12				
A 5	④平野山12 S G31	9 c 第4四 半期	S X12				

第4表 須恵器坏・土師器坏の時期対応表

出土した遺物

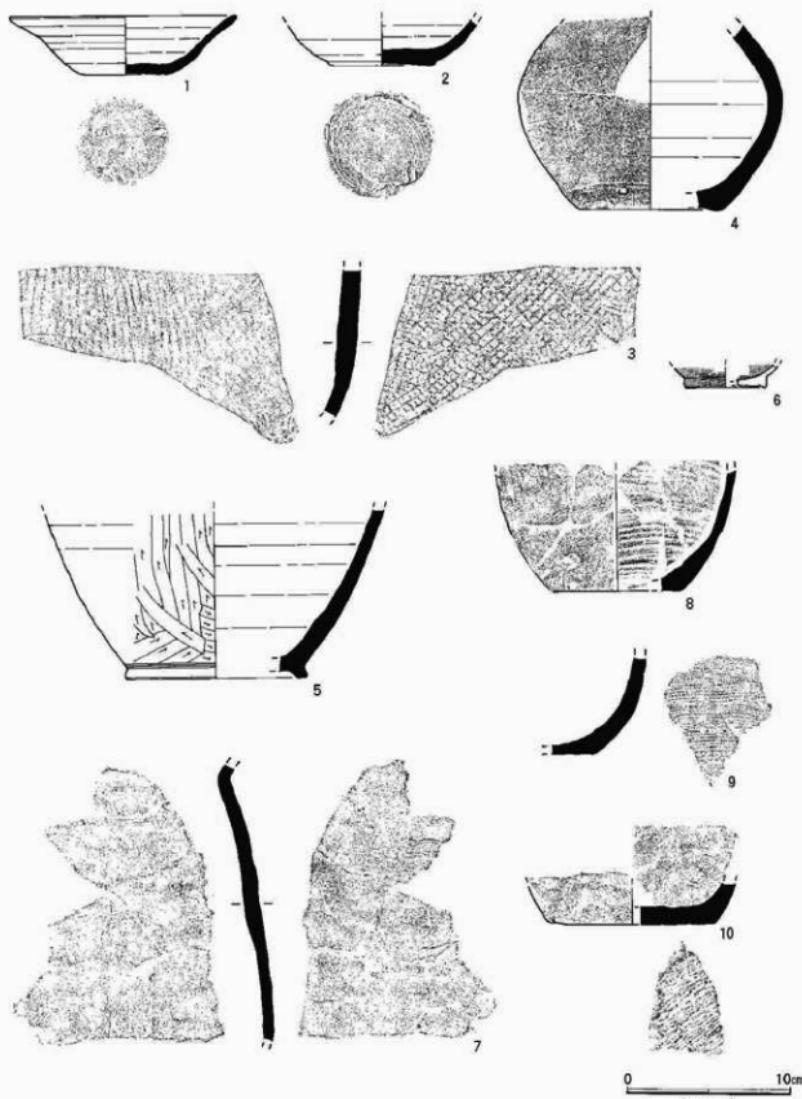


第33図 土器実測図 (14) SK 14出土土器 1

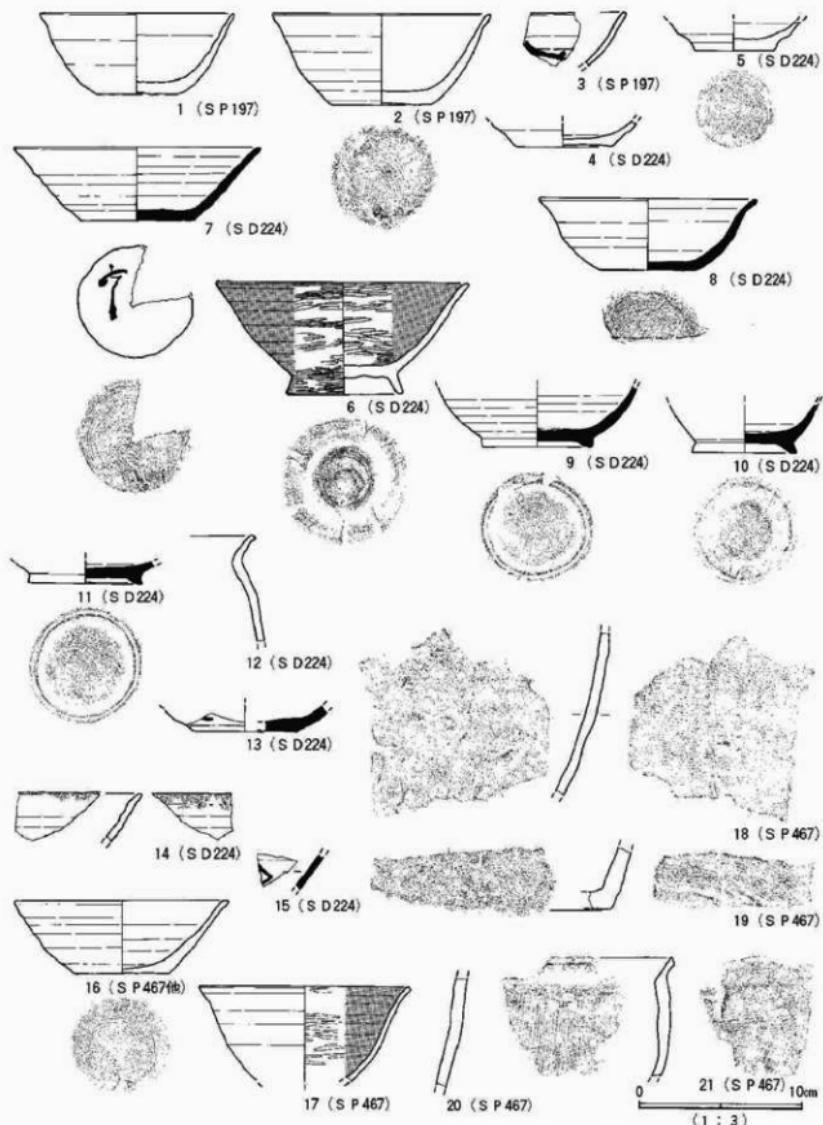


第34図 土器実測図 (15) SK 14出土土器 2

出土した遺物

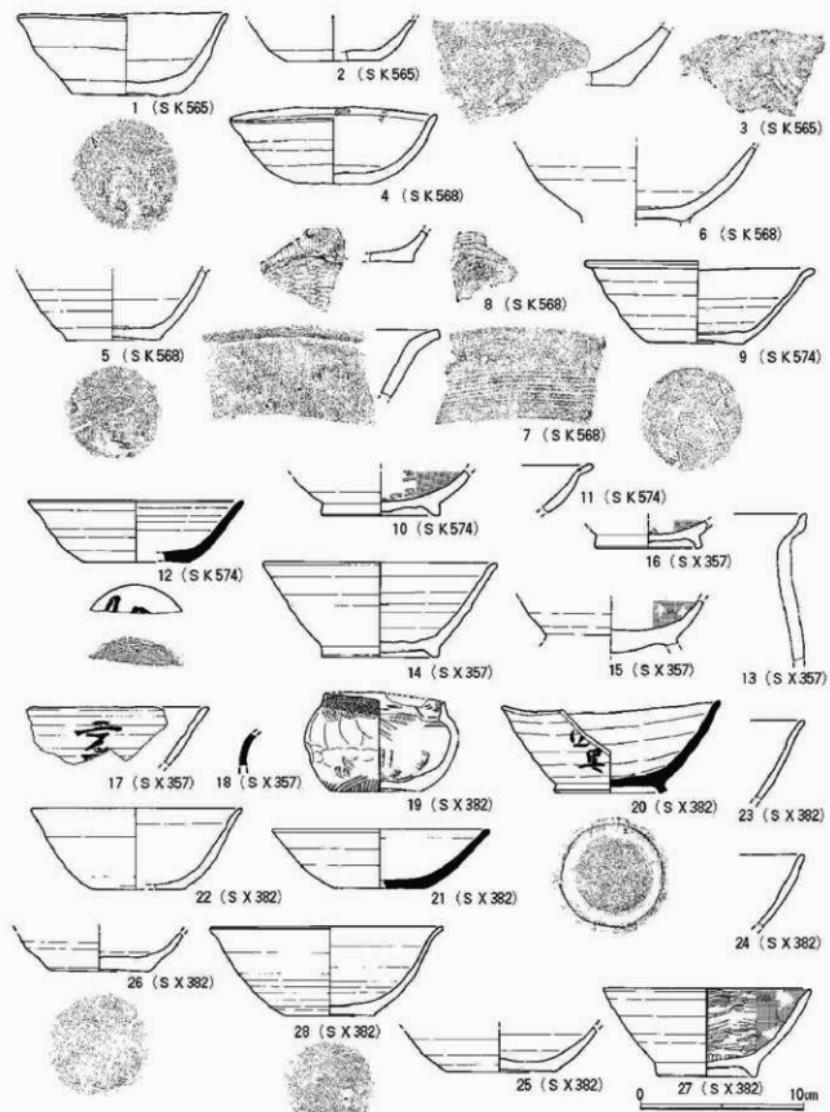


第35図 土器実測図(16) S X 102出土土器

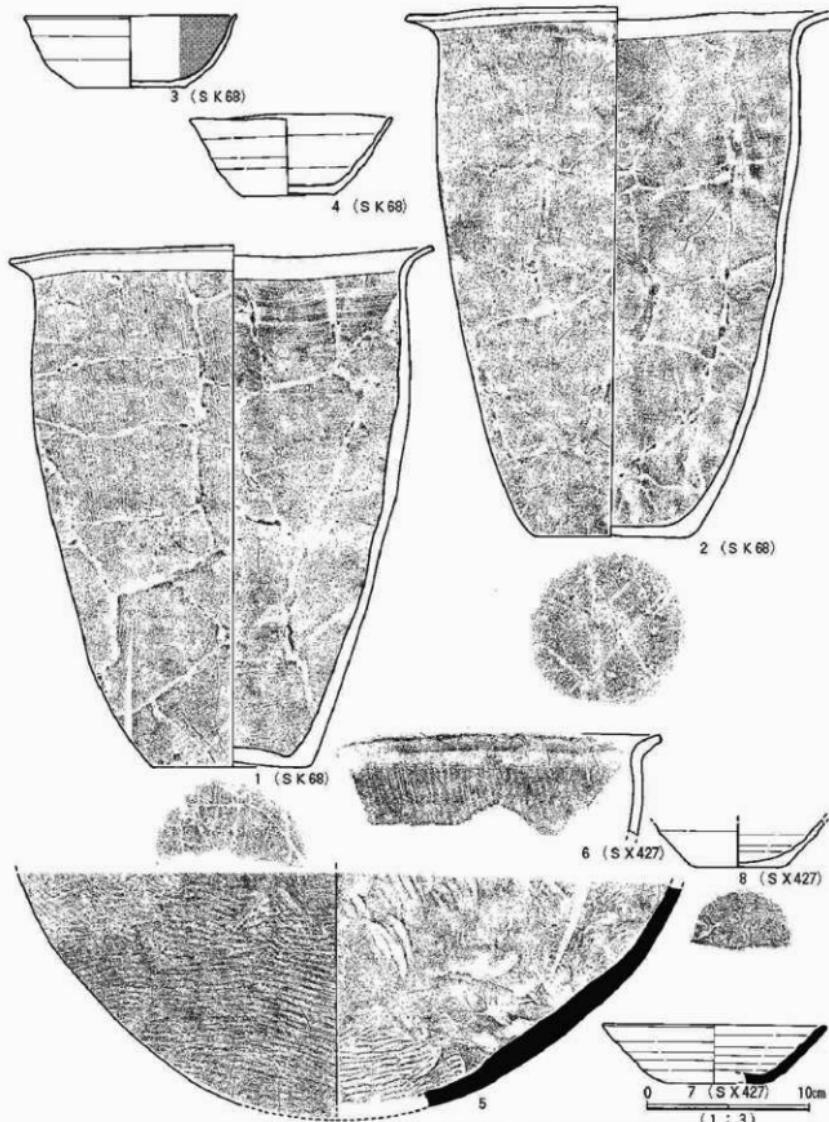


第36図 土器実測図 (17) 遺構出土土器 1

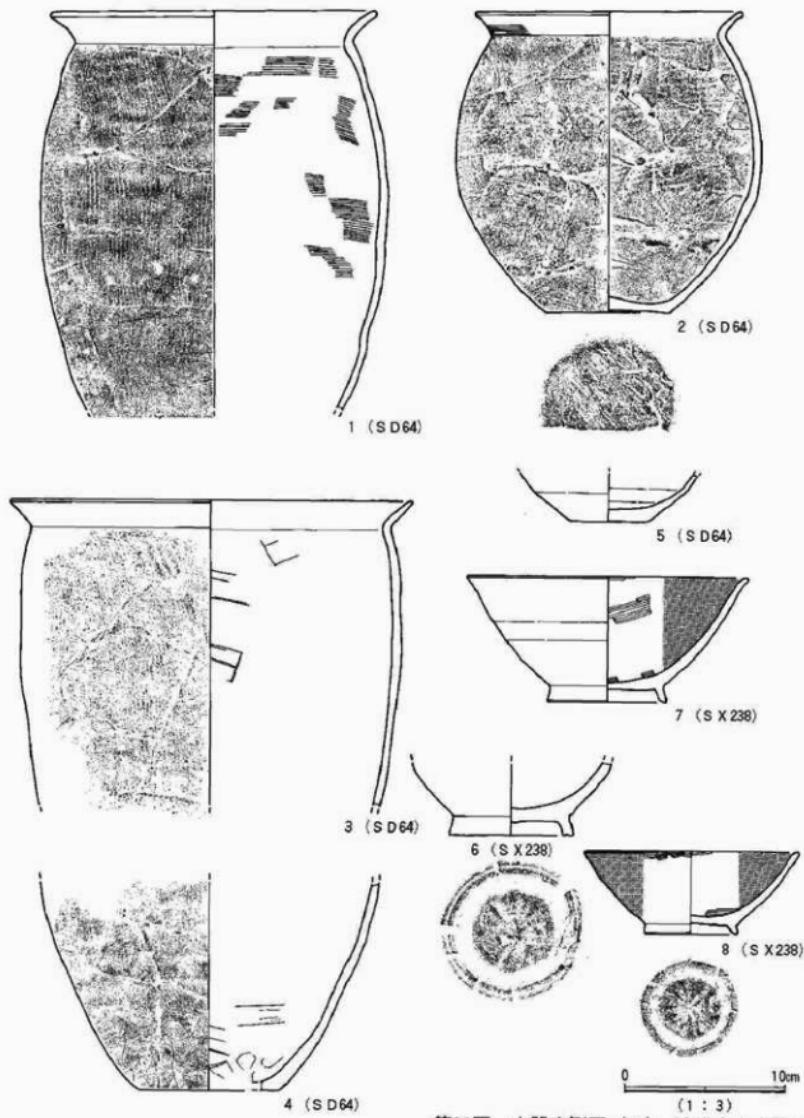
出土した遺物



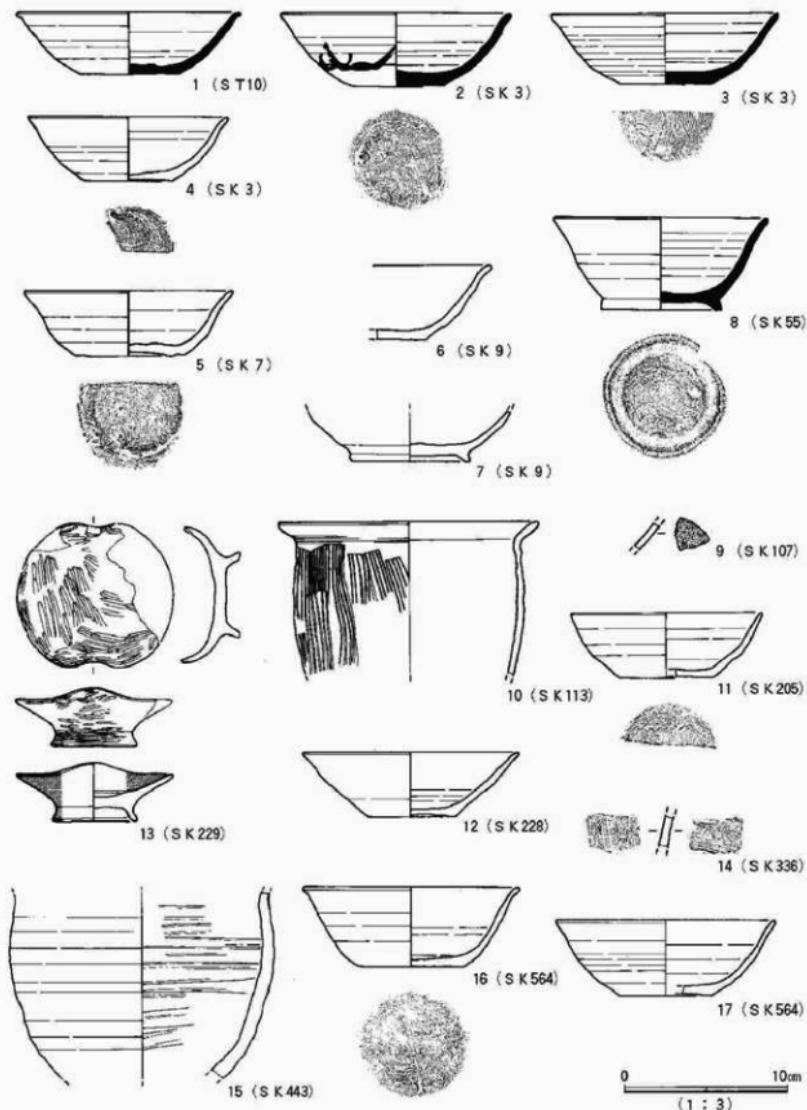
第37図 土器実測図 (18) 遺構出土土器 2



第38図 土器実測図 (19) 遺構出土土器 3

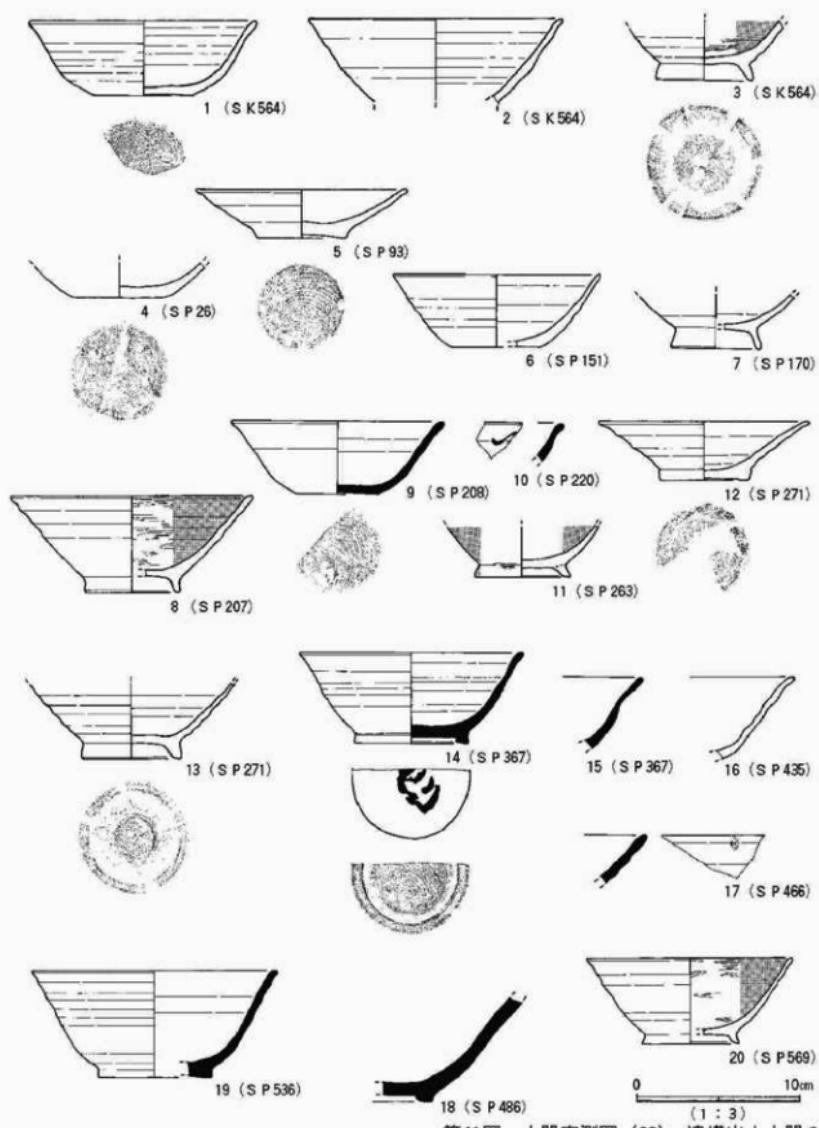


第39図 土器実測図(20) 遺構出土土器 4

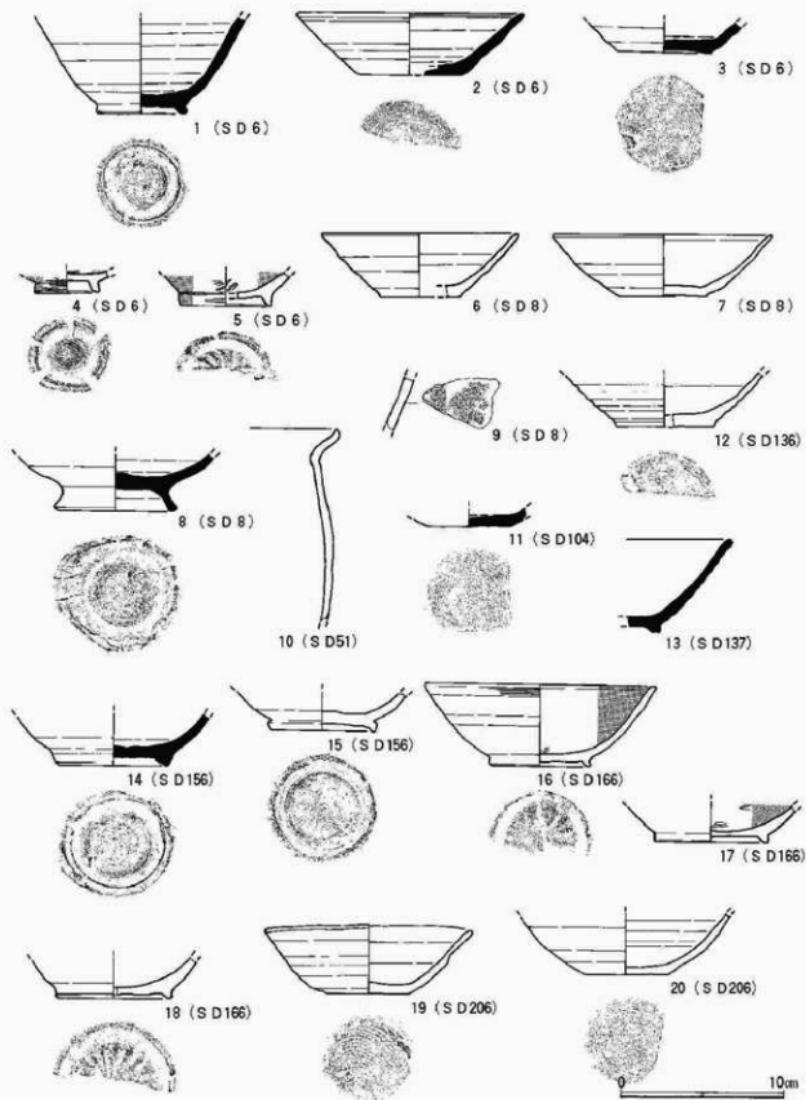


第40図 土器実測図(21) 遺構出土土器5

出土した遺物

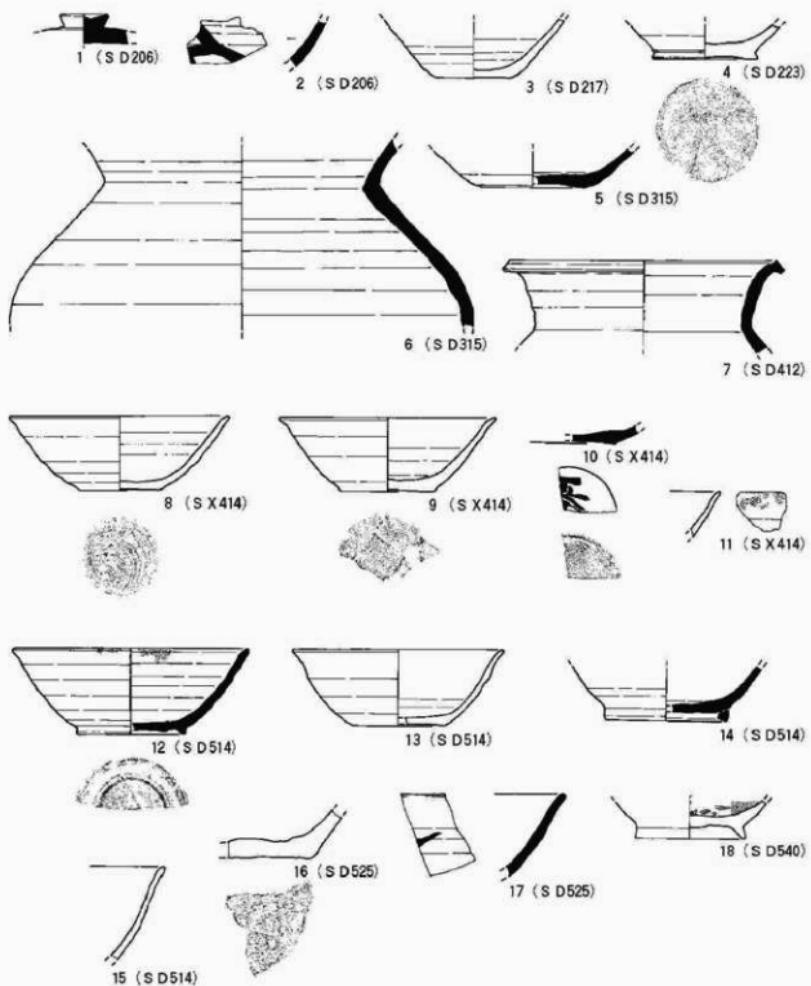


第41図 土器実測図(22) 遺構出土土器6



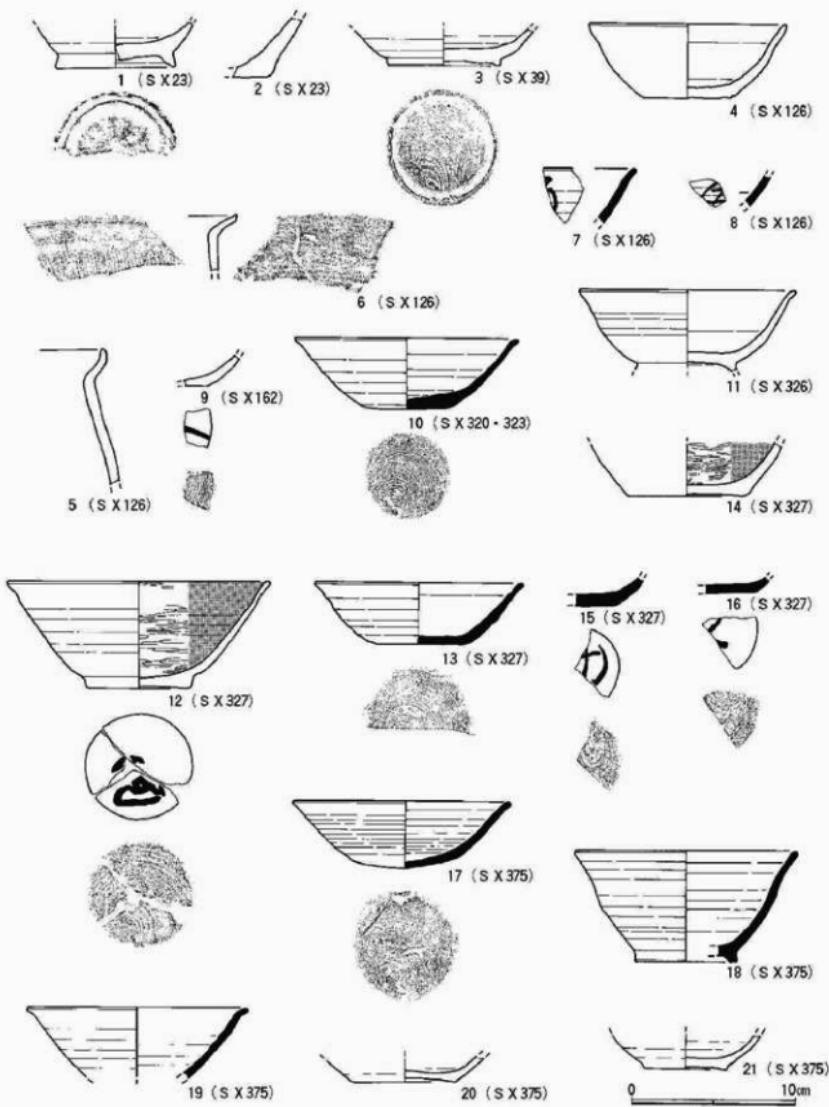
第42図 土器実測図 (23) 遺構出土土器 7

出土した遺物



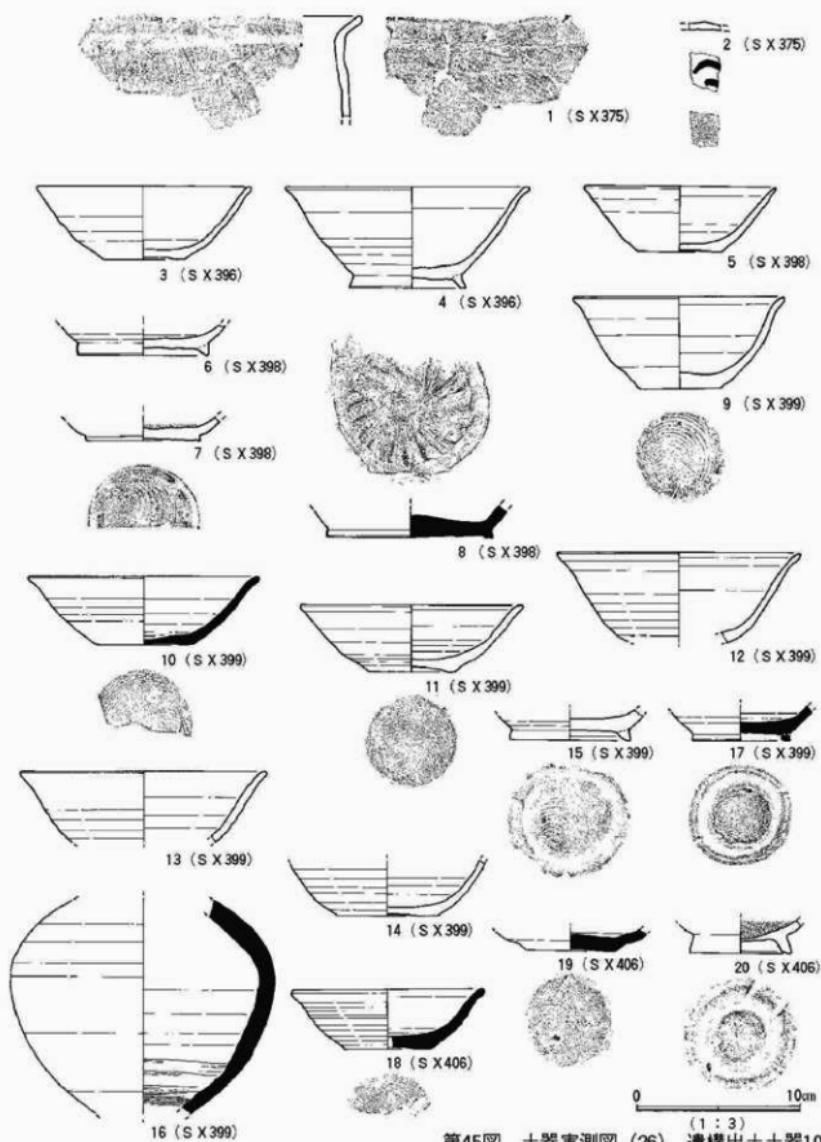
0 10cm  
(1 : 3)

第43図 土器実測図(24) 遺構出土土器8

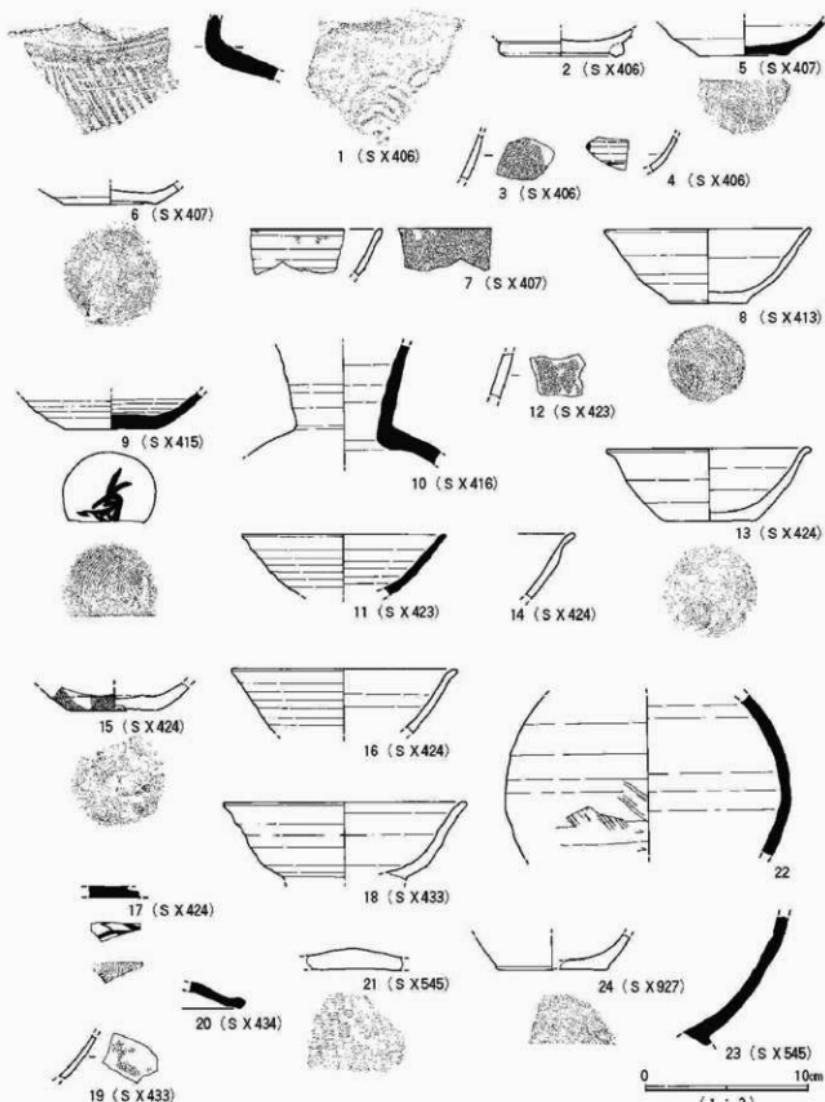


第44図 土器実測図(25) 遺構出土土器9

出土した遺物

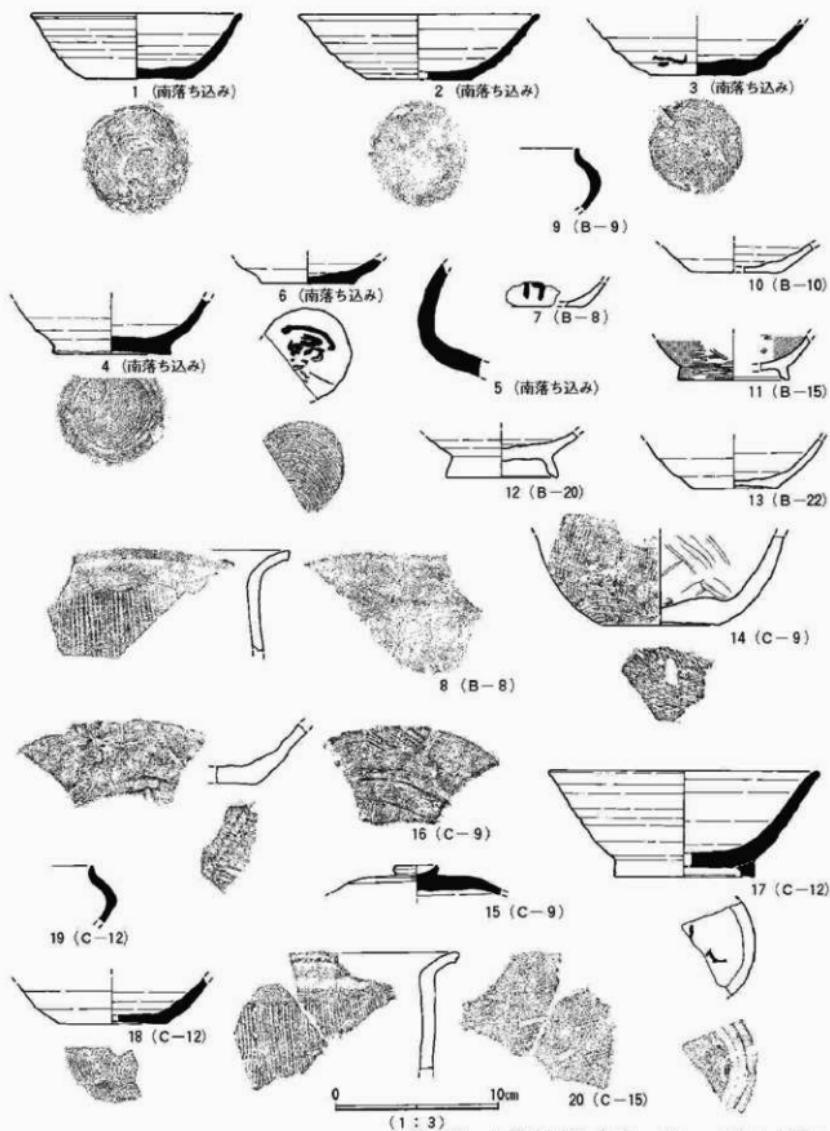


第45図 土器実測図 (26) 遺構出土土器10

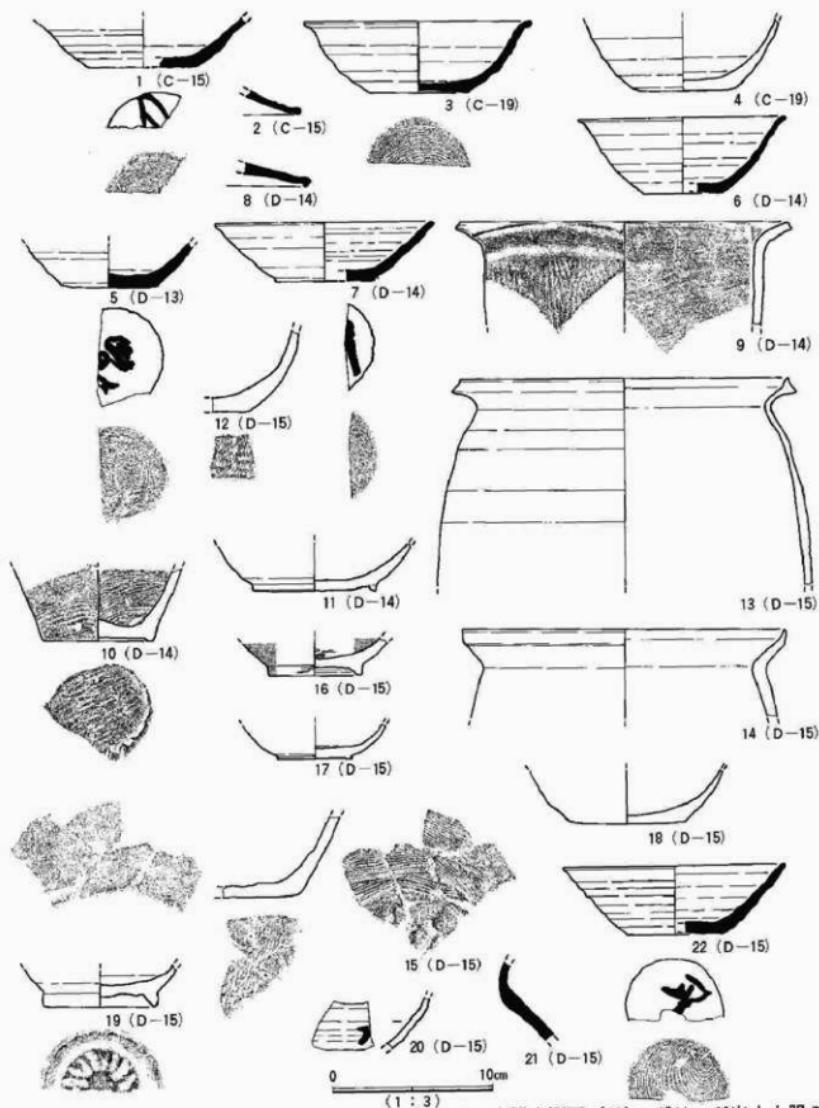


第46図 土器実測図 (27) 遺構出土土器11

出土した遺物

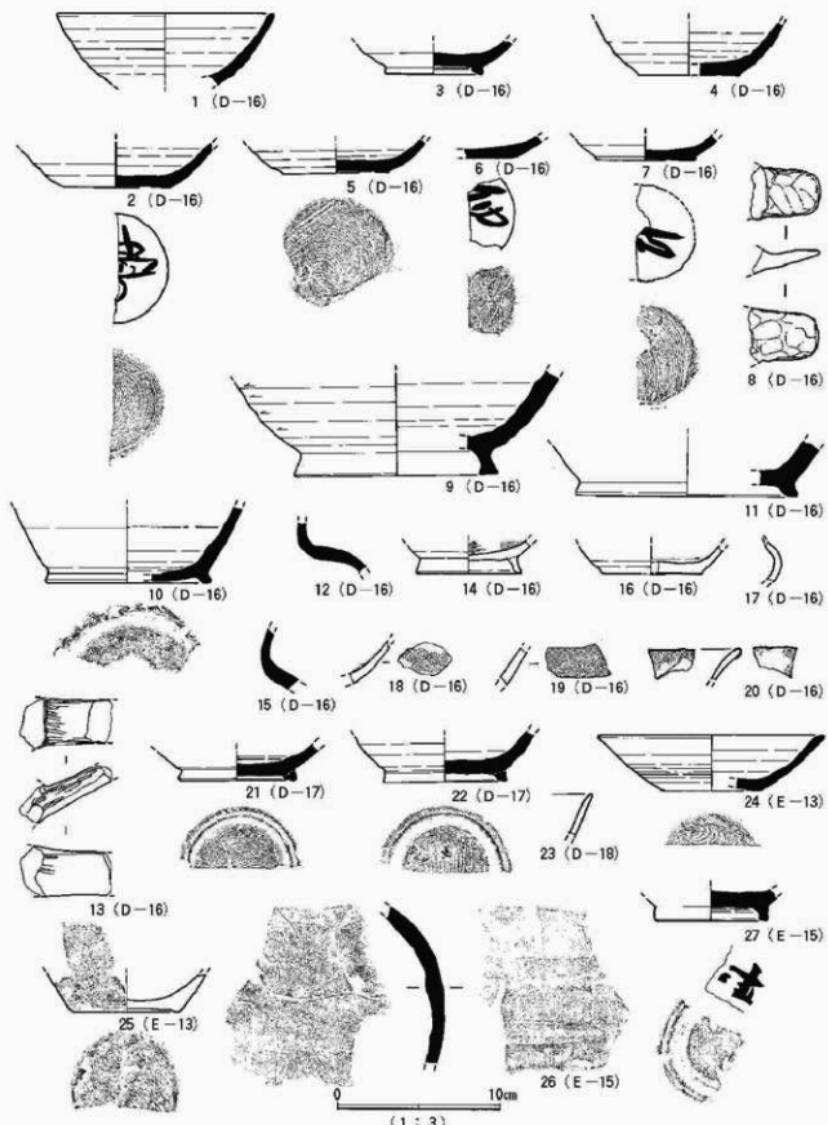


第47図 土器実測図 (28) グリッド出土土器 1

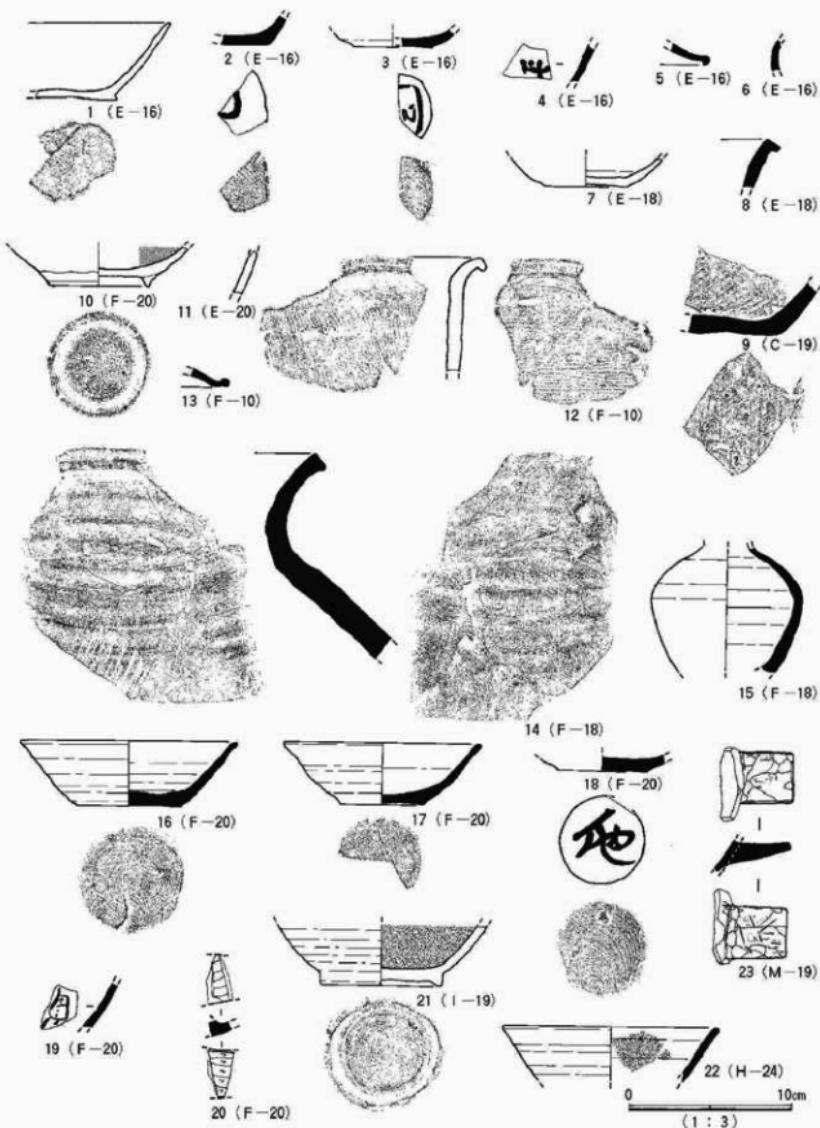


第48図 土器実測図(29) グリッド出土土器2

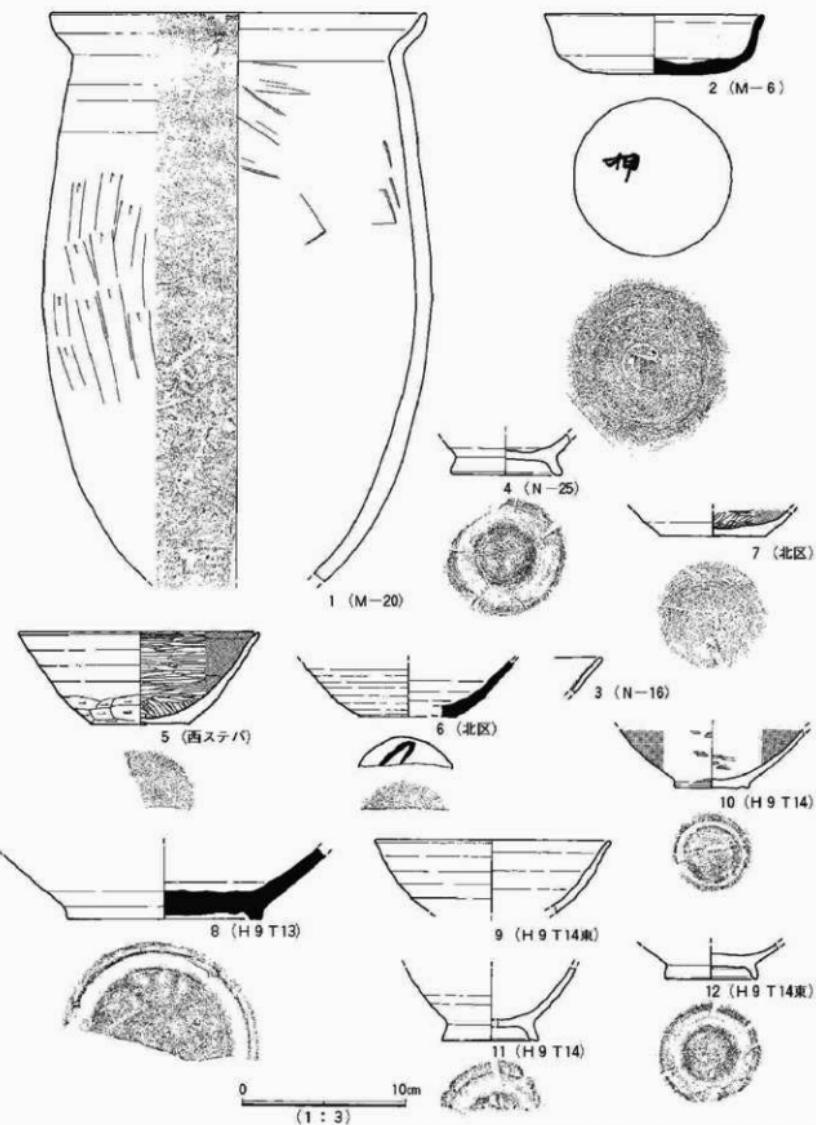
出土した遺物



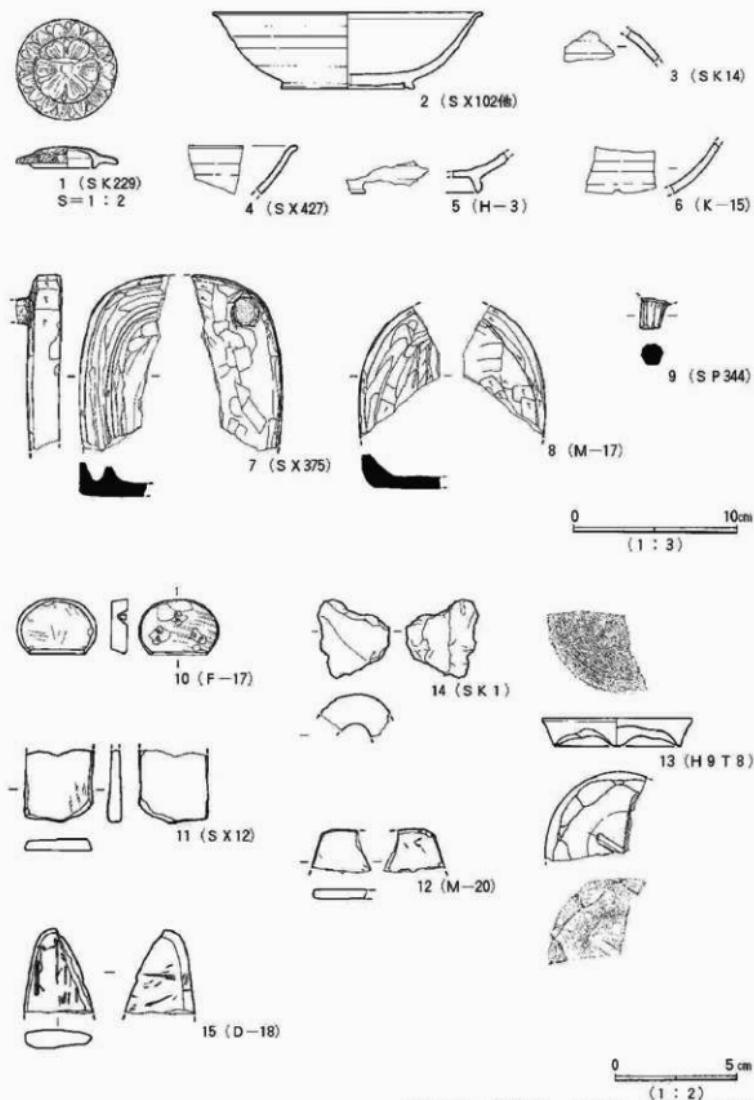
第49図 土器実測図 (30) グリッド出土土器 3



第50図 土器実測図 (31) グリッド出土土器 4



第51図 土器実測図 (32) グリッド出土土器 5



第52図 陶磁器、土製品、石製品実測図

第5表 遺物観察表1

遺物番号	形態	出土地	B.P.	種別	種類	細分	口径	底径	高さ	器厚	性状	指紋	器表	調査部位		底部形態	備考
														外側	内面		
1	S E 1	45	土師器	平	B A 2 (I)	119.0	52.0	36.0	3.0	43.7	31.9	40.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切?		
2	S E 1	99	土師器	平	B A 2 (I)	140.0	68.0	45.0	4.0	48.6	30.7	44.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
3	S E 1	70	土師器	平	B A 2 (II)	(120.0)	52.0	(43.0)	3.5	(43.3)	(36.0)	40.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
4	S E 1	59	土師器	平	B A 2 (II)	(127.0)	55.0	46.0	5.0	(43.3)	(36.0)	(36.0)	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
5	S E 1	56	土師器	平	B A 2 (II)	(129.0)	48.0	(47.0)	3.0	(37.2)	36.4	(41.2)	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
6	S E 1	129	土師器	平	B A 3 (I)	(127.0)	50.0	(42.0)	3.5	(39.4)	33.1	45.8	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
7	S E 1	64	土師器	平	B A 3 (I)	(125.0)	48.0	(45.0)	4.0	(38.4)	36.0	(42.0)	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
8	S E 1	76	土師器	平	B A 3 (I)	116.0	42.0	34.0	3.5	36.2	29.3	47.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
9	S E 1	126	土師器	平	B A 3 (I)	(126.0)	53.0	(40.0)	4.5	(42.1)	33.7	(42.0)	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
10	S E 1	82	土師器	平	B A 3 (I)	116.0	46.0	35.0	3.5	39.7	32.6	45.5	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
11	S E 1	60	土師器	平	B A 3 (I)	135.0	60.0	50.0	5.0	44.4	37.0	39.5	ロクロ	ロクロ	圓盤形切	口縫部外側に縫合跡	
12	S E 1	72	土師器	平	B A 3 (I)	124.0	56.0	45.0	4.0	45.3	36.3	37.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
13	S E 1	87	土師器	平	B A 3 (I)	125.0	56.0	45.0	3.0	45.5	34.1	37.5	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
14	S E 1	75	土師器	平	B A 3 (I)	(122.0)	50.0	(42.0)	5.0	(41.0)	34.4	42.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
15	S E 1	129	土師器	平	B A 3 (I)	121.0	49.0	36.0	3.5	40.5	33.4	43.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
16	S E 1	103	土師器	平	B A 3 (I)	135.0	61.0	38.0	4.0	45.9	28.6	45.5	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
17	S E 1	58	土師器	平	B A 2 (II)	125.0	58.0	47.0	4.0	46.4	37.6	36.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
18	S E 1	91	土師器	平	B A 2 (II)	120.0	56.0	43.0	4.0	43.4	33.8	41.5	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
19	S E 1	90	土師器	平	B A 2 (II)	130.0	50.0	43.0	5.0	40.0	34.4	42.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
20	S E 1	61	土師器	平	B A 2 (II)	120.0	54.0	38.0	4.5	45.0	33.7	41.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
21	S E 1	117	土師器	平	B A 2 (II)	(126.0)	56.0	40.0	4.0	(44.4)	(31.7)	37.5	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
22	S E 1	73	土師器	平	B A 2 (II)	122.0	54.0	41.0	2.5	43.9	33.3	40.5	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
23	S E 1	115	土師器	平	B A 2 (II)	127.0	45.0	46.0	3.0	35.4	36.2	41.5	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
24	S E 1	71	土師器	平	B A 2 (II)	125.0	52.0	35.0	2.0	42.3	38.5	46.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
25	S E 1	63	土師器	平	B A 2 (II)	120.0	48.0	40.0	3.0	43.0	34.0	45.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
26	S E 1	65	土師器	平	B A 2 (II)	124.0	64.0	(46.0)	4.5	51.6	(37.1)	34.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
27	S E 1	130	土師器	平	B A 2 (II)	(126.0)	(56.0)	(48.0)	4.0	44.4	34.1	39.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
28	S E 1	71	土師器	平	B A 2 (II)	(128.0)	(46.0)	(40.0)	4.5	35.9	33.3	44.0	ロクロ	ロクロ	不規		
29	S E 1	62	土師器	平	B A 2 (II)	(130.0)	(52.0)	(42.0)	4.0	40.0	32.3	44.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
30	S E 1	114	土師器	平	B A 2 (II)	(136.0)	(64.0)	(45.0)	5.0	38.1	32.6	43.5	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
31	S E 1	118	土師器	平					50.0	(46.0)	4.5		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
32	S E 1	68	土師器	平					52.0	(33.0)	3.5		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
33	S E 1	105	土師器	平					(50.0)	(11.0)	2.0		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
34	S E 1	67	土師器	平					40.0	(22.0)	4.0		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
35	S E 1	116	土師器	平					58.0	(36.0)	3.0		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
36	S E 1	65	土師器	平					53.0	(35.0)	3.5		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
37	S E 1	92	土師器	平					(37.0)	(3.0)			ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
38	S E 1	57	土師器	平					(52.0)	(40.0)	4.0		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
39	S E 1	121	土師器	平					40.0	(32.0)	3.0		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
40	S E 1	133	土師器	平					58.0	(30.0)	4.0		ロクロ	ロクロ	不規		
41	S E 1	68	土師器	平					(45.0)	(22.0)	3.0		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
42	S E 1	98	土師器	平					50.0	(17.0)	3.5		ロクロ	ロクロ	圓盤形切	外縫の各部に少からぬ傷跡に添付	
43	S E 1	77	土師器	平					(50.0)	(15.0)	4.5		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
44	S E 1	96	土師器	平					31.0	3.5			ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
45	S E 1	95	土師器	直筒形					56.0	(17.0)	7.0		ロクロ	ロクロ	茎花形ナマケ		
46	S E 1	113	土師器	平					45.0	(17.0)	4.5		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
47	S E 1	111	土師器	直筒形					156.0	(69.0)	50.0	4.0	ロクロ	ロクロ	茎花形ナマケ	杯口?	
48	S E 1	120	土師器	直筒形	I D	122.0	66.0	39.0	5.5	54.1	32.0	56.0	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
49	S E 1	96	土師器	直筒形	II B	(140.0)	(71.0)	(61.0)	3.5	50.7	43.6	37.5	ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
50	S E 1	75	土師器	直筒形					(65.0)	(104.0)	5.0		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
51	S E 1	114	土師器	直筒形					(74.0)	(28.0)	5.0		ロクロ	ロクロ	茎花形ナマケ		
52	S E 1	65	土師器	直筒形					(63.0)	(36.0)	5.0		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
53	S E 1	101	土師器	直筒形					(66.0)	(16.0)	5.0		ロクロ	ロクロ	圓盤形切		
54	S E 1	77	土師器	壺	I G 1	(410.0)							ハケヌ	ハケヌ			
55	S E 1	123	土師器	壺	I G 1								ハケヌ	ハケヌ		RPI22-124-125-129-131組合	
56	S E 1	74	土師器	壺	I G 1								ハケヌ	ハケヌ		不明	
57	S E 1	65	土師器	壺	I B 6								ハケヌ	ハケヌ		底部外周に網代模	
58	S E 1	122	土師器	壺	I B 6								ハケヌ	ハケヌ			
59	S E 1	67	馬鹿土器	直筒形	I B 2 (D)	(150.0)	(60.0)	(45.0)	3.5	40.0	44.0	ロクロ	ロクロ	ガラガラ	杯口? 内面底座吸着		
60	S E 1	106	馬鹿土器	直筒形	I C	104.0	49.0	47.0	4.0	47.1	45.2	38.0	ロクロ	ロクロ	上身	圓盤形切	
61	S E 1	71	馬鹿土器	直筒形	I C	114.0	(52.0)	(42.0)	4.0			36.0	ロクロ	ロクロ	ガラガラ	340-350土器群	
62	S E 1	107	馬鹿土器	直筒形	I B 2 (D)	(136.0)	(56.0)	(46.0)	3.5	41.2		(42.0)	ロクロ	ロクロ	ガラガラ	杯口? 内面底座吸着	
63	S E 1	107	馬鹿土器	直筒形					(5.0)	4.5			ロクロ	ロクロ	ガラガラ	内面底座吸着	
64	S E 1	104	馬鹿土器	直筒形	I B 2 (D)	(138.0)	(56.0)	(46.0)	3.5	40.6		(44.0)	ロクロ	ロクロ	ガラガラ	杯口? 内面底座吸着	
65	S E 1	63	馬鹿土器	直筒形					64.0	(39.0)	4.0		ロクロ	ロクロ	ガラガラ	内面底座吸着	
66	S E 1	124	馬鹿土器	直筒形					(64.0)	(30.0)	3.0		ロクロ	ロクロ	ガラガラ?	青白釉環小?	
67	S E 1	132	馬鹿土器	直筒形					(64.0)	(17.0)	4.5		ロクロ	ロクロ	ガラガラ?	圓盤形吸着	

第6表 遺物観察表2

遺物番号	種類	出土地	B.P.	種別	種類	種分	口径	底径	高さ	幅厚	性状指紋	器蓋指紋	外模様	調査判定		底部形態	備考	
														外観	内面			
14 68	SK 1	69	馬鹿子土	圓台形					(27.0)	3.5				ミガキ?	ミガキ?	不明	外・内圓底板張	
15 69	SK 1	60	馬鹿子土	圓台形					(30.0)	3.0				ロカロ?	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
16 70	SK 1	61	馬鹿子土	圓台形					(64.0)	(17.0)	3.5			ロカロ	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
17 71	SK 1	104	馬鹿子土	圓台形					(60.0)	(17.0)	3.0			ロカロ	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
18 72	SK 1	128	馬鹿子土	圓台形					(59.0)	(30.0)	4.0			ロカロ	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
19 74	SK 1	100	馬鹿子土	圓台形					(65.0)	(22.0)	4.0			ロカロ	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
20 75	SK 1	110	馬鹿子土	圓台形					(61.0)	(19.0)	4.0			ミガキ?	ミガキ?	圓盤形切	内圓底板張	
21 76	SK 1	122	馬鹿子土	圓台形					(65.0)	(22.0)	3.0			ロコロ?ミガキ	ロコロ?ミガキ	不明	内圓底板張	
22 77	SK 1	92	馬鹿子土	圓台形					(70.0)	(21.0)	6.0			ロカロ?	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
1 78	SK 1	93	馬鹿子土	圓台形					(67.0)	(31.0)	3.5			ロカロ	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
2 78	SK 1	100	馬鹿子土	圓台形					(65.0)	(24.0)	3.0			ロカロ?	ミガキ?	不明	内圓底板張?	
3 79	SK 1	63	馬鹿子土	圓台形					(60.0)	(26.0)	3.5			ロカロ	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
4 80	SK 1	112	馬鹿子土	圓台形					(64.0)	(15.0)	7.0			不 <sup>明</sup>	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
5 81	SK 1	108	馬鹿子土	圓台形					(67.0)	(27.0)	3.5			ロカロ	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
6 82	SK 1	61	馬鹿子土	圓台形					(68.0)	(36.0)	4.0			不 <sup>明</sup>	ミガキ?	ミガキ?	内圓底板張	
7 83	SK 1	84	馬鹿子土	圓台形					(52.0)	(27.0)	4.0			ナツアコロ	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張	
8 84	SK 1	109	馬鹿子土	圓台形					(64.0)	(30.0)	5.0			ロコロ	ロコロ?ミガキ	圓盤形切	内圓底板張?	
9 85	SK 1		土師器	圓盤形	I B S	150.0	52.0	55.0	5.5	34.7	36.7	45.0	ロ <sup>明</sup>	ロカロ	ロコロ	ナヂ		
10 86	SK 1		土師器	年	I A 2 D	125.0	50.0	48.0	4.0	40.0	38.4	36.0	ロカロ	ロコロ	圓盤形切			
11 87	SK 1	55	土師器	年	I A 2 D	126.0	57.0	45.0	3.5	45.2	35.7	37.0	ロカロ	ロコロ	不 <sup>明</sup>			
12 88	SK 1		土師器	年	I A 2 D	122.0	56.0	46.0	4.0	45.9	37.7	35.0	ロカロ	ロコロ	圓盤形切			
13 89	SK 1		土師器	年	I A 2 D	134.0	50.0	50.0	3.5	37.3	37.3	39.5	ロカロ	ロコロ	圓盤形切			
14 90	SK 1		土師器	年	I A 2 D	125.0	52.0	39.0	4.0	42.3	31.7	44.0	ロカロ	ロコロ	圓盤形切			
15 91	SK 1		土師器	年	I A 2 D	127.0	50.0	47.0	5.0	39.4	37.0	39.0	ロカロ	ロコロ	圓盤形切			
16 92	SK 1		土師器	年	I A 2 D	136.0	62.0	42.0	4.0	45.6	30.9	42.0	不 <sup>明</sup>	ロコロ	不 <sup>明</sup>			
17 93	SK 1		土師器	年	I A 2 D	126.0	54.0	41.0	3.5	43.2	32.8	41.2	ロカロ	ロコロ	圓盤形切			
18 94	SK 1		土師器	年		122.0			(31.0)	3.5				ロカロ	ロカロ		杯か?	
19 95	SK 1		土師器	年	I A 2 D	122.0	42.0	43.0	3.0	34.4	35.2	43.0	ロカロ	ロコロ	圓盤形切			
20 96	SK 1		土師器	年					(52.0)	(46.0)	4.0			ロカロ	ロコロ	圓盤形切		
1 97	SK 1		土師器	年		122.0			(68.0)	3.5				ロカロ	ロコロ		杯か?	
2 98	SK 1		土師器	年										ロカロ	ミガキ?		杯か?	
3 99	SK 1		土師器	年										不 <sup>明</sup>				
4 100	SK 1		土師器	年		130.0			(33.0)	3.5				ロカロ	ロカロ		未剖外觀に跡化痕、SK 101出土	
5 101	SK 1		土師器	年										ロカロ	不 <sup>明</sup>		杯か? 外圓底板張。	
6 102	SK 1		土師器	年										ロカロ	ロコロ	圓盤形切		
7 103	SK 1	85	土師器	圓盤形					(67.0)	(18.0)	4.0			ロカロ	ロコロ	圓盤形切		
8 104	SK 1	75	土師器	圓盤形	東 I E				(67.0)	11.0				ロカロ	ロコロ			
9 105	SK 1	89	土師器	圓盤形	東 I E				(64.0)	9.5				ロカロ	ロカロ			
10 106	SK 1	135	土師器	圓盤形	東 I E					7.5					テクニク	アラ		
11 107	SK 1	135	土師器	圓盤形	東 I E					20.0					テクニク	アラ		
12 106	SK 1		土師器	圓盤形	東 I F 1					7.0					ロカロ	ロコロ	深徑(62)	
13 109	SK 1		土師器	圓盤形					(15.0)	6.0				ロカロ	ロコロ			
14 110	SK 1		土師器	圓盤形	東 I D 1				(12.0)					ロカロ	ロカロ			
15 111	SK 1	43	土師器	年						4.0					ロカロ	ロカロ	唇裏あり「団」か?	
1 1	SK 2	35	土師器	年	I A 2 D	140.0	56.0	51.0	4.0	40.0	36.4	39.5	ロカロ	ロコロ	圓盤形切			
2 2	SK 2	35	土師器	年	I A 2 D	124.0	52.0	45.0	3.5	41.9	36.3	36.2	ロカロ	ロコロ	圓盤形切			
3 3	SK 2	30	土師器	圓盤形	I B 2	153.0	65.0	67.0	4.0	42.5	42.8	39.5	ロカロ	ロコロ	唇裏ナマテラ			
4 4	SK 2	31	土師器	圓盤形	I B 2	(142.0)	(66.0)	67.0	5.0	46.5	(46.2)	39.0	ロカロ	ロコロ	唇裏ナマテラ			
5 5	SK 2	37	土師器	圓盤形	I B 2	(140.0)	(71.0)	65.0	5.0	50.7	44.3	39.0	ロカロ	ロコロ	唇裏ナマテラ			
6 6	SK 2	41	土師器	圓盤形	I B 2	126.0	62.0	56.0	5.0	44.9	45.6	37.0	ロカロ	ロコロ	唇裏ナマテラ			
7 7	SK 2	35	土師器	圓盤形					(65.0)	(15.0)	3.0			ロカロ	ロコロ?	唇裏ナマテラ		
8 8	SK 2	32	土師器	圓盤形		114.5	63.0	43.0	3.0	55.3	(33.3)	ロカロ	ロコロ	唇裏ナマテラ				
9 9	SK 2	42	土師器	年					(51.0)	(29.0)	3.0			ロカロ	ロコロ	圓盤形切		
10 10	SK 2		土師器	年	I A 3 D	(134.0)	(44.0)	(43.0)	5.0	32.8	32.1	47.0	ロカロ	ロコロ	圓盤形切		杯か?	
11 11	SK 2	47	土師器	年					(50.0)	(37.0)	3.5			ロカロ	ロコロ	不 <sup>明</sup>	圓い底をさしき。深徑?	
12 12	SK 2	44	土師器	年					(140.0)	(60.0)	4.0			ロカロ	ロコロ		内圓底?	
13 14	SK 2	35	土師器	東 I B 6		(22.0)			(244.0)	5.0				ロカロ?ケリ?	ロカロ		深徑(198) 脱怪(210)	
14 15	SK 2	44	土師器	東 I B 3		(124.0)			(67.0)	5.0				ハケヅメ	ハケヅメ			
15 16	SK 2	46	土師器	東 I G 2					(45.0)	10.0				ハケヅメ	ハケヅメ			
16 17	SK 2	46	土師器	東 I F 1					(52.0)	5.5				ロカロ	ロカロ		唇か? 外圓底張。	
17 18	SK 2	43	土師器	東 I F 1						6.0					ハケヅメ	ハケヅメ		
18 19	SK 2		土師器	年						4.0					ロカロ	不 <sup>明</sup>	内圓底張。	
1 20	SK 2	36	馬鹿子土	圓台形	II H C D	(350.0)	(70.0)	(65.0)	3.0	46.7	43.3	39.0	ロカロ	ロコロ?ミガキ	唇裏ナマテラ	内圓底板張		
2 21	SK 2	25	馬鹿子土	圓台形					(76.0)	(45.0)	5.0			ロカロ	ロコロ?ミガキ	唇裏ナマテラ	内圓底板張	
3 22	SK 2	43	馬鹿子土	圓台形					(66.0)	(50.0)	4.5			ロカロ	ロコロ?ミガキ	唇裏ナマテラ	内圓底板張	
4 23	SK 2	46	馬鹿子土	圓台形					(60.0)	(44.0)	5.0			ロカロ	ロコロ?ミガキ	唇裏ナマテラ	内圓底板張	
5 24	SK 2	36	土師器	圓台形					(80.0)	(37.0)	5.0			ロカロ	ロコロ?ミガキ?	内圓底か? オナ?		
6 25	SK 2	47	土師器	年					(50.0)	(15.0)	7.0			不 <sup>明</sup>	ミガキ?	不 <sup>明</sup>	内圓底板張	

第7表 遺物観察表3

登録番号	種類	出土位置	B.P.	種別	種類	細分	口径	底径	高さ	器厚	性状指標	器表指標	外観	調査指針		底部形態	備考	
														外観	内面			
7 26	S E 2	28	須恵器	壺	I E	(360.0)		(380.0)	10.0				ロクロ	タキ	ロクロアテ表			
8 27	S E 2	39	須恵器	壺	I E			(36.0)	8.0				ロクロ	ロクロ				
9 38	S E 2	38	須恵器	壺	中折			(12.0)					ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
10 29	S E 2	32	須恵器	壺	I E				10.0				タキ	アテ				
11 30	S E 2	35	須恵器	壺		(124.0)	(60.0)	(39.0)	5.0	45.4	31.5		ロクロ	ロクロ				
12 31	S E 2		須恵器	壺				(13.0)	3.5				ロクロ	ロクロ				
13 32	S E 2		須恵器	壺						10.0			タキ	アテ				
14 33	S E 2		須恵器	壺	I E				15.0				タキ	アテ				
15 34	S E 2	46	馬鹿土器	壺	中折	158.0	71.0	73.0	4.0	44.9	46.2	37.0	ロクロ	ミボク	薄花鋸ナツカ	内面底座痕		
1 1 S D 5	土師器		壺	G 1			50.0	31.0	5.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
2 2 S D 5			馬鹿土器	中折		(64.0)	(37.0)	4.0					ロクロ	ロクロミガキ 不明	中央に掌突か?			
3 3 S D 5	146	土師器	壺				45.0	10.0					ロクロ	ロクロ				
4 4 S D 5	139	土師器	壺			(60.0)	(36.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
5 5 S D 5	143	土師器	中折			66.0	(35.0)	3.5					不明	不明	ナゲ			
6 6-① S D 5	142	土師器	中折			(60.0)	(39.0)	6.5					ロクロ	ロクロ	薄花鋸ナツカ			
7 7 S D 5	140	土師器	壺			(39.0)	3.5						ロクロ	ロクロ				
8 8 S D 5	145	土師器	壺			(120.0)		15.0					ハケド	ハケド	底部外側に網代氣			
9 9 S D 5	馬鹿土器	中折				(62.0)	(44.0)	4.0					ロクロ	ロクロミガキ 不明	圓輪余初	内面底座痕		
10 10 S D 5	144	土師器	壺			50.0	(13.0)	4.0					不明	不明	不明	内面全周帶		
11 11 S D 5	須恵器	壺	I A 5 C 1	(130.0)	(54.0)	(45.0)	6.0	41.5	35.0	43.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	外面部余初				
12 12 S D 5	土師器	壺				(120.0)	(300.0)	6.0					ハケド	ハケド	底部外側に網代氣			
13 13 S D 5	土師器	壺				45.0	(29.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初	内面全周に漆付痕		
14 14 S D 5	馬鹿土器	中折				(70.0)	(22.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初	内面底座痕		
15 15 S D 5	馬鹿土器	中折				65.0	(22.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初	内面底座痕		
16 16 S D 5	土師器	壺	I A 2 C 1	(131.0)	(46.0)	(45.0)	4.0	35.1	34.4	44.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	羅(63)				
17 17 S D 5	馬鹿土器	中折				(66.0)		6.0					ロクロ	ロクロ	薄花鋸ナツカ	内面底座痕		
18 18 S D 5	土師器	壺				50.0	(31.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
19 19 S D 5	馬鹿土器	中折				(136.0)		(18.0)	5.0				ロクロ	ミボク	ロクロミガキ	粗か? 内面底座痕		
20 20 S D 5	土師器	壺	I A 2 C 2	(129.0)	(48.0)	47.0	5.0	(37.2)	(36.4)	41.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初				
21 21 S D 5	須恵器	壺	I F 2	(114.0)		68.0	6.0						ロクロ	ロクロ				
22 22 S D 5	土師器	壺	I A 2 C 1	(124.0)	(56.0)	(41.0)	5.0	45.2	33.1	40.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初				
23 23 S D 5	土師器	壺	I A 2 C 2	(138.0)	(42.0)	40.0	4.0	(36.5)	(35.9)	44.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初				
24 24 S D 5	土師器	壺	I A 2 C 2	(120.0)	(45.0)	(34.0)	5.0	24.6	26.2	57.1	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初				
1 25 S D 5	土師器	壺	I A 2 C 1	(126.0)	52.0	36.5	2.0	(41.3)	(29.0)	47.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初				
2 26 S D 5	138	須恵器	壺	I E			18.0						タキ	タキ				
3 27 S D 5			須恵器	壺			(31.0)	4.0					ロクロ	ロクロ		外面部粗か?		
4 28 S D 5			須恵器	壺				4.5					ロクロ	ロクロ		外面部文字不明		
5 29 S D 5	土師器	壺				(22.0)	2.0						ロクロ	ロクロ		外面部漆付痕		
6 30 S D 5	土師器	壺				(33.0)	3.0						ロクロ	ロクロ		外面部擦付痕		
7 31 S D 5	土師器	壺	II G 2	(640.0)		(309.0)	10.0						ロクロ	タキ	タキ			
8 32 S D 5	148	土師器	壺	II G 2		(60.0)	11.5						ロクロ	ロクロ	タキ			
1 1 S X 12	162	須恵器	I A 2 C 2	(131.0)	58.0	41.0	4.5	44.3	31.3	44.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初				
2 2 S X 12	171	須恵器	I B 3	(355.0)	66.0	63.0	4.5	42.6	40.6	41.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初				
3 3 S X 12	161	須恵器	I A 2 C 1	(136.0)	60.0	41.0	5.0	44.1	30.1	43.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初				
4 4 S X 12	166	馬鹿土器	壺	I A	(342.0)	(65.0)	57.0	4.5	45.8	(46.0)	34.0	タキ	タキ	?	内面底座痕			
5 5 S X 12	168	須恵器	壺	I A 2 C 1	(124.0)	60.0	38.0	6.0	48.4	30.6	40.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
6 6 S X 12	163	須恵器	壺	I A 2	(140.0)	70.0	40.0	3.5	50.0	28.6	46.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラ羽			
7 7 S X 12	169	須恵器	壺			(55.0)	(31.0)	4.5					ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初		
8 8 S X 12	164	須恵器	壺			58.0	(24.0)	4.0					ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初		
9 9 S X 12	167	土師器	壺	I E 4	(116.0)		5.0						ナゲ	タキ	タキ	號(116) 脊性(125)		
10 10 S X 12	167	土師器	壺										ロクロ	ロクロ				
11 11 S X 12	151	須恵器	壺			82.0	(44.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初		
12 12 S X 12	159	土師器	壺	II A 2 C 1	(148.0)	(58.0)	51.0	3.0	39.2	(34.5)	41.5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	不規			
13 13 S X 12	170	須恵器	壺	I F 2		98.0	(30.0)						タキ	タキ	?	S D 5 3と混合		
14 14 S X 12	168	土師器	壺	I E 4			(37.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初		
15 15 S X 12	152	土師器	壺			161.0	5.0						タキ	タキ				
16 16 S X 12	158	須恵器	壺			(129.0)		(33.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	ロクロ			
17 17 S X 12	160	須恵器	壺	I A 4 C 1	(130.0)	64.0	39.0	4.5	43.2	30.0	43.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明		
18 18 S X 12	163	須恵器	壺	I A 4 C 2	(190.0)	60.0	41.0	5.0	31.6	22.6	39.5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明		
19 19 S X 12	154	須恵器	壺	I A 5 C 2	(134.0)	62.0	50.0	5.5	46.3	37.3	38.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明		
1 20 S X 12	150	須恵器	壺	I A 3 C 1	(143.0)	64.0	41.0	4.5	44.8	(38.7)	44.5	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明		
2 21 S X 12	157	須恵器	壺	I A 4 C 2	(137.0)	52.0	42.0	3.5	(38.0)	(30.7)	41.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明		
3 22 S X 12	156	須恵器	壺			60.0	(31.0)	4.0					ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明	
4 23 S X 12	155	須恵器	壺	I A 3 C 1	(137.0)	62.0	35.0	4.0	(45.3)	(35.5)	49.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明		
5 24 S X 12	152	須恵器	壺	I A 5 C 1	(123.0)	(62.0)	42.0	4.5	50.4	(34.1)	36.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明		
6 25 S X 12	153	須恵器	壺	I A 3 C 2	(134.0)	(66.0)	36.0	4.0	49.3	(36.9)	45.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明		
7 26 S X 12	156	須恵器	壺			(62.0)	(11.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明	
8 27 S X 12	158	須恵器	壺			(13.0)	4.5						ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部基盤文字不明	

第8表 遺物観察表4

遺物番号	種類	出土地	E.P.	種別	種類	種類	分類	口径	底径	高さ	器厚	性状指標	器表	外側	内側	調査結果		底部形態	備考
																外観	内面		
9 28	S X 12	須恵器	平					(62.0)	(19.0)	3.5			ロクロ	ロクロ	圓錐形切	底部墨書き文字不明			
10 29	S X 12	土師器	東	I E 4				(60.0)					ハケヌ	ハケヌ	ケズリ	調査(150)			
11 30	S X 12	馬鹿土器	圓台形	II A3D	(130.0)	(64.0)	(51.0)	4.0	48.5	38.6	36.0	ロクロ	ミガキ		内面黒墨書き				
12 31	S X 12	馬鹿土器	平					(128.0)	(44.0)	4.0			ロクロ	ミガキ		内面黒墨書き			
13 32	S X 12	土師器	东	II A3D	(110.0)	(52.0)	(42.0)	4.5	47.3	(38.2)	36.0	ロクロ	ロクロ		外側口縁を底にかけ付帯				
14 33	S X 12	須恵器	平	I A4D	(144.0)	(62.0)	(45.0)	4.0	43.1	31.3	43.5	ロクロ	ロクロ	圓錐形切	内面黒墨書き				
15 34	S X 12	須恵器	平					(142.0)	(34.0)	3.5			ロクロ	ロクロ		杯か付・内面口縁墨書き			
16 35	S X 12	須恵器	平					(60.0)	3.0				ロクロ	ロクロ					
17 36	S X 12	須恵器	平					(35.0)	4.0				ロクロ	ロクロ					
18 37	S X 12	須恵器	平	I A4D	(128.0)	(61.0)	(38.0)	4.5	47.7	30.1	41.0	ロクロ	ロクロ	圓錐形切	底部墨書き文字不明				
19 38	S X 12	須恵器	平					(142.0)	(66.0)	(44.0)	4.5		ロクロ	ロクロ					
20 39	S X 12	須恵器	平	I A3D	(140.0)	(60.0)	(36.0)	3.5	42.9	(27.1)	43.0	ロクロ	ロクロ	圓錐形切	底部内面つりとしている				
1 40	S X 12	須恵器	東	I D 2	(155.0)	(22.0)	(22.5)	4.0	14.2	14.5		ロクロ	ロクロ			天井部回転式切			
2 41	S X 12	須恵器	東	I D 1				(17.0)	4.5				ロクロ	ロクロ					
3 42	S X 12	須恵器	東	I D 2						3.5			ロクロ	ロクロ					
4 43	S X 12	須恵器	東	I E				(61.0)	7.0				ロクロ	ロクロ			跳張(137)		
5 44	S X 12	須恵器	東	I E				(29.0)	4.0				ロクロ	ロクロ					
6 45	S X 12	須恵器	東					(27.0)	7.0				ロクロ	ロクロ					
7 46	S X 12	土師器	東	II G 1				(50.0)	6.0				ハケヌ	ハケヌ					
8 47	S X 12	土師器	東	I E 4	(156)			(42.0)	4.5				ナダ	ハケヌ					
9 48	S X 12	土師器	東					(40.0)	5.0				ケズリ			網代裏			
10 49	S X 12	須恵器	平					(62.0)	(11.0)	5.0			ロクロ	ロクロ	圓錐形切	底部墨書き文字不明			
11 50	S X 12	須恵器	平					(13.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	圓錐形切	底部墨書き文字不明			
12 51	S X 12	須恵器	平					(16.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	圓錐形切	底部墨書き文字不明			
1 52	S E 14	土師器	平	I A2D	(134.0)	58.0	49.0	5.0	39.9	34.1	44.5	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
2 53	S E 14	土師器	平	I A2D	(135.0)	52.0	45.0	3.5	38.5	33.3	45.8	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
3 54	S E 14	土師器	平	I A2D	(136.0)	60.0	42.0	3.5	44.1	30.9	—	ロクロ	ロクロ	圓錐形切	妙がみによる外極度鉛錠不規				
4 55	S E 14	土師器	平	I A2D	(134.0)	52.0	41.0	4.5	38.6	30.6	44.7	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
5 56	S E 14	土師器	平	I A2D	(130.0)	58.0	49.0	3.5	44.6	(37.7)	36.0	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
6 57	S E 14	土師器	平	I A2D	(134.0)	58.0	47.0	4.0	43.3	(35.1)	40.0	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
7 58	S E 14	土師器	平	I A2D	(136.0)	57.0	48.0	4.0	41.9	31.6	45.0	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
8 59	S E 14	土師器	平	I B 3	(155.0)	(63.0)	(56.0)	4.0	40.6	37.4	45.0	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
9 60	S E 14	土師器	平	I A2D	(130.0)	(56.0)	(44.0)	5.0	43.1	(33.6)	37.0	ロクロ	ロクロ	圓錐形切	皿のため、外側底部突出				
10 61	S E 14	土師器	平	I A2D	(139.0)	(54.0)	(42.0)	3.5	38.5	(35.2)	44.5	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
11 62	S E 14	土師器	平	II A 1	(116.0)	(56.0)	(49.5)	4.5	47.5	(41.9)	36.5	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
12 63	S E 14	土師器	平	I A2D	(134.0)	(62.0)	(49.0)	3.5	46.3	(36.6)	36.8	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
13 64	S E 14	土師器	平	I A2D	(134.0)	(62.0)	(45.0)	4.5	44.8	(33.6)	41.0	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
14 65	S E 14	土師器	平	II A 1	(206.0)			(48.0)	5.0				ロクロ	ロクロ			跳張(148)		
15 66	S E 14	土師器	東	I E 4				(48.0)	5.0				ハケヌ	ハケヌ			不明	底部網代裏	
16 67	S E 14	土師器	東	I E 4				(70.0)	(11.0)	5.0			ハケヌ	ハケヌ			不明	底部網代裏	
17 68	S E 14	土師器	平	I A3D	(135.0)	62.0	48.0	5.0	45.6	35.3	59.0	ロクロ	ロクロ	圓錐形切	蓋面削落?				
1 69	S E 14	土師器	東	I E 3				(82.0)	(15.0)	6.0			ハケヌ	ハケヌ			不明	底部網代裏	
2 70	S E 14	土師器	平	I A3D	(137.0)	60.0	48.0	5.0	43.8	35.0	38.0	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
3 71	S E 14	土師器	平	I A3D	(128.0)	59.0	47.0	4.5	43.0	36.7	49.5	ロクロ	ロクロ	圓錐形切					
4 72	S E 14	土師器	東	I E 3				(90.0)	(72.0)	6.0			ケズリ	ハナダ			不明		
5 73	S E 14	土師器	東	I E 7						8.0			ハケヌ	ハケヌ			不明		
6 74	S E 14	土師器	平					(60.0)	29.0	5.0			ロクロ	ロクロ	圓錐形切				
7 75	S E 14	土師器	平					(54.0)	(25.0)	5.0			ロクロ	ロクロ	圓錐形切				
8 76	S E 14	土師器	平					(62.0)	(31.0)	5.0			ロクロ	ロクロ	圓錐形切				
9 77	S E 14	土師器	平					(62.0)	(31.0)	5.0			ロクロ	ロクロ	圓錐形切				
10 78	S E 14	土師器	平					(15.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	圓錐形切				
11 79	S E 14	土師器	平					(35.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	圓錐形切				
12 80	S E 14	土師器	平					(31.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	圓錐形切				
13 81	S E 14	土師器	平					(36.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	圓錐形切				
14 82	S E 14	土師器	東					(24.0)	6.5				ハケヌ	ハケヌ	網代裏				
15 83	S E 14	馬鹿土器	圓台形		(85.0)	(21.0)	7.0						ロクロ	ミガキ	圓錐形切	内面黒墨書き			
16 84	S E 14	馬鹿土器	圓台形					(60.0)	(26.0)	3.5			ロクロ	ミガキ	圓錐形切	内面黒墨書き			
17 85	S E 14	馬鹿土器	平					(148.0)	(38.0)	3.5			ロクロ	ミガキ	圓錐形切	内面黒墨書き			
18 86	S E 14	土師器	平					(52.0)	(17.0)	5.0			ロクロ	ミガキ	圓錐形切	内面黒墨書き			
19 87	S E 14	馬鹿土器	圓台形					(60.0)	(26.0)	3.5			ロクロ	ミガキ	圓錐形切	内面黒墨書き			
20 88	S E 14	土師器	平					(44.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	圓錐形切	口縁削落付帯			
21 89	S E 14	土師器	平					(12.0)	4.5				ロクロ	ロクロ	圓錐形切	外側墨書きあり			
22 90	S E 14	土師器	平						7.0					ロクロ	ロクロ	圓錐形切	外側墨書き		
1 91	S X 103	須恵器	平	I A3D	(138.0)	54.0	36.0	3.0	(39.1)	(36.1)	50.0							圓錐形切	
2 92	S X 103	須恵器	平					64.0	(37.0)	4.0			ロクロ	ロクロ	圓錐形切				
3 93	S X 103	須恵器	東	I E 1						11.0			タグテ	アテ					
4 94	S X 103	須恵器	東	I F 1						(85.0)	(113.0)	9.0		カタマ	ロクロ	ケズリ			
5 95	S X 103	須恵器	東	I F 2						(110.0)	(103.0)	7.0		ケズリ	ロクロ	ロクロ			

第9表 遺物観察表5

遺物番号	種類	出土地	E.P.	種別	種類	種分	口径	底径	高さ	基厚	底性質	器蓋	調査結果		底部形態	備考			
													外側	内面					
新石器時代	6	S X320	馬王堆	黃台付研			(50.0)	(33.0)	3.0			ミガキ	ミガキ			外内底共度重複			
	7	S X320	馬王堆	塗	I E				(31.0)	8.0		ハケヅ	ハケヅ						
	8	S X320	馬王堆	塗	I F 1			(80.0)	(73.0)	5.0		ハケヅ	ハケヅ	ナデ					
	9	S X320	馬王堆	塗					(57.0)	8.0		ケズリ	ハケヅ	不明		底部外縁に網代有			
	10	S X320	馬王堆	塗				(110.0)	(104.0)	8.0		ハケヅ	ハケヅ	不明		底部外縁に網代有			
	1	S P397	193	土師器	年	II A 1	(118.0)	50.0	(50.0)	3.0	(42.4)	42.4	36.0	ロクロ	ロクロ	不明			
	2	S P397	193	土師器	年	II A 1	134.0	60.0	56.0	5.0	44.8	41.8	31.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	3	S P397	193	土師器	年				(32.0)	3.0		ロクロ	ロクロ			外底墨書文字不明			
	4	S D204	51	土師器	塗			(58.0)	(35.0)	3.5		ロクロ	ロクロ	圓輪余初					
	5	S D204	52	土師器	年			(45.0)	(38.0)	5.0		ロクロ	ロクロ	圓輪余初					
新石器時代	6	S D224	馬王堆	黃台付研	II B 3D	156.0	70.0	70.0	4.5	44.9	44.9	36.0	ロクロ	ロクロ	ナダ	外内底共度重複			
	7	S D224	馬王堆	塗	I A 4D	(150.0)	(70.0)	(65.0)	4.0	46.7	30.0	42.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部墨書文字不明			
	8	S D224	馬王堆	塗	I A 4D	(134.0)	(60.0)	(44.0)	5.0	44.8	32.6	40.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余初				
	9	S D224	馬王堆	黃台付研			(68.0)	(31.0)	4.5					ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	10	S D224	馬王堆	黃台付研			(64.0)	(36.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	11	S D224	馬王堆	黃台付研			(69.5)	(34.0)	3.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	12	S D224	馬王堆	塗	II E 4			(65.0)	5.0					ハケヅ	ハケヅ				
	13	S D224	馬王堆	塗			(64.0)	(16.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初	作部外墨書文字不明		
	14	S D224	馬王堆	塗				(30.0)	4.0					ロクロ	ロクロ	外・内面の口端部邊付薄			
	15	S D224	馬王堆	塗					3.0					ロクロ	ロクロ	作部外墨書文字不明			
新石器時代	16	S P467	193	土師器	塗	II A 2B	132.0	60.0	45.0	4.0	45.5	34.1	36.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	S P467 S P193の合併		
	17	S P467	194	馬王堆	黃台付研		(130.0)	(59.0)	3.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初	馬王堆付? ? 内面底共度重複		
	18	S P467	195	土師器	塗	II E 3				6.0				ハケヅ	ハケヅ				
	19	S P467	196	土師器	塗	II E 3			(38.0)	10.0				ハケヅ	ハケヅ		底部外縁に網代質?		
	20	S P467	196	土師器	塗					7.0				ハケヅ	ハケヅ				
	21	S P467	196	土師器	塗	II E 4			(73.0)	6.0				ナデ	ハケヅ	ハケヅ	S P①-16		
	1	S K568	197	土師器	年	II A 2B	(129.0)	65.0	51.0	7.0	(50.4)	(39.5)	36.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	2	S K568	198	土師器	年		(56.0)	(24.0)	6.0					ロクロ	ロクロ	不明			
	3	S K568	199	土師器	塗		(37.0)	10.0						ハケヅ	ナダ	ハケヅ	内面口端部邊付薄		
	4	S K568	200	土師器	塗		(128.0)	50.0	47.0	5.0	39.1	36.7	ロクロ	ロクロ	不明	内面口端部邊付薄			
新石器時代	5	S K568	201	土師器	塗		(57.0)	(43.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	6	S K568	202	土師器	黃台付研				7.5					ロクロ	ロクロ	不明			
	7	S K568	203	土師器	塗	II G 2			(42.0)	7.0				ハケヅ	ハケヅ				
	8	S K568	204	土師器	塗		(20.0)	6.5						ハケヅ	ハケヅ	不明	底部外縁に網代質		
	9	S K568	183	土師器	年	II A 2B	(142.0)	60.0	50.0	3.0	43.3	35.2	39.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	10	S K568	184	馬王堆	黃台付研		(72.0)			5.5				ロクロ	ロクロ	墨花捺ナナチカ	内面底共度重複		
	11	S K568	184	馬王堆	土師器				(29.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	杯孔?			
	12	S K568	184	土師器	塗	I A 3D	(132.0)	(66.0)	38.0	6.0	50.0	(38.6)	40.2	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	底部墨書文字不明		
	13	S X367	179	土師器	塗	II E 6			(96.0)	8.5				ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	14	S X367	180	土師器	黃台付研	II B 2	(144.0)	70.0	(58.0)	5.5	(48.6)	40.3	34.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
新石器時代	15	S X367	181	馬王堆	塗	II F 2								ロクロ	ロクロ	不明	底付?		
	16	S X367	182	馬王堆	黃台付研		(65.0)	(16.0)	5.0					ロクロ	ミガキ	墨花捺ナナチカ	内面底共度重複		
	17	S X367	182	土師器	塗		(36.0)	4.0						ロクロ	ロクロ	外底墨書文字不明			
	18	S X367	183	土師器	塗				3.5					ロクロ	ロクロ		S X②-18		
	19	S X367	183	土師器	塗		(75.0)	50.0	61.0	5.0				ナデ	ハケヅ	ハナナデ	ハナナデ		
	20	S X367	204	馬王堆	黃台付研	II B 2	(135.0)	65.0	50.0	6.0	(48.1)	(37.0)	—	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	内面底共度重複		
	21	S X367	205	馬王堆	塗	I A 3D	(134.0)	(60.0)	(36.0)	5.0	44.8	36.9	47.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	内面墨書文字不明		
	22	S X367	205	土師器	塗	II A 2B	(130.0)	(50.0)	(45.0)	5.0	38.5	36.5	40.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	23	S X367	205	土師器	塗				(49.0)	3.5				ロクロ	ロクロ				
	24	S X367	205	土師器	塗				(44.0)	4.0				ロクロ	ロクロ				
新石器時代	25	S X367	205	土師器	塗				(70.0)	10.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	26	S X367	205	土師器	塗				(60.0)	(24.0)	5.0			ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	27	S X367	205	馬王堆	黃台付研	II B 3D	(128.0)	(63.0)	(54.0)	5.0	49.2	42.2	35.0	ロクロ	ミガキ	圓輪余初	内面底共度重複		
	28	S X367	205	土師器	塗	II A 2B	(142.0)	54.0	55.0	5.5	25.0	(38.0)	(38.7)	40.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余初	S X②-26	
	1	S K66	26-27	土師器	塗	II E 1	(61.0)	(98.0)	(32.0)	6.0				ハケヅ	ナダ	ハケヅ	不明	底付木痕	
	2	S K66	27	土師器	塗	II E 1	(36.0)	(96.0)	50.0	5.0				ハケヅ	ハケヅ	ハケヅ	不明	底付木痕	
	3	S K66	176	馬王堆	年	II A	(130.0)	(65.0)	(44.0)	3.0	50.0	35.8	36.5	ロクロ	ミガキ	圓輪余初	内面底共度重複		
	4	S K66	176	土師器	年	II A 1	(125.0)	56.0	50.0	3.5	(44.8)	(46.0)	33.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	5	S X427	186	馬王堆	塗	I E				10.0				タクナ	アマ				
	6	S X427	187	土師器	塗	II E 1				(62.0)	6.0			ハケヅ	ハケヅ			内面底共度重複	
	7	S X427	187	土師器	塗	I A 3D	(138.0)	(60.0)	(33.0)	4.5	43.5	23.9	46.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	8	S X427	187	土師器	塗		(125.0)	(54.0)	(29.0)	3.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
新石器時代	1	S D64	172	土師器	塗	II E 2	(54.0)	54.0	50.0	6.0				ハケヅ	ハケヅ			腰窓(175) 腰附(216)	
	2	S D64	173	土師器	塗	II E 3	(64.0)	(16.0)	(8.0)	4.0				ナダ	ハケヅ	ハケヅ	ケズリ	腰窓(640) 腰附(613) 腰窓(224) 腰附(236)	
	3-②	S D64	174	土師器	塗	II E 1	(55.0)			(39.0)	5.0			ロクロ	ハケヅ	ハケヅ			
	4-②	S D64	174	土師器	塗	II E 1	(84.0)			(38.0)	5.0			ロクロ	ロクロ	ハケヅ			
	5	S D64	174	土師器	年		(46.0)	(36.0)	4.0					ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
	6	S X228	土師器	黃台付研			(75.0)	(45.0)	5.0					ロクロ	ロクロ	墨花捺ナナチカ			

第10表 遺物観察表6

登録番号	種類	出土地	E.P.	種別	種類	種分	口径	底径	高さ	器厚	性状	指紋	器蓋	外側	内側	調査部位		基部の形	備考
																外面	内面		
7	2	S X 288	50	馬鹿土	直台形	II E(3)	(178.0)	(14.0)	75.0	5.0	41.6	(43.8)	37.5	ロクロ	ミガキ	内面底座痕			
8	3	S X 288	50	馬鹿土	直台形	II D(3)	(134.0)	57.0	51.5	3.5	(42.5)	(38.4)	41.0	ミガキ	春花鉢ナフタ	外・内面底座痕			
1	1	S E 10		須恵器	环	I A(2)	136.0	60.0	35.0	3.5	(44.1)	37.9	44.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
2	1	S E 3		須恵器	环	I A(4)	(140.0)	57.0	44.0	4.0	(40.7)	(31.4)	44.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切	外周墨書文字不明		
3	2	S K 3		須恵器	环	I A(3)	(139.0)	(56.0)	43.0	3.0	40.3	(30.9)	44.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
4	3	S E 3		須恵器	环	II A(2)	(122.0)	(56.0)	40.0	4.0	45.9	(32.8)	40.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
5	4	S E 7		須恵器	环	II A(2)	(128.0)	(68.0)	40.0	4.0	53.1	(31.3)	37.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
6	5	S K 9		須恵器	环				46.0	4.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
7	6	S K 9		須恵器	直台形			72.0	(31.0)	3.5				ロクロ	ロクロ	不規			
8	7	S K 55		須恵器	直台形	I B 1	(130.0)	74.0	57.0	4.0	(56.9)	(43.8)	31.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
9	8	S K 307		土器	环				4.0					ロクロ	ロクロ	环か? 内面墨付。			
10	9	S K 113		土器	环	II E 4			(94.0)	4.0				ケズリ	不規	鏡張 (138)			
11	10	S K 205		土器	环	II A(2)	(117.0)	(58.0)	46.0	3.5	49.6	34.2	36.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
12	11	S K 228		土器	环	II A(2)	(132.0)	(54.0)	46.0	3.5	40.9	30.3	45.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
13	14	S K 229	1	馬鹿土	直		(96.0)	(52.0)	36.0	5.0	54.2	37.5	ミガキ	ミガキ	不規	春花鉢ナフタ	外・内面底座痕		
14	12	S K 206		土器	直					5.0				ハケツ	ハケツ				
15	13	S K 443		土器	直					8.5				ロクロ	ロクロ	鏡張 (162)			
16	14	S K 564		土器	直	II A(2)	(132.0)	64.0	49.0	3.5	(48.5)	(37.1)	36.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
17	15	S K 564		土器	直	II A(2)	(134.0)	(56.0)	(66.0)	5.0	41.8	34.3	40.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
1	16	S K 564		土器	直	II A(2)	(140.0)	(60.0)	(46.0)	4.0	42.9	32.9	42.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
2	17	S K 564		土器	直	II A(2)			55.0	3.5				ロクロ	ロクロ	直合付环?			
3	19	S K 564		土器	直	直台形			60.0	(36.0)	5.0			ロクロ	ロクロ	春花鉢ナフタ	直合付环?		
4	1	S P 26		土器	直				58.0	5.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
5	2	S P 93		土器	直	I C	(130.0)	54.0	30.0	4.0	(41.5)	(23.1)	57.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
6	3	S P 351		土器	直	II A(2)	(128.0)	(66.0)	45.0	4.0	43.8	(35.2)	37.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
7	4	S P 350		土器	直	直台形			(66.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余切?			
8	5	S P 207		馬鹿土	直台形	II D(2)	(150.0)	(68.0)	60.0	4.5	38.7	(46.0)	45.0	ロクロ	ロクロ	春花鉢ナフタ	内面底座痕		
9	6	S P 208		須恵器	直	I A(2)	(132.0)	(50.0)	(45.0)	4.0	37.9	34.1	42.2	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
10	7	S P 202		須恵器	直				(43.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	外周墨書文字不明			
11	8	S P 263		馬鹿土	直台形			58.0	(31.0)	4.0			ロクロ	ロクロ	春花鉢ナフタ	外・内面底座痕			
12	9	S P 271		土器	直	I C	(130.0)	(66.0)	(46.0)	5.0	43.1	37.7	54.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
13	10	S P 271		土器	直	直台形			62.0	(46.0)	4.0			ロクロ	ロクロ	ミガキ?	圓輪余切		
14	12	S P 267		須恵器	直	I B 2	(140.0)	70.0	56.0	4.0	50.0	40.0	36.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切	波打墨書文字不明		
15	13	S P 367		須恵器	直				44.0	4.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余切?			
16	14	S P 436		須恵器	直				(50.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
17	15	S P 466		須恵器	直				(50.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	内面墨付			
18	12	S P 496		須恵器	直				66.0	8.0				ケズリ	ケズリ	内面墨付			
19	16	S P 596		須恵器	直	直台形	I B 1	(150.0)	(70.0)	67.0	4.0	(46.7)	44.7	34.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切		
20	20	S P 597		馬鹿土	直台形	II D(2)	(128.0)	60.0	53.0	3.0	46.9	41.4	36.0	ロクロ	ロクロ	春花鉢ナフタ	内面底座痕		
1	①-1	S D 5		須恵器	直台形			(126.0)	55.0	5.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
2	①-2	S D 5		須恵器	直	I A(2)	(140.0)	(64.0)	(38.0)	5.0	45.7	37.1	46.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
3	②-3	S D 5		須恵器	直			(68.0)	(19.0)	5.0			ロクロ	ロクロ	圓輪余切				
4	①-4	S D 5		馬鹿土	直台形			(52.0)	(40.0)	(13.0)	4.0		ミガキ	ミガキ	圓輪余切	外・内面底座痕			
5	⑤-5	S D 5		馬鹿土	直台形			(56.0)	(31.0)	5.0			ミガキ	ミガキ	春花鉢ナフタ	外・内面底座痕			
6	⑥-6	S D 8		土器	直	II A(2)	(122.0)	(50.0)	39.0	4.0	41.0	(33.0)	45.0	ロクロ	ロクロ	不規			
7	⑦-7	S D 8		土器	直	II A(2)	(135.0)	(54.0)	(48.0)	6.0	40.0	38.1	46.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
8	⑧-8	S D 8		須恵器	直	直台形			(56.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	直輪不規ナフタ	全面に剥離か?		
9	⑨-9	S D 8		土器	直					6.0				ハケツ	ハケツ	不規	内面墨付		
10	⑩-10	S D 51		土器	直	II E 6			(118.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
11	⑪-11	S D 204		須恵器	直			(50.0)	(11.0)				ロクロ	ロクロ	圓輪余切				
12	⑫-12	S D 206		土器	直			(60.0)	(13.0)	3.0			ロクロ	ロクロ	圓輪余切				
13	⑬-13	S D 357		須恵器	直				(57.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
14	⑭-14	S D 356		須恵器	直	直台形			66.0	(32.0)	4.5			ロクロ	ロクロ	春花鉢ナフタ	内面底座痕		
15	⑮-15	S D 356		土器	直	直台形			(23.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
16	⑯-16	S D 356		馬鹿土	直台形	II D(2)	(144.0)	(60.0)	(50.0)	4.0	41.7	34.7	41.0	ロクロ	ロクロ	春花鉢ナフタ	内面底座痕		
17	⑰-17	S D 306		馬鹿土	直台形			(70.0)	(61.0)	4.0			ロクロ	ミガキ	不規				
18	⑱-18	S D 306		土器	直	直台形			(70.0)	(25.0)	5.0			ロクロ	ロクロ	春花鉢ナフタ			
19	⑲-19	S D 206		土器	直	II A(2)	127.0	50.0	42.5	4.5	39.4	33.5	44.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
20	⑳-20	S D 206		土器	直			(130.0)	54.0	38.0	4.5			ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
1	①-21	S D 206		須恵器	直	I D 1			(18.0)	9.0				ロクロ	ロクロ	切端不規	つまみ傾斜		
2	②-22	S D 206		須恵器	直					4.0				ロクロ	ロクロ	外周墨書文字不明			
3	③-23	S D 217		土器	直			(45.0)	(34.0)	4.0			ロクロ	ロクロ	圓輪余切				
4	④-24	S D 203		土器	直			(64.0)	(21.0)	6.0			ロクロ	ロクロ	圓輪余切				
5	⑤-25	S D 315		須恵器	直			(54.0)	(66.0)	25.0	5.0			ロクロ	ロクロ	内面溝らか(つもつとしている)			
6	⑥-26	S D 305		須恵器	直									ロクロ	ロクロ	切端不規			
7	⑦-27	S D 412		須恵器	直	I E			(36.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	鏡張 (168)			
8	33	S X 414		土器	直	II A(2)	137.0	50.0	45.0	4.0	35.5	33.6	44.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			
9	34	S X 414		土器	直	II A(2)	(134.0)	(60.0)	(46.0)	5.0	44.8	34.3	33.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余切			

第11表 遺物観察表7

登録番号	種類	出土地	E.P.	種別	種類	種類	分類	口径	底径	高さ	基部	基部	基部	基部	外側付帯	内側付帯	底部形態	備考	
外側	内側																		
10 55	S X414	須恵器	环					(11.0)	4.5			口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨書文字不明				
11 56	S X414	土師器	环					(28.0)	3.0			口クロ	口クロ	杯か? 内面墨付等。					
12 57	SD54	須恵器	直輪付	I B 2	(146.0)	(66.0)	(53.0)	5.0	45.2	36.3	20.0	口クロ	口クロ	圓輪余切	別・内面墨付等				
13 58	SD54	土師器	环	I A2b②	(130.0)	(95.0)	(47.0)	3.5	42.3	36.2	20.5	口クロ	口クロ	不規					
14 59	SD54	須恵器	直輪付		(74.0)	(33.0)	5.0					口クロ	口クロ	圓輪余切					
15 60	SD54	土師器	环					(56.0)	4.0			口クロ	口クロ						
16 61	SD55	土師器	直輪付					(20.5)	9.0			ハゲテナゲ	ナゲ	不明	洗研刷代裏				
17 62	SD55	須恵器	环					(50.0)	5.0			口クロ	口クロ	杯か? 外面墨書文字不明。					
18 63	SD56	馬鹿土	直輪付		(67.0)	(24.0)	3.5					口クロ	ミガキ	新説ナガタ	各台付? 内面墨付等。				
1 1	S X23	土師器	直輪付		(12.0)	(3.0)	8.0					口クロ	口クロ	新説ナガタ					
2 2	S X23	土師器	直輪		(36.0)	7.0						ケズリ	ハゲテ	不明	洗研刷代裏	内面墨付等			
3 3	S X29	土師器	直輪付		(70.0)	(23.0)	5.0					口クロ	口クロ	圓輪余切					
4 4	S X26	土師器	环	I A2a③	(122.0)	(55.0)	(46.0)	5.0	45.1	37.7	36.0	口クロ	口クロ	圓輪余切					
5 5	S X26	土師器	直輪		(83.0)	6.0						口クロ	ハケテ	印加					
6 6	S X26	土師器	直輪		(34.0)	5.5						ハケテ	ハケテ						
7 7	S X26	須恵器	环		(34.0)	4.0						口クロ	口クロ		外觀墨書文字不明				
8 8	S X26	須恵器	环					4.5				口クロ	口クロ		外觀墨書文字不明				
9 9	S X26	土師器	直輪付		(18.0)	4.5						口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨書文字不明				
10 10	SD55-56	須恵器	环	I A2③	(138.0)	50.0	(44.0)	4.0	(36.2)	33.9	43.0	口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨書文字不明				
11 12	S X26	土師器	直輪付	I B 1	(134.0)	(69.0)	(49.0)	4.0	51.5	36.3	39.0	口クロ	口クロ						
12 13	S X27	真黄色土	直輪付	I B 2②	(162.0)	64.0	(46.0)	5.5	(36.5)	40.7	36.2	口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨書文字不明				
13 14	S X27	須恵器	环	I A3①	(128.0)	(58.0)	(38.0)	4.0	45.3	29.7	45.5	口クロ	口クロ	圓輪余切					
14 15	S X27	馬鹿土	直輪付		(72.0)	34.0	5.0					ミガキ	不明	内面墨書等					
15 16	S X27	須恵器	环		(35.0)	5.0						口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨書文字不明				
16 17	S X27	須恵器	环		(3.0)	5.0						口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨書文字不明				
17 18	S X27	須恵器	环	I A4①	(134.0)	62.0	42.0	3.5	(46.3)	(31.3)	44.0	口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨書文字不明				
18 19	S X27	須恵器	直輪付	I B 1	(136.0)	(62.0)	(49.0)	4.0	45.9	51.1	31.0	口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨書文字不明				
19 21	S X27	須恵器	环		(36.0)	3.0						口クロ	口クロ						
20 22	S X27	土師器	环		(62.0)	(15.0)	4.0					口クロ	口クロ	圓輪余切					
21 23	S X27	土師器	直輪付		(60.0)	(21.0)	3.5					口クロ	口クロ	圓輪余切					
1 24	S X27	土師器	直輪					(61.0)	5.0			ハケテ	ハケテ						
2 25	S X27	土師器	环						4.5						圓輪余切	底部墨書文字不明			
3 27	S X26	土師器	年	I A2c③	(130.0)	50.0	45.0	4.0	36.5	34.6	45.0	口クロ	口クロ	圓輪余切					
4 28	S X26	土師器	直輪付	I B 2	(150.0)	(71.0)	(62.0)	4.0	47.3	(44.3)	37.0	口クロ	口クロ	不規	便用				
5 29	S X26	土師器	年	I A2c③	(116.0)	(60.0)	(39.0)	3.0	43.4	(33.1)	43.0	口クロ	口クロ	圓輪余切					
6 30	S X26	土師器	直輪付		(60.0)	(18.0)	4.0					口クロ	口クロ	圓輪余切					
7 31	S X26	土師器	年		(70.0)	(18.0)	4.0					口クロ	口クロ	圓輪余切	内面墨付等				
8 32	S X26	須恵器	直輪付		(102.0)	(20.0)	11.0					口クロ	口クロ	不規	ナガタ調	底部内面墨付等ヘナダ			
9 33	S X29	土師器	年	I A 1	(128.0)	52.0	57.0	4.5	(46.6)	(44.5)	35.5	口クロ	口クロ	圓輪余切					
10 34	S X29	須恵器	年	I A4③	(141.0)	60.0	42.0	4.0	43.6	(29.8)	44.2	口クロ	口クロ	圓輪余切					
11 35	S X29	土師器	直輪付	I B 3②	(136.0)	54.0	41.0	4.0	38.1	35.7	46.0	口クロ	口クロ	圓輪余切					
12 36	S X29	土師器	直輪付		(140.0)	(55.0)	3.5					口クロ	口クロ						
13 37	S X29	土師器	直輪付		(152.0)	44.0	4.0					口クロ	口クロ	杯か?					
14 38	S X29	土師器	环		(61.0)	(34.0)	4.5					口クロ	口クロ	圓輪余切					
15 39	S X29	土師器	直輪付		(14.0)	19.0	6.0					口クロ	口クロ	圓輪余切					
16 40	S X29	須恵器	直輪付	I F 1		(33.0)	10.0					口クロ	ハゲテ	印加	脚注(165)				
17 41	S X29	須恵器	直輪付					61.0	43.0	4.0		口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨付等 細線等				
18 42	S X406	須恵器	环	I B 1	(118.0)	(54.0)	(37.0)	5.5	45.6	31.4	45.5	口クロ	口クロ	圓輪余切					
19 43	S X406	須恵器	环					54.0	(34.0)	5.0		口クロ	口クロ	圓輪余切					
20 45	S X406	土師器	直輪付					60.0	20.0	4.0		口クロ	口クロ	不規 ナガタ	内面全面墨付等				
1 44	S X413	須恵器	直輪付	I E				8.0				テラキ	アテ						
2 46	S X406	土師器	直輪付					76.0	5.0			口クロ	口クロ	不規 ナガタ					
3 47	S X406	土師器	环						4.5			口クロ	口クロ	杯か? 内面墨付等。					
4 48	S X406	土師器	直輪付						3.0			口クロ	口クロ	外觀墨書文字不明					
5 49	S X407	須恵器	环					54.0	(21.0)	3.0		口クロ	口クロ	圓輪余切					
6 50	S X407	土師器	年					58.0	(12.0)	5.0		口クロ	口クロ	圓輪余切	底缺?				
7 51	S X407	土師器	直輪付					(28.0)	3.5			口クロ	口クロ	外觀墨付等少々 内面用等					
8 52	S X413	土師器	年	I A2c③	(126.0)	48.0	48.0	4.0	38.1	36.5	41.0	口クロ	口クロ	圓輪余切	外・内面口縫・底缺等に付属				
9 53	S X413	須恵器	直輪付					58.0	(32.0)	5.0		口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨書文字不明				
10 58	S X413	須恵器	直輪付	I F 2					7.0			口クロ	口クロ	脚注(58)					
11 59	S X402	須恵器	年		(126.0)		(37.0)	5.0				口クロ	口クロ	口クロ					
12 60	S X402	土師器	直輪付						6.5			口クロ	口クロ	不規 不規	内面墨付等 ?				
13 61	S X404	土師器	年	I A2c③	(126.0)	58.0	45.0	4.0	46.0	35.7	38.0	口クロ	口クロ	圓輪余切					
14 62	S X404	土師器	直輪付						40.0	5.0		口クロ	口クロ						
15 63	S X404	土師器	环					54.0	(16.0)	6.5		口クロ	口クロ	圓輪余切					
16 64	S X404	土師器	环		(140.0)		(40.0)	4.0				口クロ	口クロ	外觀墨付等					
17 65	S X404	須恵器	年						6.5			口クロ	口クロ	圓輪余切	底部墨書文字不明				
18 66	S X403	土師器	直輪付	I A2c③	(120.0)	(72.0)	(48.0)	5.5	45.0	32.0	39.0	口クロ	口クロ						

第12表 遺物観察表8

遺物 番号	種類	出土地	E.P. 番号	種別	種類	細分	口径	底径	高さ	器厚	性状 指紋	器蓋 指紋	外模様	調査結果		底部形態	備考
														外面	内面		
19	67	S X 433		土器部	环					3.5				ロクロ	ロクロ		内面部付帯
20	68	S X 434		土器部	蓋	I D 1			(16.0)	5.0				ロクロ	ロクロ		天井部外縁ケズリ
21	69	S X 545		土器部	環					13.0							底部代表、方面なで
22	70+	S X 546		土器部	蓋	I F 1				7.0				ナガタテ 四切	ロクロ		側径(後)、内面部付帯
23	70+	S X 545		土器部	蓋	I F 2				7.0				ケズリ	ロクロ		内面部付帯、46-222(側径付)
24	71	S X 927		土器部	环				(10.0)	(22.0)	5.0			ロクロ	ロクロ	圓輪孔切	底部へラブキあり、先?
1	80-1	新規品A		土器部	环	I A 4 C	130.0	68.0	40.0	5.0	52.3	30.8	39.0	ロクロ	ロクロ		内面部付帯
2	80-2	新規品A		土器部	环	I A 5 D	144.0	64.0	40.0	4.5	43.2	27.0	46.0	ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
3	80-3	新規品A		土器部	环				58.0	(31.0)	5.0			ロクロ	ロクロ		外面部付帯
4	80-4	新規品A		土器部	环				68.0	(33.0)	4.0			ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
5	80-5	新規品A		土器部	环					8.0				ロクロ	ロクロ		底部蓋付
6	80-6	新規品A		土器部	环				(6.0)	(15.0)	5.5			ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
7	80-7	B - 8		土器部	环				(15.0)					ロクロ	ロクロ		底部蓋付
8	80-8	B - 8		土器部	環	II E 6			65.0	7.0				ハゲヌ	ハナダ		
9	80-9	B - 9		土器部	小壺				38.0	6.0				ロクロ	ロクロ		今昔の所蔵品に由来する可能性。
10	80-10	B - 10		土器部	环				54.0	(18.0)	5.0			ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
11	80-11	E - 15		馬鹿子頭	直付				(68.0)	(27.0)	3.5			ミガキ	ミガキ		別・内面部付帯
12	80-12	E - 20		土器部	直付				69.0	(28.0)	5.0			ロクロ	ロクロ		底部付帯アラフ
13	80-13	E - 22		土器部	环				54.0	(30.0)	5.5			ロクロ	ロクロ		底部孔付
14	80-14	C - 9		土器部	環				(70.0)	(34.0)	9.0			ハゲヌ	ハナダ		底部蓋付
15	80-15	C - 9		土器部	蓋	I D 1			(18.0)	6.0				ロクロ	ロクロ		底部蓋付
16	80-16	C - 9		土器部	環				(38.0)	7.0				ロクロ	ハケヌ		不明
17	80-17	C - 12		土器部	直付	I B 2	(106.0)	(68.0)	65.0	6.5	51.8	(39.2)	37.0	ロクロ	ロクロ		底部蓋付
18	80-18	C - 12		土器部	环				(64.0)	(27.0)	7.0			ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
19	80-19	C - 12		土器部	直付				63.0	6.0				ロクロ	ロクロ		小壺か?に似る 同一個体?
20	80-20	C - 15		土器部	環	II E 6			(71.0)	8.0				ハゲヌ	ハケヌ		
1	80-21	C - 15		土器部	环				(68.0)	(36.0)	3.0			ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
2	80-22	C - 15		土器部	環				(19.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		底部蓋付
3	80-23	C - 19		土器部	环	I A 4 C	(142.0)	(62.0)	(45.0)	4.0	43.7	31.7	41.2	ロクロ	ロクロ		底部蓋付文字不
4	80-24	C - 19		土器部	环				(54.0)	(44.0)	5.5			ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
5	80-25	D - 13		土器部	环				(62.0)	(38.0)	5.0			ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
6	80-26	D - 14		土器部	直付	I A 5 D	(120.0)	(50.0)	(47.0)	4.0	41.7	39.2	40.5	ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
7	80-27	D - 14		土器部	环	I A 3 D	(137.0)	(62.0)	(37.0)	4.0	45.3	27.0	45.0	ロクロ	ロクロ		底部蓋付
8	80-28	D - 14		土器部	環				(14.0)	4.5				ロクロ	ロクロ		
9	80-29	D - 14		土器部	環	II B 1	(210.0)	(65.0)	6.0					ハゲヌ	ハケヌ		
10	80-30	D - 14		土器部	環				(70.0)	(45.0)	5.0			ハゲヌ	ハヌメ		底部蓋付
11	80-31	D - 14		土器部	環				(51.0)	6.0				ハヌメ	ハヌメ		底部蓋付
12	80-32	D - 15		土器部	直付				(76.0)	(29.0)	6.0			ロクロ	ロクロ		不明
13	80-33	D - 15		土器部	環	II E 5	204.0	(136.0)	5.0					ロクロ	ロクロ		底部蓋付
14	80-34	D - 15		土器部	環	II E 6	202.0				7.0			ロクロ	ロクロ		内面部付帯
15	80-35	D - 15		土器部	環				(52.0)	7.0				ハゲヌ	ハヌメ		底部蓋付
16	80-36	D - 15		馬鹿子頭	直付				(56.0)	(32.0)	5.5			ミガキ	ミガキ		底部蓋付
17	80-37	D - 15		土器部	环				(70.0)	(33.0)	4.0			ロクロ	ロクロ		内面部付帯
18	80-38	D - 15		土器部	直付				(70.0)	(36.0)	4.0			ロクロ	ロクロ		底部蓋付
20	80-39	D - 15		土器部	环				6.0					ロクロ	ロクロ		外面部付帯
21	80-40	D - 15		土器部	環				7.0					ロクロ	ロクロ		
22	80-41	D - 16		土器部	环									ロクロ	ロクロ		底部蓋付
1	80-42	D - 16		土器部	环	I A 4 D	(140.0)	(60.0)	43.0	6.0	42.9	(40.7)	45.0	ロクロ	ロクロ		底部蓋付
2	80-43	D - 16		土器部	环				(34.0)		(43.0)	5.0		ロクロ	ロクロ		
3	80-44	D - 16		土器部	环				(66.0)	(27.0)	5.0			ロクロ	ロクロ		底部蓋付
4	80-45	D - 16		馬鹿子頭	直付				(60.0)	(30.0)	6.0			ロクロ	ロクロ		底部孔付
5	80-46	D - 16		土器部	环				(162.0)	(38.0)	5.0			ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
6	80-47	D - 16		土器部	环				(66.0)	(38.0)	6.0			ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
7	80-48	D - 16		土器部	环				(12.0)	5.5				ロクロ	ロクロ		底部蓋付
8	80-49	D - 16		土器部	直付				(61.0)	(15.0)	5.0			ロクロ	ロクロ		底部蓋付
9	80-50	D - 16		土器部	環	I F 2	(125.0)	(63.0)	10.0					ロクロ	ロクロ		指紋無し
10	80-51	D - 16		土器部	環	I F 2	(101.0)	(46.0)	6.0					ロクロ	ロクロ		蓋付
11	80-52	D - 16		土器部	環	I F 3	(136.0)	(43.0)	10.5					ロクロ	ロクロ		不明
12	80-53	D - 16		土器部	環					7.0				ロクロ	ロクロ		
13	80-54	D - 16		土器部	直付									ミガキ	ミガキ		外面部付帯
14	80-55	D - 16		馬鹿子頭	直付				64.0	(30.0)	5.0			ロクロ	ロクロ		内面部付帯
15	80-56	D - 16		土器部	環					9.0				ロクロ	ロクロ		
16	80-57	D - 16		土器部	环				(62.0)	(18.0)	4.0			ロクロ	ロクロ		圓輪孔付
17	80-58	D - 16		土器部	直付					5.0				ミガキ	ナダ		
18	80-59	D - 16		土器部	环					5.0				ロクロ	ナダ		内面部付帯
19	80-60	D - 16		土器部	环					5.5				ロクロ	ミガキ		外面部付帯
20	80-61	D - 16		土器部	环				(18.0)	4.0				ロクロ	ロクロ		内面部付帯

第13表 遺物観察表9

登録番号	種類	出土位置	E.P.	種別	種類	種分	口径	底径	高さ	器厚	走査	検査	外観	外観	調査結果		底部形態	備考
															外観	内面		
21. 00-01 D-17	須恵器	高台付					(73.0)	(22.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
22. 00-01 D-19	須恵器	高台付					(66.0)	(30.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
23. 00-01 D-16	土師器	环							(26.0)	4.0			ロクロ	ロクロ			环口内面付付。	
24. 00-01 E-13	須恵器	环	I A3D	(140.0)	(60.0)	(34.0)	4.5	42.9	24.3	49.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余初					
25. 00-01 E-13	土師器	環					(66.0)	(23.0)	6.0				ハケド	ハズメ	不明		漆師跡代入	
26. 00-01 E-15	須恵器	環	I F 1						8.0				ロクロ	ハズメ	ロクロ			
27. 00-01 E-15	須恵器	高台付					(70.0)	(19.0)	7.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余初	法部書會文字不明		
1. 00-01 E-16	土師器	环							(48.0)	4.0			ロクロ	ロクロ	圓輪余初	内部更裏面		
2. 00-01 E-16	須恵器	环							(37.0)	5.5			ロクロ	ナゾ	圓輪余初	内部つるるとしている		
3. 00-01 E-16	須恵器	环					48.0	11.0	5.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余初	法部書會文字不明		
4. 00-01 E-16	須恵器	环							3.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余初	外部書會文字不明		
5. 00-01 E-16	須恵器	環							(43.0)	4.5			ロクロ	ロクロ				
6. 00-01 E-16	須恵器	環							4.0				ロクロ	ロクロ				
7. 00-01 E-18	土師器	环					52.0	(17.0)	4.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余初			
8. 00-01 E-18	須恵器	環							(29.0)	7.0			ロクロ	ロクロ				
9. 00-01 C-19	須恵器	環					(35.0)	8.0					タタキ	ハラナデ	タタキ?	漆師平底		
10. 00-01 F-20	馬鹿子頭	高台付					62.0	(24.0)	5.0				不明	ミガキ?	圓輪余初	内部素面		
11. 00-01 E-20	土師器	环							5.0				不明	ミガキ?	手形付少々圓形付	内部附付		
12. 00-01 F-10	土師器	環	II E 1						(69.0)	8.0			ハケド	ハズメ				
13. 00-01 F-10	須恵器	環							(30.0)	4.0			ロクロ	ロクロ				
14. 00-01 F-18	須恵器	環	I E						(36.0)	16.5			タタキ	ロクロ	ロクロ			
15. 00-01 F-18	須恵器	環	I F 2						6.0				ロクロ	ロクロ			鉄錠(34)	
16. 00-01 F-20	須恵器	环	I A4D	(134.0)	64.0	(40.0)	3.0	(47.8)	29.9	42.5	ロクロ	ロクロ	圓輪余初					
17. 00-01 F-20	須恵器	环	I A4D	(122.0)	(52.0)	(38.0)	4.0	42.6	31.1	43.0	ロクロ	ロクロ	圓輪余初					
18. 00-01 E-20	須恵器	环					55.0	(30.0)	5.0				ロクロ	ロクロ	圓輪余初	内部つるつるしている 頂部墨書き		
19. 00-01 F-20	須恵器	环							4.0				ロクロ	ロクロ			外部書會文字不明	
20. 00-01 F-20	須恵器	高台付											タタキ	タタキ				
21. 00-01 E-19	土師器	高台付					(74.0)	(46.0)	6.0				ロクロ	ロクロ	静止余初	外側少々漆付 内部全面漆付		
22. 00-01 H-24	須恵器	环					(133.0)	(46.0)	4.0				ロクロ	ロクロ			内面漆付	
23. 00-01 M-19	須恵器	高台付							8.0				タタキ	タタキ				
1. M-20	土師器	環	II E 5	(230.0)			(250.0)	10.0					タタキ	タタキ	ハナナデ	鐵錠(203)	鉄錠(240)	
2. 00-01 M-6	須恵器	环	I A 1	(134.0)	95.0	(37.0)	5.0	(70.9)	27.6	-	ケズリ	ケズリ	ヘラ切	法部書會「件」				
3. 00-01 M-16	土師器	环							(22.0)				ケズリ	ケズリ			内面漆付	
4. 00-01 M-25	土師器	高台付											タタキ	タタキ				
5. 00-01 西AP-1	馬鹿子頭	环	日 A	(145.0)	(60.0)	(37.0)	5.0	40.5	38.5	38.0	ケズリ	ロクロ	ロクロ	ハナナデ	鐵錠(203)	鉄錠(240)		
6. 00-01 北区	須恵器	环					(60.0)	(33.0)	5.0				ケズリ	ロクロ	圓輪余初	法部書會文字不明		
7. 00-01 北区	馬鹿子頭	环					(65.0)	(34.0)	4.5				ケズリ	ロクロ	圓輪余初	法部書會文字		
8. 00-01 T-13	須恵器	環	I F 2?				(120.0)	(43.0)	9.0				ロクロ	ロクロ			ナゾ	
9. 00-01 T-14東	土師器	环					(146.0)		(45.0)	4.5			ロクロ	ロクロ				
10. 00-01 T-14	馬鹿子頭	高台付							(47.0)	(37.0)	4.0		ミガキ	ミガキ	圓輪余初	對・内部表面吸着		
11. 00-01 T-14	土師器	高台付					(60.0)	(46.0)	5.0				ロクロ	ロクロ			漆斑付ナダラ	
12. 00-01 T-14東	土師器	高台付							(57.0)	(31.0)	4.0		ロクロ	ロクロ			内部表面漆?	
1. SK-225	骨白磁	小盤蓋							9.0	2.0							最大直径 約16.5cm(18.0cm) 下鉢(3.0cm)	
2. 00-01 SX109物	灰陶器	碗	A	(166.0)	(62.0)	(47.0)	5.5	49.4	28.3	45.0	ロクロ	ロクロ					SX109-SX109-1-19-K-12-1合	
3. 00-01 K-14	灰陶器	長瓶							5.0				ロクロ	ロクロ				
4. 00-01 S X427	灰陶器	瓶							(29.0)	3.5			ロクロ	ロクロ				
5. 00-01 H-3	灰陶器	瓶							(34.0)	5.0			ロクロ	ロクロ				
6. 00-01 K-15	灰陶器	瓶								4.5			ロクロ	ロクロ				
7. 横2 S X375	須恵器	瓶											ケズリ	ナゾ	ケズリ	ナゾ	馬字瓶	
8. 横3 M-17	須恵器	瓶											ケズリ	ナゾ	ケズリ	ナゾ	馬字瓶	
9. 11 S P-94	須恵器	瓶											ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	瓶の押か?	
10. 横5 F-17	石製品	石器																
11. 横6 S X12	石製品	石器																
12. 00-01 K-3X12	石製品	石器																
13. 00-01 T-8	灰陶器	便器															鉄錠(5.0cm)	
14. 100 S K 1	土師器	瓶口															粘土質(10.0cm)付(3.0cm)付	
15. 00-01 D-18	石製品	石器																

## IV まとめ

今回の調査は、日本道路公团による東北中央自動車道相馬～尾花沢線にかかる緊急発掘調査である。調査の結果を以下に列挙する。

- 1 遺構は平安時代の掘立柱建物跡4棟、土坑・柱穴跡多数、溝跡が検出された。遺構の多くが調査区北西端に集中おり、遺跡の主体が調査区西側に広がることを示す。今回の調査は奈良・平安時代の集落跡の縁辺を調査したことになる。
- 2 遺構では、掘立柱建物跡は検出されたが堅穴住居跡は未検出である。これは（1）堅穴住居が単に見つからないだけで集落の他の部分にあるのか、あるいは（2）時期的に堅穴住居が伴わないのか、または（3）本遺跡の性格なのかのいずれかが考えられる。集落跡の主体部が発掘されなければ結論付けることは出来ないが、可能性としては（2）を想定したい。
- 3 掘立柱建物跡は4棟見つかっているが、南北軸によって2つに分けられる。一つはS B851で、もう一つがS B852・853・600の3棟である。両者に切りあい関係はなく、時期判定できる資料も乏しく前後関係は不明である。
- 4 本遺跡の遺構では、SK1・2・14など一括遺物と判断される土器が多量に出土した大型の土坑がある。これらは掘立柱建物跡の並ぶ位置から更に東に位置する。恐らく生活ゴミや廃棄した土器の捨て場と考えられる。出土した遺物の量から一つの家族なり掘立柱建物の住人が捨てた量としては多すぎるため、いくつかの住居単位で共同利用していたとも考えられる。今回の調査ではこうした土坑が集落の端につくられていることが判明した。
- 5 SK12からはSK1などと同様に多量の土器が出土している。ただし他の土坑と異なる点は、他の土坑では土師器が須恵器に対して優勢であるのに対して、SK12では須恵器の方がはるかに多く、しかもその多くに墨書が施されている点である。墨書土器と祭祀との関係は指摘されているが、この土坑もそうした状況を示すものと理解できる。
- 6 出土遺物は平安時代の遺物が主体である。具体的には9世紀第2四半期から10世紀初頭と位置付けた。特にSK1・2・14の資料は10世紀前後の資料でも良好な資料といえる。山形盆地ではこの時期の資料は少なく、遺物の出土量と共にこの時期の様相を示す資料といえる。同様の土坑一括の資料は山形県山形市の馬上台遺跡でも出土している（山形市教育委員会「馬上台遺跡発掘調査報告書」1995）。
- 7 本遺跡からは特異な遺物として石帯・硯・段皿・耳皿・灰釉陶器が出土している。これらは官衙遺跡に伴出するとされる遺物である。但しこれらの出土が官衙遺跡であることを直接示すとは考え難い。なお横浜市千手院の阿弥陀如来像（文永3年造）に「出羽国最上郡府中庄外郷石佛」とあり、これまで「府中」とは出羽国府ないしは最上郡衙、「庄外」とは天童市清池とされてきた。天童市清池地区は高擧地区に隣接し、中袋遺跡からは直線距離で1km弱である。文永3年の記述がどこまで遡れるのかという問題と、これらの記述が具体的にどこを指すのかという問題があるが、清池地区周辺の考古学的な調査を待たなければ詳しくはわからない。参考資料としてここで取り上げておく。

## 報告書抄録

ふりがな	なかぶくろいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	中袋遺跡発掘調査報告書							
副書名								
卷次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第97集							
編著者名	森谷昌央 黒坂広美							
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301							
発行年月日	2001年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかぶくろいせき 中袋遺跡	やまがたけんてんどう 山形県天童 し おおあざだかだま 市大字高柳 あおやまかやくら 字中袋	6201	平成2年 度登録	38度 20分 16秒	140度 20分 10秒	19980817 ～ 19981113	8,100	東北中央 自動車道 (相馬～ 尾花沢線)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
集落跡	奈良・平安時代 9 世紀第2四半期～ 10世紀初頭	掘立柱建物 大型土坑	4 4	土師器・須恵器 耳皿・風字硯・石帶 灰釉陶器	(出土箱数:45)			

図 版

図版 1



中袋遺跡全景（南から）



中袋遺跡全景

図版2



遺跡全景（南から）



南東壁 基本層序（西から）



北西壁 基本層序（東から）



北西部 遺構検出状況（南から）



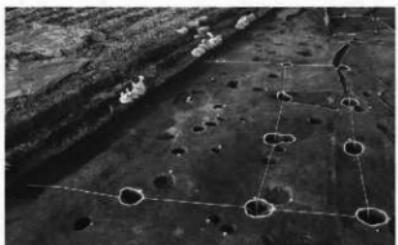
西側中央 遺構検出状況（東から）



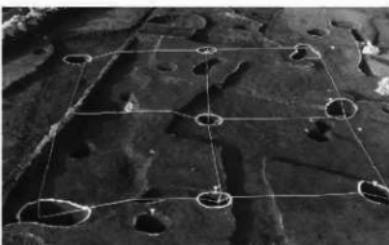
北側中央 遺構検出状況（南から）



遺構精査状況（東から）



S B 584完掘状況（南から）



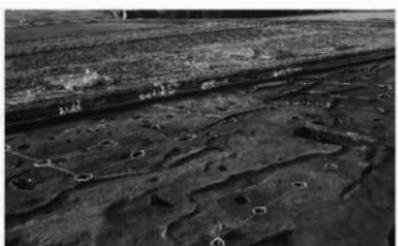
S B 582完掘状況（南から）



S B 583完掘状況（南東から）



S A 584完掘状況（南から）

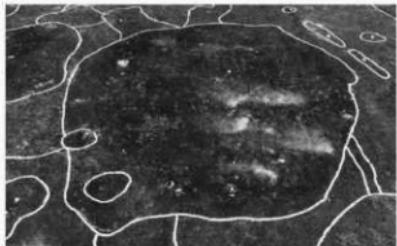


掘立柱建物群（南東から）

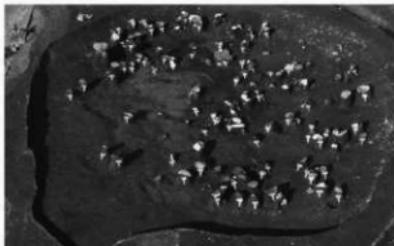


S X10検出状況（北から）

図版4



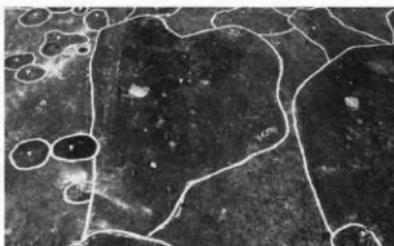
SK 1検出状況（南から）



SK 1遺物出土状況（南から）



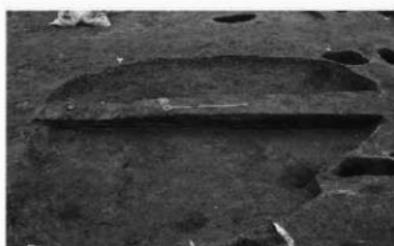
SK 1完掘状況（南から）



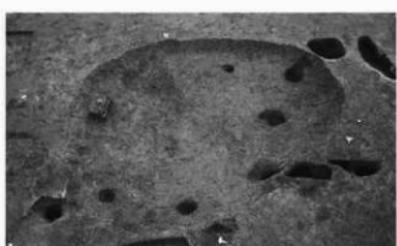
SK 2検出状況（南から）



SK 2遺物出土状況（南から）



SK 3断面（南から）



SK 3完掘状況（南から）



SK 14断面（南から）



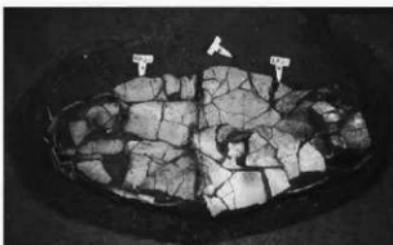
SK 14遺物出土状況（南から）



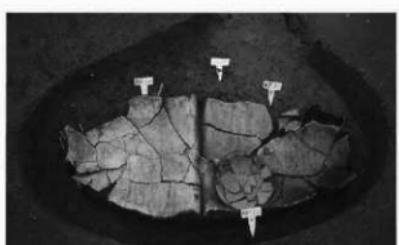
SK 14完掘状況（北から）



SK 68内、合口壺棺出土状況（南から）



合口壺棺出土状況（西から）



合口壺棺内蔵土師器坏出土状況（西から）



SK 68完掘状況（西から）



SK 229内耳皿出土状況（東から）

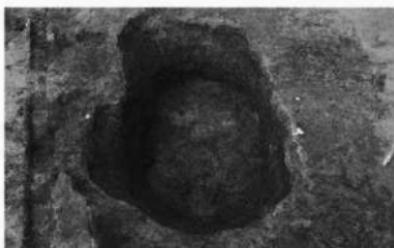


SK 568断面（南西から）

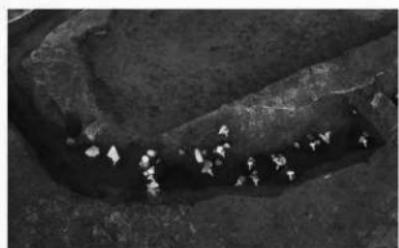
図版6



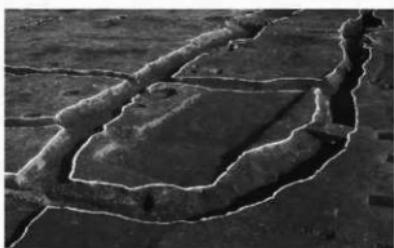
S K 574断面（南から）



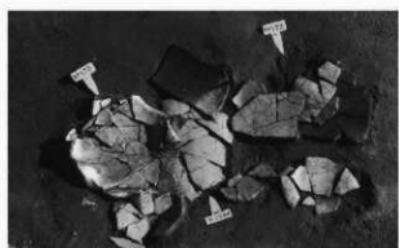
S K 574完掘状況（南から）



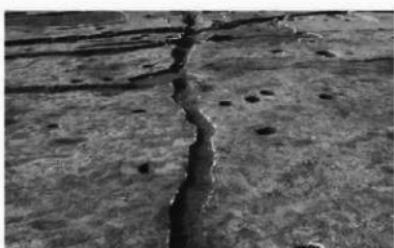
S D 5 遺物出土状況（南西から）



S D 5・6 完掘状況（西から）



S D 64遺物出土状況（西から）



S D 156完掘状況（東から）



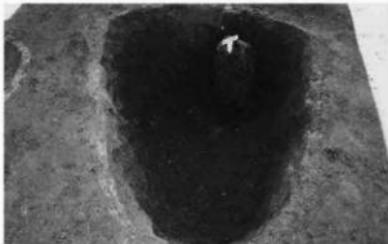
S D 224完掘状況（南から）



S D 5・6 完掘状況（西から）



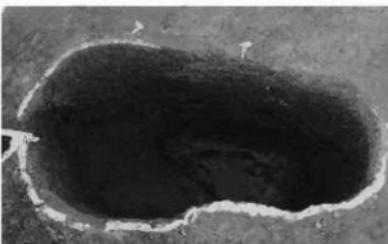
SP 214断面（南から）



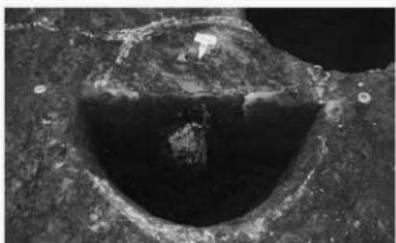
SP 214完掘状況（東から）



SP 219・220断面（南から）



SP 219・220完掘状況（南から）



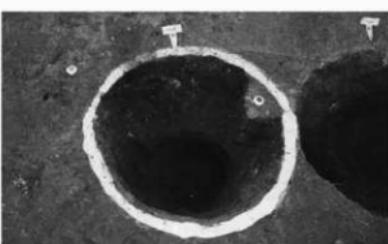
SP 243断面（南から）



SP 243完掘状況（南東から）



SP 248断面（南から）



SP 248完掘状況（南から）

図版8



S P 253断面（南から）



S P 253完掘状況（南から）



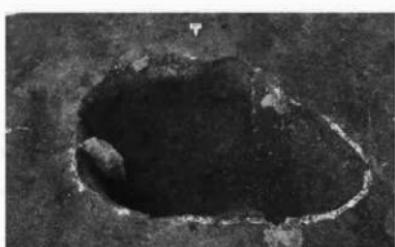
S P 295完掘状況（東から）



S P 575完掘状況（南から）



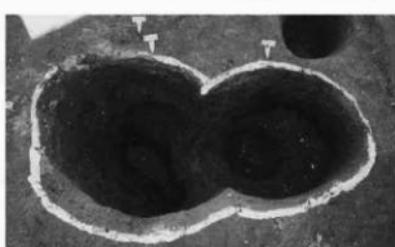
S P 467遺物出土状況（南から）



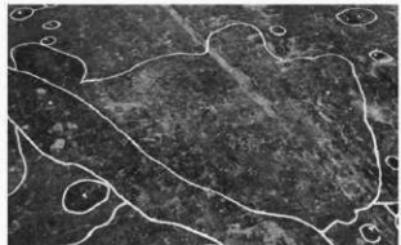
S P 467完掘状況（南から）



S K 569・570断面（南から）



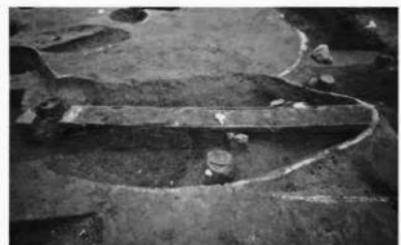
S K 569・570完掘状況（南から）



S X 4 検出状況（南西から）



S X 4 完掘状況（南西から）



S X 238断面（東から）



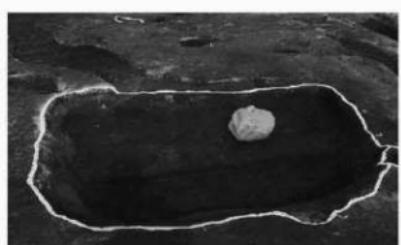
S X 357遺物出土状況（南から）



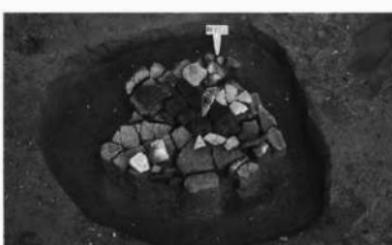
S X 357完掘状況（南東から）



S X 427断面（北から）

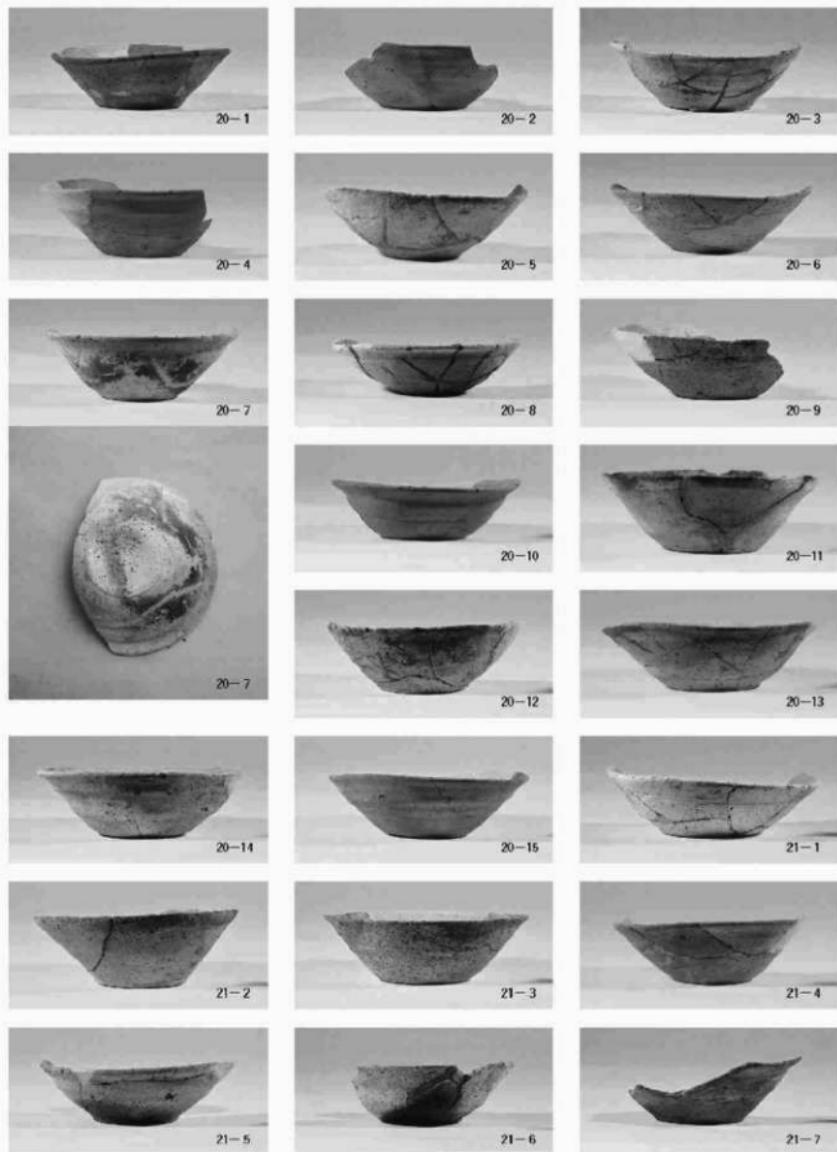


S X 427完掘状況（南から）

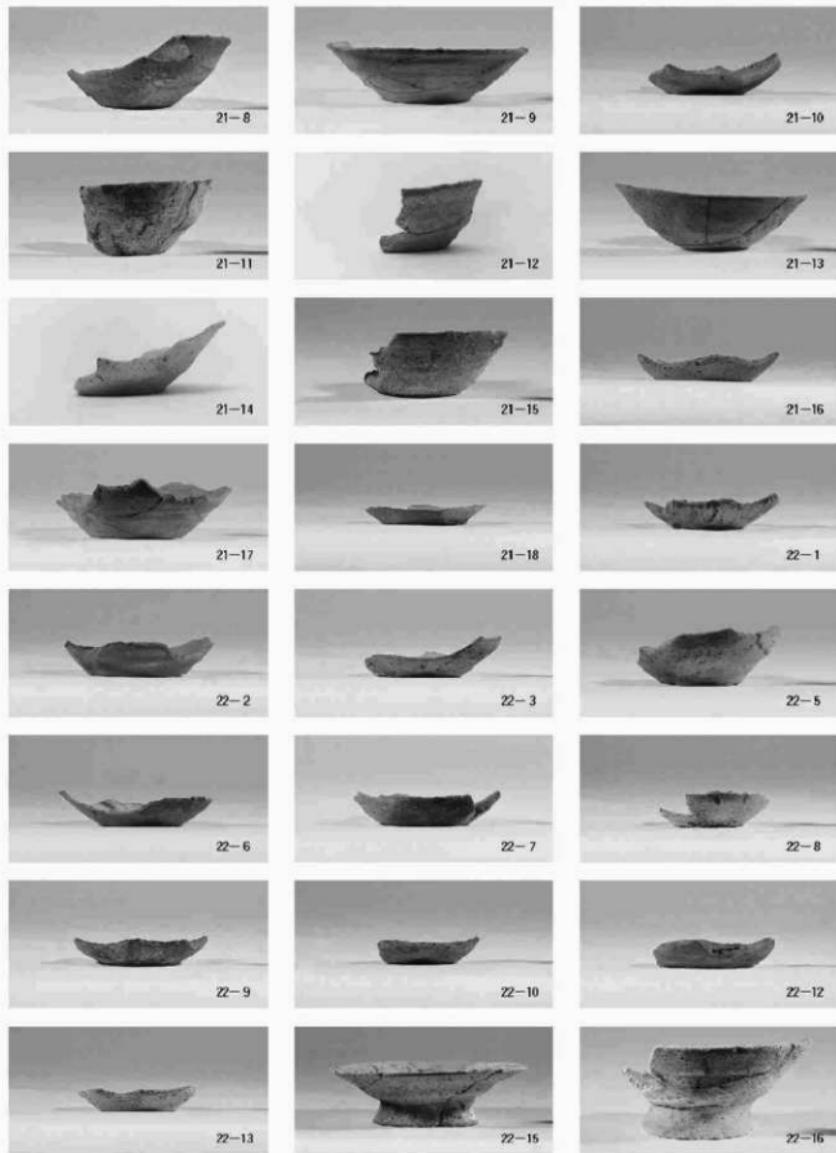


M20G 遺物出土状況（西から）

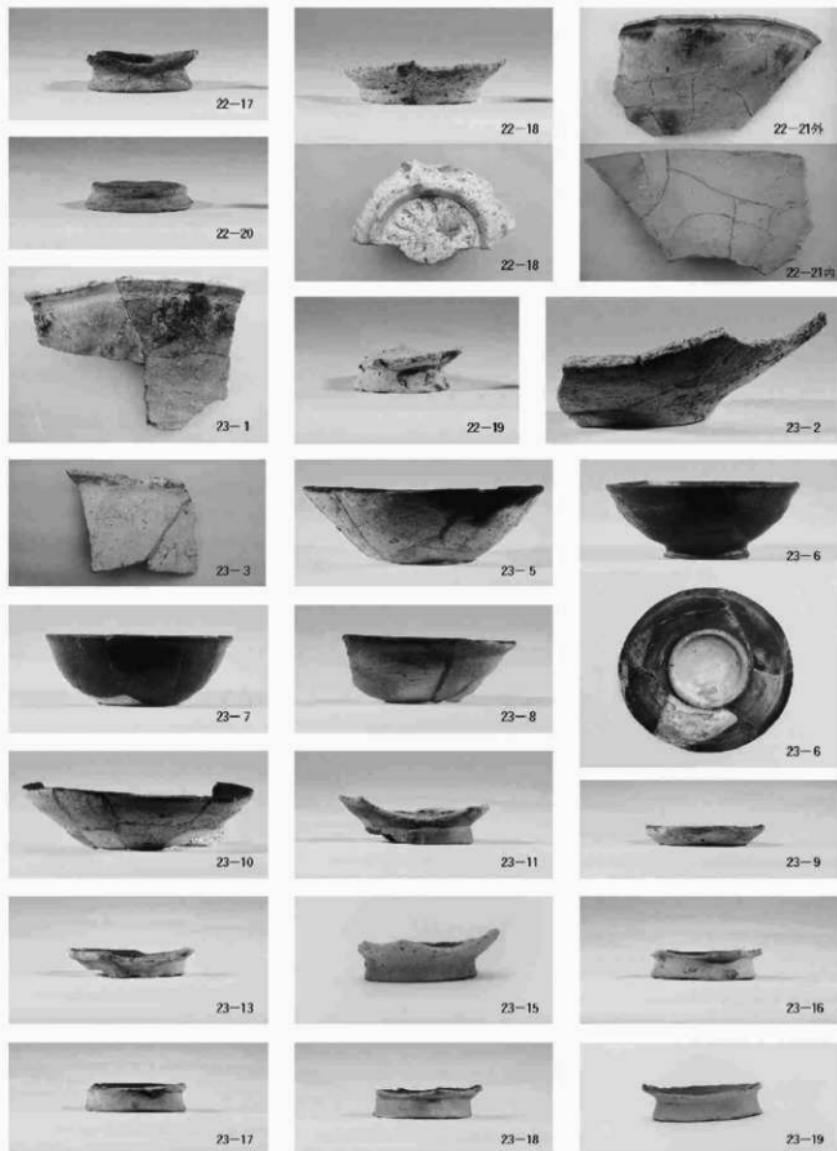
図版10

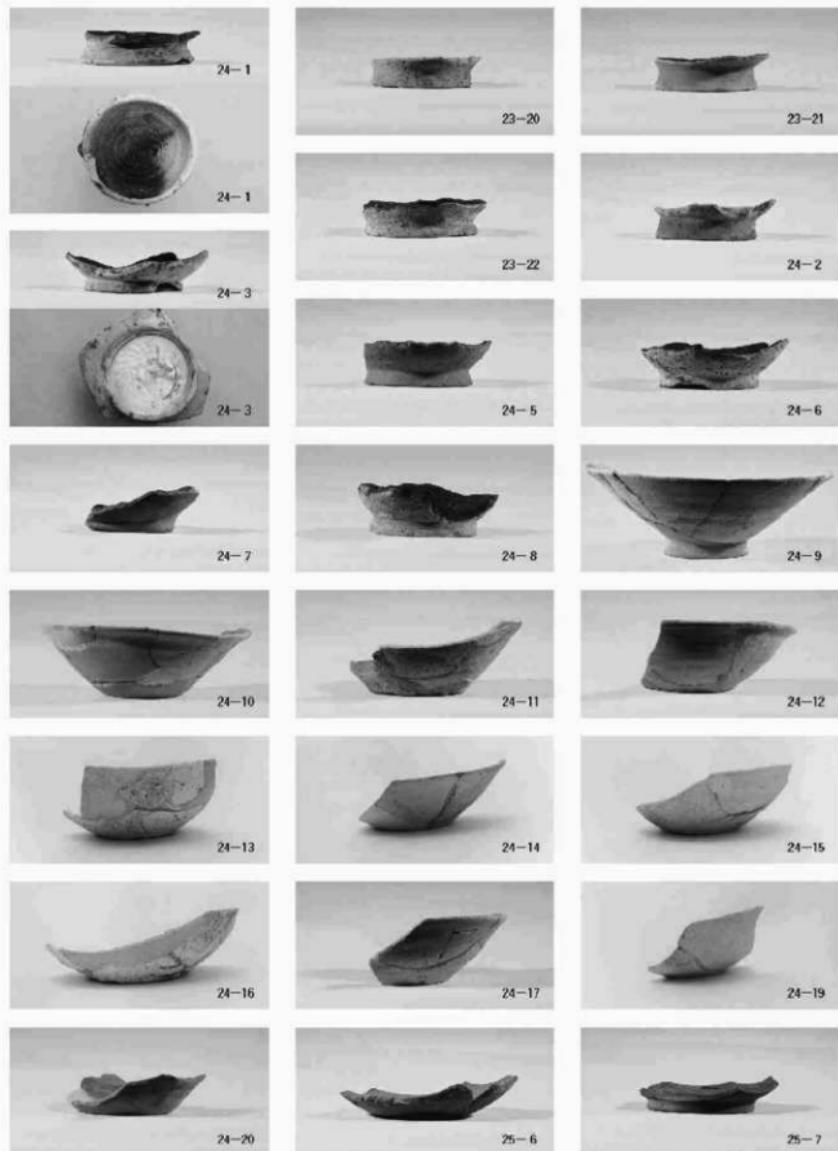


圖版11

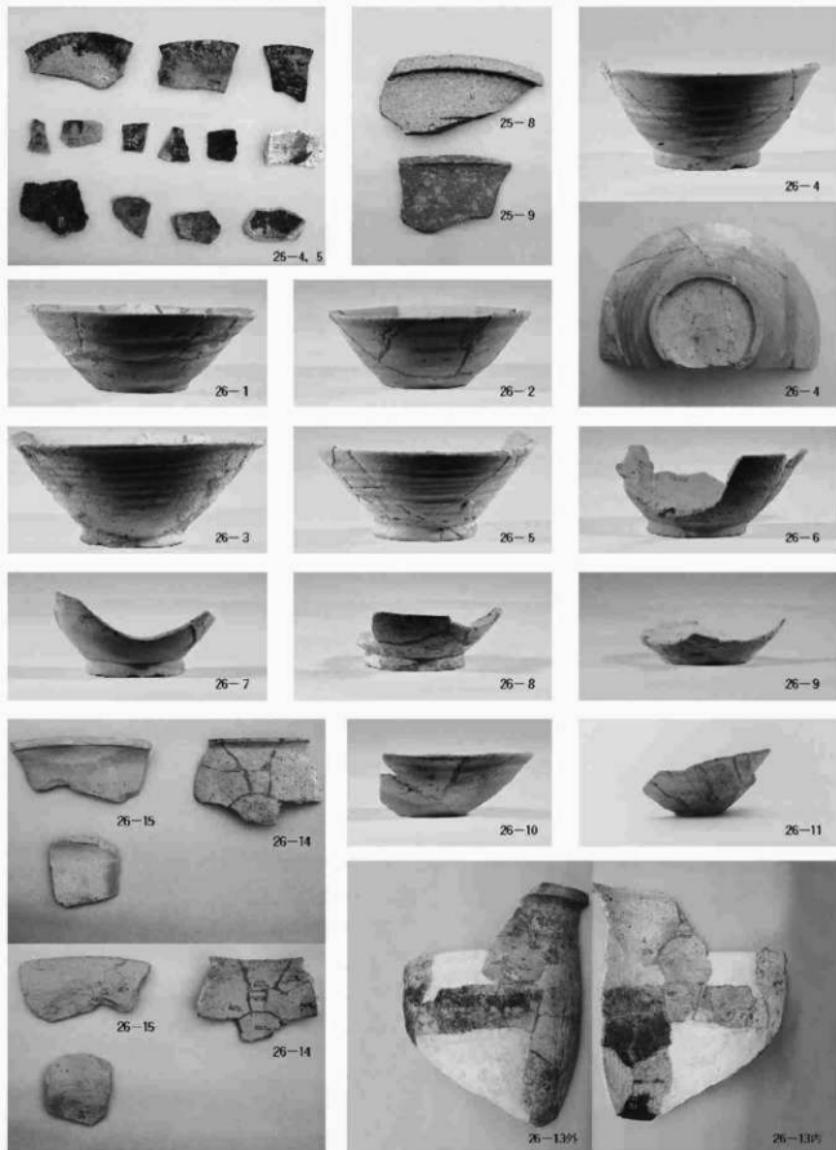


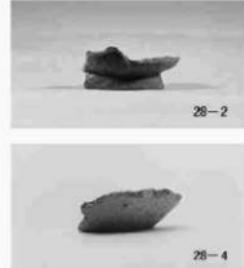
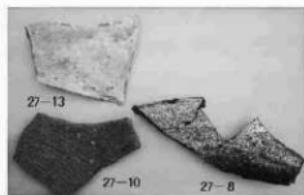
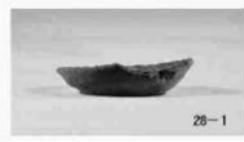
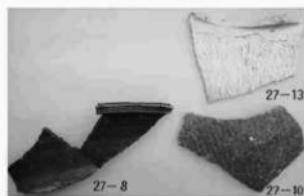
圖版12



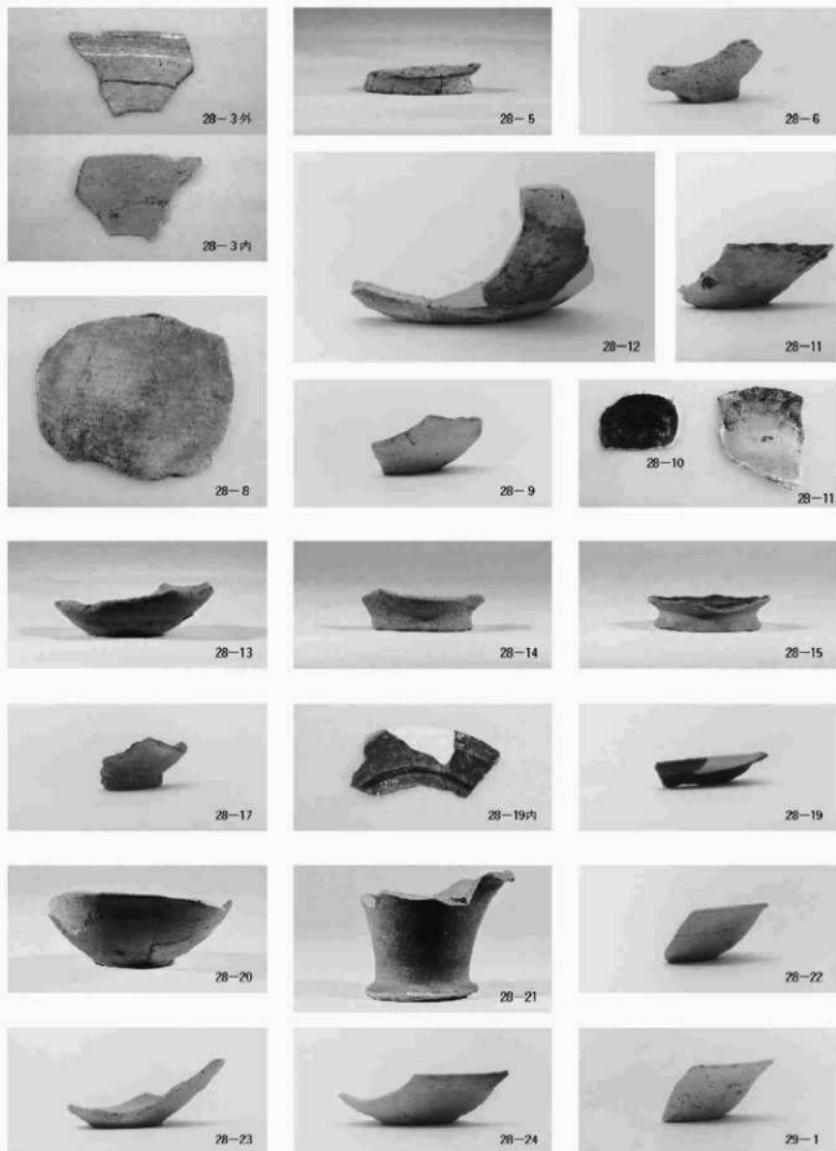


圖版14





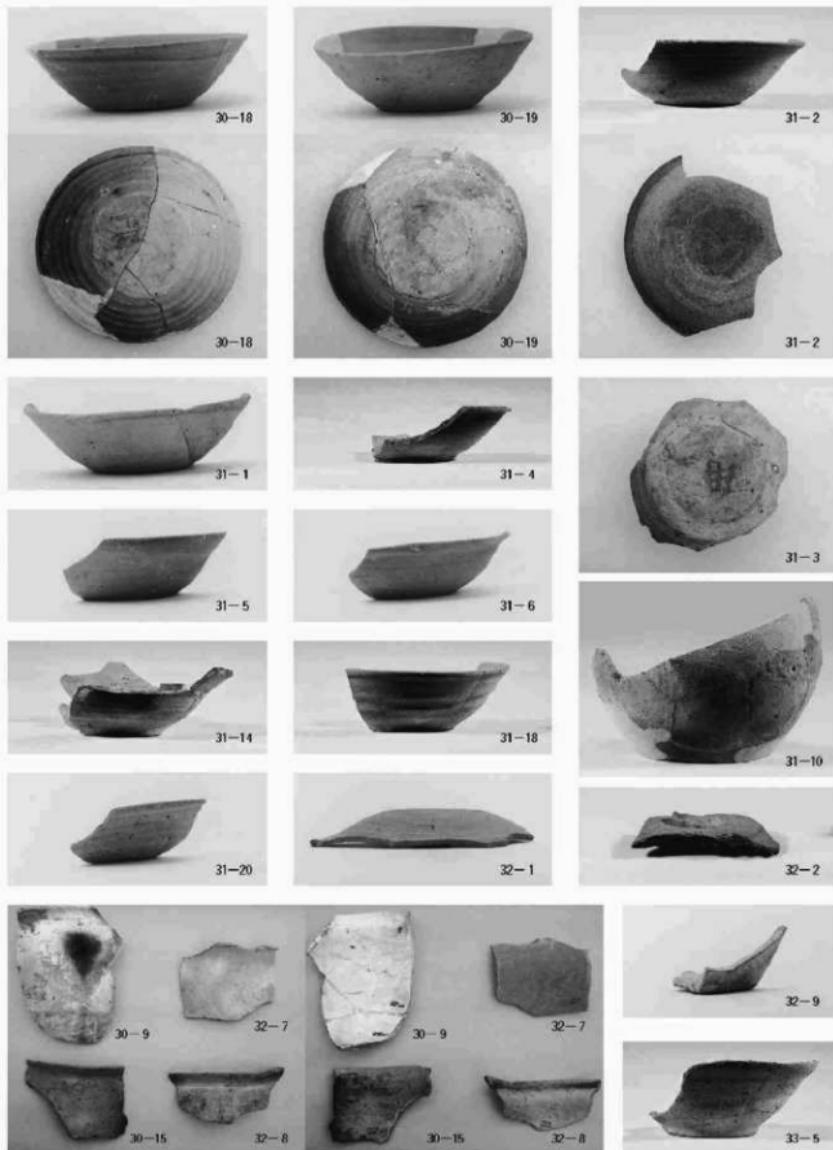
圖版16



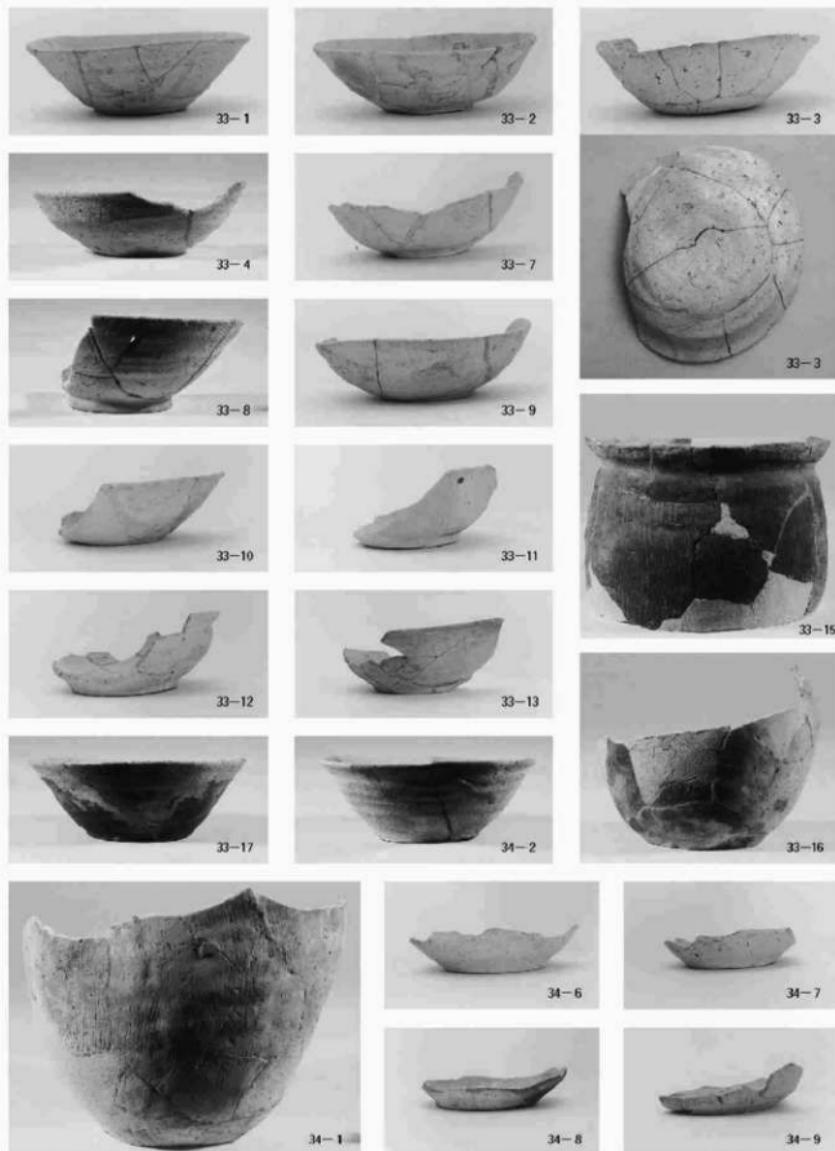
図版17



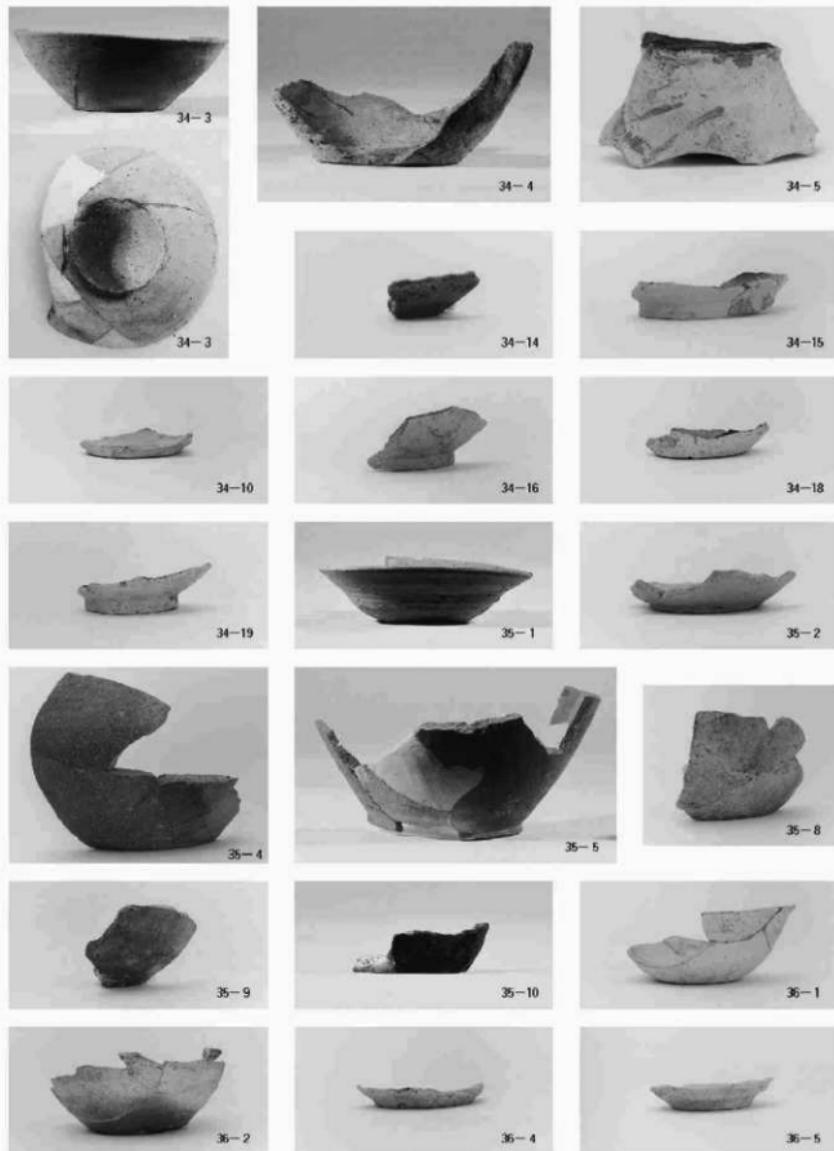
圖版18



図版19



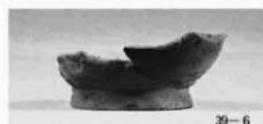
圖版20

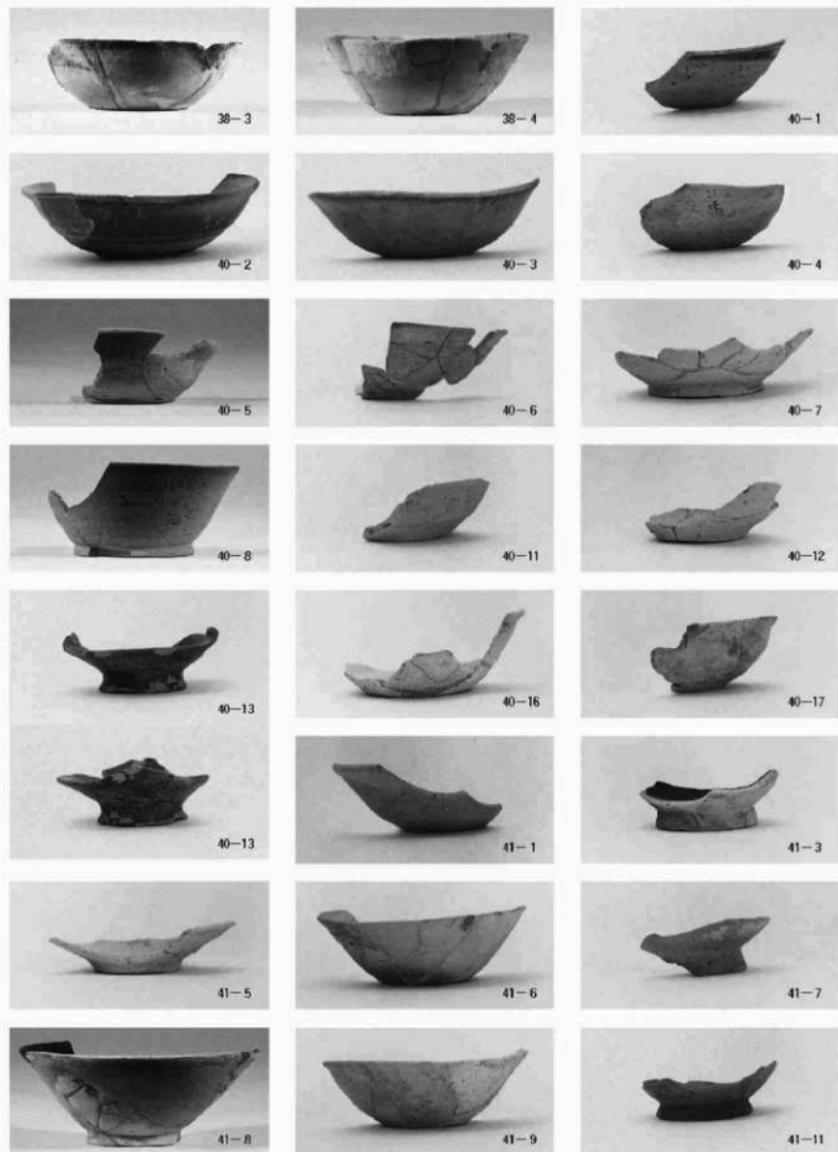


図版21

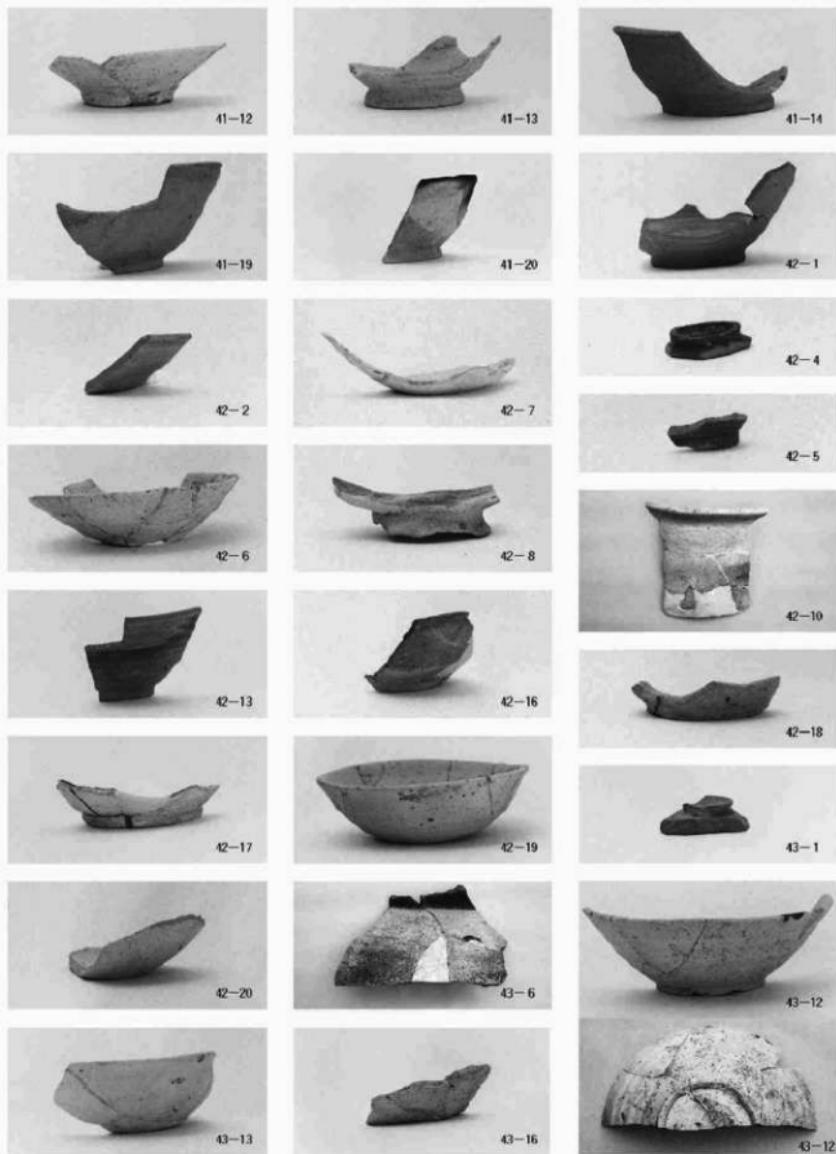


圖版22





圖版24





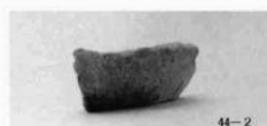
43-8



43-9



44-1



44-2



44-3



44-4



44-10



44-11



44-12



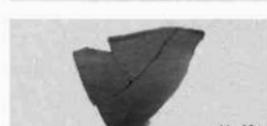
44-13



44-17



44-12



44-18



45-3



37-28



45-4



45-5



37-28



45-9



45-10



37-28



45-11

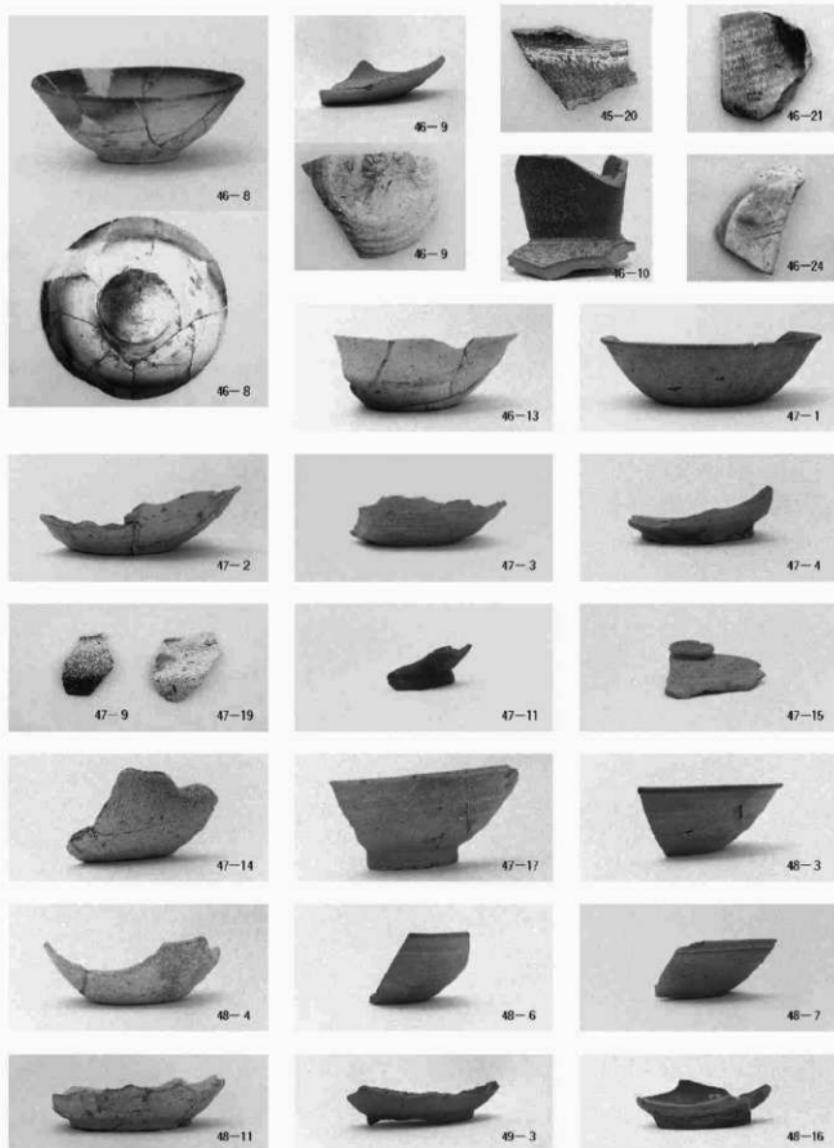


45-14

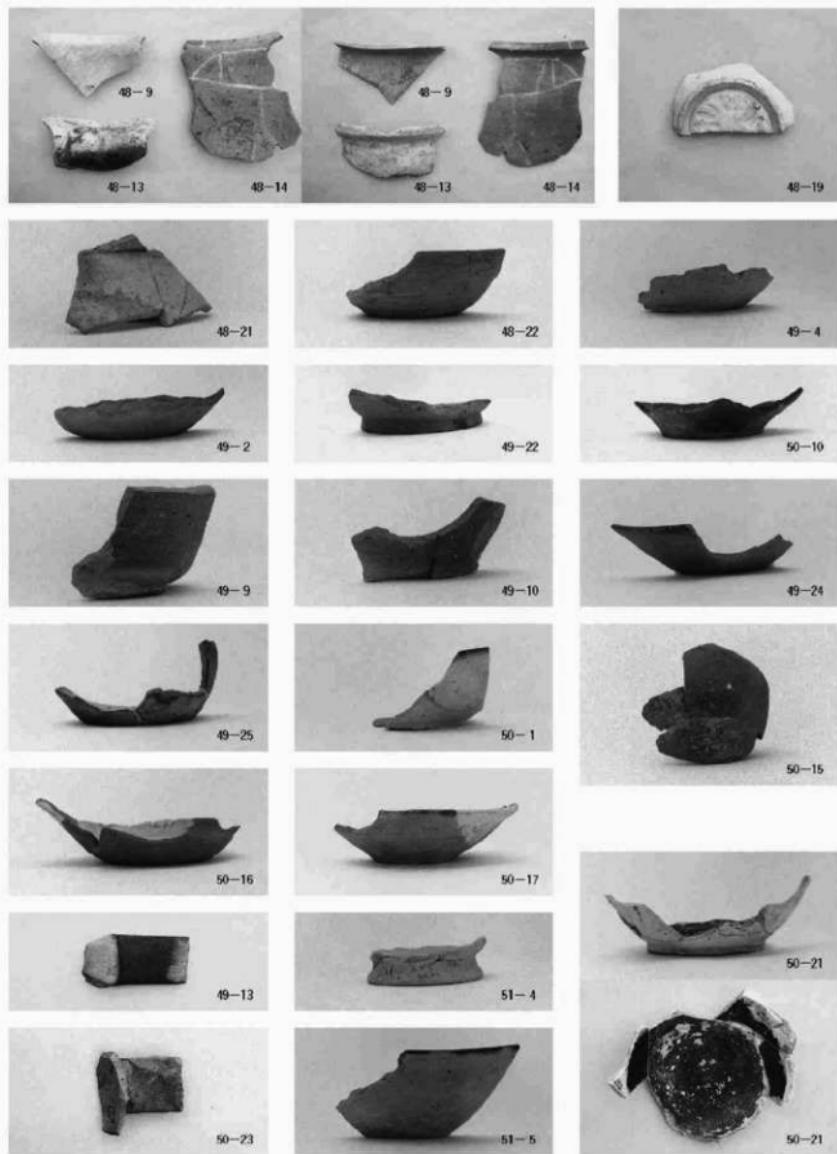


45-17

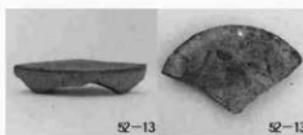
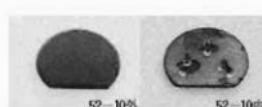
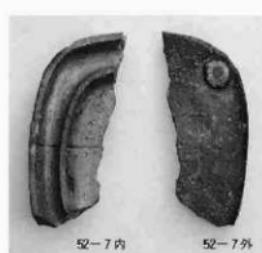
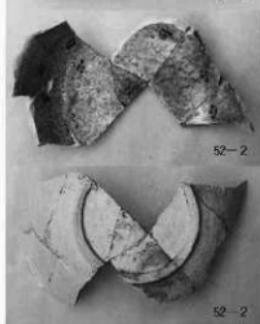
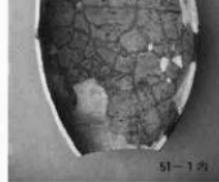
圖版26



図版27



圖版28



---

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第97集

中袋遺跡発掘調査報告書

2002年3月25日発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号  
電話 023-672-5301  
印刷 山形印刷株式会社

---